平成23年度　別府大学，立命館アジア太平洋大学，日本文理大学への開放可能科目一覧【全学共通科目・短プロ科目】

主題	授　業　科　目　名	担当教員名	分野	学期	曜	限	備考
Ⅰ	生涯学習論入門	岡田（高教）	社会	前	月	2	
Ⅰ	学習ボランティア入門	中川（高教）	総合	前	火	1	
Ⅰ	スポーツと生活	前田・岡内(工)	社会	前	水	1	
Ⅰ	心理学のお話	深尾（経）	人文	前	水	1	
Ⅰ	社会教育から見た「教育の協働」	中川（高教）	総合	前	水	3	
Ⅰ	根拠への問い	黒川（教）	人文	前	木	2	
Ⅰ	心理学概論	藤田・古城（教）	人文	前	金	2	
Ⅰ	大分大学を探ろう	市原・岡田・末本	人文	前	金	2	
Ⅰ	仕事と社会	石井（経）	社会	後	水	1	
Ⅰ	アカデミック・スキル―社会教育計画を題材に―	岡田（高教）	総合	後	水	1	
Ⅰ	大分の人と学問	大嶋　他	総合	後	水	3	
Ⅰ	成人教育方法入門	中川（高教）	社会	後	水	3	
Ⅰ	プロジェクト型学習入門	市原・岡田・末本	総合	後	金	2	
Ⅱ	古典文学講読	田畑（教）	人文	前	火	1	
Ⅱ	大分美術史概論	田中修（教）	人文	前	水	3	
Ⅱ	日本語の特徴	荻野（教）	人文	前	水	3	
Ⅱ	日本語はおもしろい	日高（教）	人文	後	火	1	
Ⅱ	いやしの音楽	田村・藤原志（教）	人文	後	水	2	
Ⅱ	漢文学の世界	牛尾（教）	人文	後	金	2	
Ⅲ	くらしの法律	宇野稔（経）	社会	前	月	2	
Ⅲ	社会調査実践論	永田（教）	社会	前	水	3	
Ⅲ	雇用と法	鈴木（経）	社会	前	木	2	
Ⅲ	家族と法	藤村（経）	総合	後	月	2	
Ⅲ	子どものこころの育ち	田中洋（教）	人文	後	月	2	
Ⅲ	教育の社会学	長谷川祐（教）	社会	後	水	3	
Ⅲ	現代の社会と教育	伊藤（教）	社会	後	金	2	
Ⅳ	経済成長における経済学の役割	宇野真（経）	社会	前	水	1	
Ⅳ	企業会計のしくみ	椛田（経）	社会	前	水	2	
Ⅳ	広告費と広告流通市場	田中（経）	社会	前	水	2	
Ⅳ	日常生活のリスクマネジメント	鴻上（経）	社会	前	木	2	
Ⅳ	経済学を学ぶ	高見（経）	社会	前	木	2	
Ⅳ	消費者と企業	松隈（経）	社会	後	水	2	
Ⅳ	企業経営と会計	加藤（経）	社会	後	水	2	
Ⅳ	会計と社会	中村（経）	社会	後	木	2	
Ⅳ	企業会計の基礎	大崎（経）	社会	後	木	2	
Ⅳ	経営学の基本問題	片山（経）	社会	後	木	2	
Ⅳ	経済と倫理	佐藤（経）	社会	後	木	2	
Ⅴ	基礎理論化学Ⅰ	大賀（工）	自然	前	月	1	
Ⅴ	微分法と数学	大野（教）	自然	前	月	2	
Ⅴ	生命観の変遷	牧野（高教）	自然	前	月	2	
Ⅴ	原子と分子	飯尾（工）	自然	前	月	4	
Ⅴ	自然とゆらぎ	山下（教）	自然	前	火	1	
Ⅴ	科学技術コミュニケーション入門	末本（高教）	総合	前	水	2	
Ⅴ	現代天文学とSETI	仲野（教）	自然	前	水	2	
Ⅴ	生命科学と社会	高濱（教）	総合	前	水	3	
Ⅴ	原子と分子	大賀（工）	自然	前	金	2	

Ⅴ	幾何学	家本（教）	自然	後	月	2	
Ⅴ	物質の状態と変化	大賀（工）	自然	後	月	4	
Ⅴ	身近な物理学	藤井（教）	自然	後	火	1	
Ⅴ	統計学入門	甲斐（経）	自然	後	水	1	
Ⅴ	パラサイトからみた生命	長谷川（医）	自然	後	水	2	
Ⅴ	科学技術コミュニケーションのデザインと実践	末本（高教）	総合	後	水	2	
Ⅴ	物質の状態と変化	飯尾（工）	自然	後	木	1	
Ⅴ	物理学への招待	近藤・長屋・小林（工）	自然	後	木	2	
Ⅴ	数学の世界	川嵜（教）	自然	後	金	2	
Ⅴ	数学入門	大隈（教）	自然	後	金	2	
Ⅴ	基礎理論化学Ⅱ	大賀（工）	自然	後	金	2	
Ⅵ	電気の世界Ⅱ	大久保利（工）	自然	前	月	2	
Ⅵ	建築環境計画	佐藤（誠），大鶴，真鍋，鈴木，小林，富来，姫野（工）	自然	前	火	1	
Ⅵ	建築構造工学	井上，菊池，佐藤（嘉），大谷，田中（工）	自然	前	火	1	
Ⅵ	情報科学の世界	伊藤（工）他	自然	前	水	1	
Ⅵ	食品材料概説	望月（教）	自然	前	水	1	
Ⅵ	エレクトロニクスの世界Ⅰ	益子・古賀・工藤（工）	自然	前	水	2	
Ⅵ	機械技術概論	佐久間（工）	自然	前	木	2	
Ⅵ	人間と被服	都甲（教）	人文	前	金	2	
Ⅵ	エネルギー科学	濱本・後藤・高坂（工）	自然	前	金	2	
Ⅵ	植物細胞工学	泉（教）	自然	前	金	2	
Ⅵ	電気の世界Ⅰ	榎園（工）	自然	後	月	2	
Ⅵ	機械と文明	後藤、他機械教員（工）	自然	後	水	1	
Ⅵ	エレクトロニクスの世界Ⅱ	厨川・佐藤・鍋島（工）	自然	後	水	2	
Ⅵ	情報科学の世界	伊藤（工）他	自然	後	金	2	
Ⅵ	教養としてのコンピュータ	谷野（教）	自然	後	金	2	
Ⅶ	福祉と工学技術	池内(工)	総合	前	水	1	
Ⅶ	カラダの見方・考え方	牧野（高教）	自然	後	月	2	
Ⅶ	ケアから導く創造力＝三好春樹の思想と方法	工藤（教）	総合	後	火	1	
Ⅶ	健康と看護	井上（医）他	総合	後	水	2	
Ⅶ	医科学入門	西園（医）他	総合	後	水	3	
Ⅷ	地域と財政	井田（経）	総合	前	月	2	
Ⅷ	江戸時代の日本と世界	鳥井（教）	人文	前	月	2	
Ⅷ	やさしいＥＵ入門	城戸（経）	人文	前	木	2	
Ⅷ	少子高齢化と地域福祉社会	奥田（経）	総合	後	水	1	
Ⅷ	ジェンダー論	根笈（教）	総合	後	水	3	
Ⅷ	マルチメディアとコミュニケーション	市原（教）	社会	後	水	3	
Ⅷ	現代国際政治と日本	鄭（教）	社会	後	木	2	
Ⅷ	地域社会へのまなざし	高島（経）	総合	後	木	2	
Ⅷ	電気も車もないアーミッシュ社会	丸山（経）	社会	後	金	2	

Ⅸ	大分の水Ⅰ	市原（経）他	総合	前	水	2	
Ⅸ	大分の水Ⅰ	市原（経）他	総合	前	水	2	
Ⅸ	化学物質と環境影響	吉岡（教）	総合	前	水	3	
Ⅸ	世界・日本・大分の農業経済論	山浦（経）	社会	前	金	2	
Ⅸ	里海と里山Ⅰ	市原（経）他	総合	前	集中	集中	
Ⅸ	環境と生物	永野（教）	自然	後	月	2	
Ⅸ	化学物質と環境影響	吉岡（教）	総合	後	火	1	
Ⅸ	交通からみた地域社会	大井（経）	社会	後	水	1	
Ⅸ	大分の水Ⅱ	市原（経）他	総合	後	水	2	
Ⅸ	大分の水Ⅱ	市原（経）他	総合	後	水	2	
Ⅸ	土地利用論	土居（教）	総合	後	水	3	
Ⅸ	里海と里山Ⅱ	市原（経）他	総合	後	集中	集中	
Ⅳ	食と農の地理学	大呂（経）	社会	前	水	1	
Ⅳ	財務諸表の読み方	越智（経）	社会	後	水	1	

短期留学プログラム（IPOU）科目	The Japanese News Media and Globalization　日本のﾆｭｰｽﾒﾃﾞｨｱとｸﾞﾛｰﾊﾞﾗｲｾﾞｰｼｮﾝ	南里（国セ）		前	月	2	
	Japanese Popular CultureB: Manga, Animation and Mass Media 日本ﾎﾟﾋﾟｭﾗｰ･ｶﾙﾁｬｰ論B:ﾏﾝｶﾞ･ｱﾆﾒ･ﾏｽﾒﾃﾞｨｱ	長池　（国セ）		前	火	3	
	Understanding Japanese Cybercultures	菅沼（国セ）		前	水	3	
	Intercultural Communication 異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	長池　（国セ）		前	水	4	
	Japanese Cultural Studies	菅沼（国セ）		前	木	3	
	The Politics and Economics of the EU ＥＵの政治経済	Stephen Day（経）		前	木	3	
	Japanese Grammar and Discourse 日本文法とディスコース	南里（国セ）		前	金	3	
	The Japanese News Media and Globalization　日本のﾆｭｰｽﾒﾃﾞｨｱとｸﾞﾛｰﾊﾞﾗｲｾﾞｰｼｮﾝ	南里（国セ）		後	月	2	
	Japanese Cultural Studies	菅沼（国セ）		後	火	4	
	Intercultural Communication 異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	長池　（国セ）		後	火	3	
	The Politics and Economics of Globalization グローバル化と政治経済	Stephen Day（経）		後	木	3	
	Understanding Japanese Cybercultures	菅沼（国セ）		後	木	4	
	Japanese Grammar and Discourse 日本文法とディスコース	南里（国セ）		後	金	3	

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
生涯学習論入門 (Introduction to the theory of Lifelong Learning)	全学共通科目 社会

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経	前期	月2	岡田　正彦 内 線 7647 E-mail　msokada@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

大学生という時期は、学校教育を中心とした受動的学習スタイルの最後の時期であり、「自己主導的学習」や「成人教育」に向け学習スタイルを自発的・積極的なものに転換すべき時期でもあります。しかし、一般的には、高校までと同じスタイルで学ぼうとし、卒業後は自主的に学べない人が多いのが実情です。この授業では、生涯学習の理論の基礎を知るとともに、自分の身近な生活（家庭生活や社会生活、学校での生活など）に生涯学習がどのように関わるのかを知り、自分がどのような学習を行っていくかについて展望を持ってもらいたいと思っています。

【具体的な到達目標】

・生涯学習に関する基本的事項を理解すること
・自らの生涯学習の展望を考えること
・生涯学習を行っていくために必要な態度や知識、技術などについて理解しその向上に取り組むこと

【授業の内容】

・これまでの自分の学習経験の評価と経験交流ＧＷ
・生涯学習のコンセプト
・生涯学習関連施策の動向
・生涯学習の推進と計画
・生涯学習と学習者（学習者としての自己評価ＧＷ）
・生涯学習と支援者・指導者（学習支援計画策定ＧＷ）
・生涯学習の機会
・生涯学習と学校
・生涯学習の内容
・生涯学習の方法・形態
・生涯学習情報の提供と学習相談

【時間外学習】

・診断的ポートフォリオの作成
・取り上げたトピックについてのレポートの作成

【教科書】

佐々木正治編著『生涯学習社会の構築』福村出版、2007年。

【参考書】

授業の中で紹介します。

【成績評価の方法及び評価割合】

授業中のライティング（30%）、グループワーク（30%）、レポート（40%）、により評価します。

【注意事項】

授業では、グループワーク（ＧＷ）や担当教員からの質問に対し、積極的に関与することが求められます。
遅刻や私語に対しては、厳しく対処します。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
学習ボランティア入門 (Introduction to Learning Volunteer)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・工	前期	火1	中川忠宣　岡田正彦 内 線 6027（中川）7647（岡田） E-mail nakagawa@cc.oita-u.ac.jp／msokada@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

現代社会において少子高齢化が進む中、青少年の健全育成や団塊世代・高齢者の地域貢献などの活動の推進が、教育及び福祉等の分野において大きな課題とされ、家庭や学校、地域住民等の相互の連携・協力を通した具体的な取り組みが推進されていますが、特にこの分野においては地域住民の積極的な関わりが求められています。そこで、こうした地域社会での活動について、自らが学んだ成果を、他の人々の学習や福祉活動に活用（支援・指導等）する学習ボランティアとして参加することを通して、地域社会への理解や自分自身のコミュニケーション能力・職業観などの学びを深めます。そのために、ボランティアに関する基礎知識と、自分が選んだボランティア活動体験を組み合わせて、ボランティアの意義について学びます。

【具体的な到達目標】

１．学習ボランティアの心得と社会的意義を説明できる。
２．ボランティア活動を通しての自分自身の変化や成長に気付き、ボランティア活動の大切さを説明できる。
３．今後のボランティア活動に関する自分自身の考え方を述べることができる。

【授業の内容】

１．生涯学習社会の形成のための学習ボランティアの意義を考えよう１
２．生涯学習社会の形成のための学習ボランティアの意義を考えよう２
３．自分にとってのボランティアの意義とボランティアの心得を考えよう
４．ボランティア活動計画を作ろう
５～１３：地域でのボランティア活動
①１３時間以上のボランティア活動を行う
②活動内容は、学校教育、社会教育、社会福祉の分野とする
③１～４の授業や時間外学習で計画した個人又はグループでの活動を自主的に行う
④活動報告書（別途様式）を作成する
１４．ボランティア活動報告を整理しよう
１５．ボランティア活動から学んだことを語り合おう

【時間外学習】

○県及び市町村等が主催する事業等の紹介を行うが、各自で自分にあった活動を見つけることが必要です。
○実際のボランティア活動は時間の制限等は明確でない場合があるので、積極的な参加をして欲しい。

【教科書】

○特定の教科書は使用しない。適宜、資料を提示する。「学習ボランティアノート」を配布する。

【参考書】

○参考書は適宜紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】

①「到達目標」に関する最終レポートによって、学習ボランティア経験によるボランティアの意義の理解や意識の変化を評価する。（５０％）
②活動報告書によって、ボランティア活動への積極的な参加度を評価する。（５０％）
③特別な理由以外での授業への欠席は基本的に認めない。特別な理由の場合は別途課題を与える。

【注意事項】

○ボランティアの趣旨から、ボランティア先との約束は信頼作りの基本中の基本です。同じように、授業への遅刻・欠席は信頼関係を損なうことになります。十分に承知した上での受講を望みます。
○活動に関しての条件（傷害保険等）をしっかり把握し、自分の責任とならない活動を計画してください。
○報償費を受けるもの（アルバイト的）は除きますが、交通費や食事代等は必要経費なので受領しても可です。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
スポーツと生活 (Sports and Life)	全学共通科目 社会

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・医・工	前期	水1	前田　寛，　岡内　優明 内 線 7720 E-mail　hmaeda@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

現代の私たちの日常生活では，特別に運動やスポーツを行わない限り，極端に身体活動が少なくなっている．また，社会生活においては仕事上のストレスや複雑な人間関係から来るストレスを乗り越えていかなければならない．近年，スポーツは多様化し競技スポーツだけでなくレクリエーショナルスポーツやアウトドアスポーツが広がっている．スポーツを行う効果として，ストレスの解消，生活習慣病予防，さらに円滑な人現関係の形成，自然環境への理解等が考えられる．スポーツを生活の中に取り入れることは，生活を豊かにし心身の健康を向上するために有用である．

本講義はスポーツや健康を多角的に捉えるとともに，スポーツを生活の中にとり入れる必要性とその方法等を中心課題とする．

【具体的な到達目標】

スポーツや身体運動を行うことの有用性やその効果を理解し，各自の生活の中で活かせるようになること。

【授業の内容】

1）ガイダンス，地球環境とライフスタイル
2）競技スポーツからアウトドアスポーツへ
3）グリーンツーリズム，自分の森を作ろう
4）自転車のある生活
5）豊かさとは・先住民族の暮らし
6）寝たきり老人を減らせ，アメリカのヘルシーピープル計画
7）カヌーと太平洋文化，地域の特性と自然派スポーツ活動
8）現代の生活と健康
9）筋肉
10）運動で体脂肪を燃焼させる
11）運動と栄養
12）体力トレーニングの理論と実際
13）老化と体力
14）食事と健康
15）まとめ

【時間外学習】

関連する資料・書籍を読んで，知識を深めておくこと

【教科書】

適宜資料を配付

【参考書】

前田　寛　他　自転車と健康（1999）　東京電機大学出版

【成績評価の方法及び評価割合】

小テスト60%・レポート等40%

【注意事項】

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
心理学のお話 (General Psychology)

区分・分野・コア
全学共通科目 人文

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・医・ 工	前期	水1	深尾　誠 内 線 7734 E-mail　mfukao@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
心理学で私が重要だと考えるキーワードの知識の獲得により、私たち人間の行動についての理解を深める。

【具体的な到達目標】
心理学重要キーワードに関する知識習得と人間行動理解

【授業の内容】
1. 模倣行動
2. 模倣行動
3. 模倣行動
4. 同調行動
5. 同調行動
6. 同調行動
7. 行動理論
8. 行動理論
9. 行動理論
10. 動機論
11. 動機論
12. 動機論
13. 思い込み形成
14. 思い込み形成
15. 思い込み形成

【時間外学習】

【教科書】
教科書は使用しない。資料を配付する。

【参考書】
参考書は適宜紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】
毎回の授業時に書いてもらうミニレポート(50%)、期末試験(50%)で評価する。

【注意事項】

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
社会教育から見た「教育の協働」 ("Collaboration in Education" as seen from Social Education's View)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・医・工	前期	水3	中川　忠宣 内 線 6027 E-mail　nakagawa@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

子どもを健全に育成するためには、家庭での基本的な教育の重要性と、学校・地域社会が相互に連携し、協働することが重要であると言われてきました。しかし、大人社会の変化や学校の閉鎖性、子育てに悩む親の増加及び連携の難しさ等から有効な施策が講じられていない状況です。こうした中、平成１８年の改正教育基本法、新大分県総合教育計画などにも教育の協働の重要性が明記されており、これから教育職を目指す者にとって重要となる「教育の協働」について、基礎的な演習をとおした理論研究や事例研究により、その方策と課題を学びます。

【具体的な到達目標】

１．「教育」に関わる各種法律や計画について、その制定の趣旨と内容を説明できる。
２．教育の協働に係る社会教育と学校教育の関係について説明できる。
３．社会教育からの学校教育へのアプローチによる「教育の協働」の取組みと方策を例示できる。
４．地域社会と学校の「ネットワーク」の構築方策について提案できる。

【授業の内容】

１．改正教育基本法から「教育」を考えてみよう
２．子どもの教育課題から「教育」を考えてみよう
３．社会教育と学校教育の接点を考えてみよう
４．社会教育法にみる学校との「教育の協働」を考えてみよう
５．社会教育法にみる家庭との「教育の協働」を考えてみよう
６．大分県の社会教育施策としての「教育の協働」を見てみよう
７．「教育の協働」に関する県民・教職員の意識を見てみよう
８．社会教育からのアプローチ①「地域からの学校支援」の事例研究
９．「地域からの学校支援」の効果と課題を考えよう
１０．社会教育からのアプローチ②学校からの地域支援の事例研究
１１．「学校からの地域支援」の効果と課題を考えよう
１２．グループ研究①社会教育からのアプローチの内容
１３．グループ研究②社会教育からのアプローチの方法
１４．グループ発表《「教育の協働」方策の提案》
１５．まとめ

【時間外学習】

○グループや各自で、「教育の協働」の取組をする自治体等での聞き取りや事業参加などから実際の成果や課題を調べる。
○授業外に市町村での体験研修の場を設定するので、自由参加ではあるが、具体的な理解のために積極的に参加して欲しい。

【教科書】

○特定の教科書は使用しない。適宜、資料を提示する。

【参考書】

○参考書は適宜紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】

①「到達目標」に関する最終レポートによって、教育課題の把握とその取組みについての理解及び時間外学習による深化と現実性を加味して評価する。（７０％）
②グループ発表の評価、時間毎のレポート、時間外学習によって評価する。（３０％）

【注意事項】

○到達目標ごとの整理が最後のレポート作成につながるので、充分に留意すること。
○時間外の学習については、別途様式で提出するよう指示します。

【備考】

○社会人への公開授業とします。

授業科目名（科目の英文名）
根拠への問い (Investigation into the reason for being)

区分・分野・コア
全学共通科目 人文

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1.2.3.4	経・工	前期	木2	黒川　勲 内 線 7525 E-mail kurokawa-isao@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

本授業は哲学・倫理学の導入となるものです。そのため、哲学的問題に対する認識を深めたうえで、西洋哲学の主要な思想内容について基本的な知識の習得を行います。

【具体的な到達目標】

1. 西洋哲学の主要な哲学者についての基礎的知識を習得する。
2. 人間の根本的な問題，そして現代に生起する社会事象に対する独特な哲学的眼差しを身につけることができる。
3. 授業や文献・資料の内容について重要事項や問題点を取り出すことができる。
4. 重要事項や問題点を複眼的に思考し，それらを自らの言葉で論理的に表現できる。

【授業の内容】

この講義では，西洋哲学の主要な哲学者の思想を講義します。さらに、「私」・「他人」・「世界」などのテーマについて哲学者の思想を手がかりとして，受講生が自ら考え，それをレポートとして表現します。授業テーマの構成は次の通りです。

Ⅰ. 根拠への問い（哲学とは何か）
Ⅱ. 西洋哲学史（西洋哲学の展開の軌跡）
1：古代ギリシャ哲学概論
2：自然哲学者達
3：ソクラテスとプラトン
4：キリスト教・中世哲学概論
5：デカルト（方法的懐疑）
6：デカルト（精神と物体）
7：ロック（タブラ・ラサ）
8：ロック（観念の種類）
Ⅲ. 人間存在（人間にかかわる問題とは何か）
1：「私」の問題
2：「他人」の問題
3：「世界」の問題

【時間外学習】

哲学は多くの学生諸君にとって馴染みのない学問だと思います。また，哲学・倫理学の問題意識，解決への思考，用語などを理解し修得するためには困難がともないます。そのため，講義中に紹介する参考書を利用して講義の前後に学習することを薦めます。特に授業内容に自ら考えるテーマを取り上げ，課題を出しますので真摯に取り組んで下さい

【教科書】

教科書は使用しません。

【参考書】

講義のさい参考文献一覧を配布します。

【成績評価の方法及び評価割合】

授業の内容のⅡ. 西洋哲学史について　及び　Ⅲ. 人間存在のテーマそれぞれについてレポートを課します。レポート1：50%，レポート2：50%を総合して評価します。

【注意事項】

なし

【備考】

受講生数によっては対話・演習形式の授業を行います。

授業科目名（科目の英文名）
心理学概論 (Psychology)

区分・分野・コア
全学共通科目 人文

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3, 4	教・経	前期	金2	藤田　敦・古城　和敬 内 線 7614 / 7610 E-mail　a-fujita@oita-u.ac.jp / kkojo@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

心理学は，「こころの科学」と言われる学問である。人間の行動の背後に「こころ」の存在を仮定し，客観的な手法を用いて，行動と心理の関係を説明しようと試みるものである。この講義では，この心理学の基本的な考え方と伝統的な研究知見について学ぶことをねらいとする。

【具体的な到達目標】

日常的な人間の行動を，経験的・直観的に解釈するのではなく，心理学的（科学的）な観点から，分析・考察できるようになるための基本的な知識を獲得する。

【授業の内容】

1　心理学とは何か
2　知覚する心の働き
3　認知する心の働き
4　欲求と行動の関係
5　感情の理論と心の病
6　学習と記憶の仕組み
7　記憶と思考の関係
8　子どもの心の発達
9　青年の心の特徴
10　性格と心理テスト
11　知能と創造性
12　精神病理とカウンセリング
13　対人行動の心理
14　集団行動の心理
15　リーダーシップの心理
16　期末テスト

【時間外学習】

講義時に課題を提示する。

【教科書】

あなたのこころを科学するVer.3（北大路書房）

【参考書】

講義時に紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】

期末テスト（筆記試験）70%，平常課題（小レポート等）30%

【注意事項】

なし

【備考】

すでに全学共通科目「くらしの心理学」、あるいは、教育福祉科学部専門科目「心理学概論」の単位を取得している学生は、本科目を受講することはできない。

授業科目名（科目の英文名）
大分大学を探ろう (Let's find and discuss our university)

区分・分野・コア
全学共通科目 人文

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経	前期	金2	市原宏一、岡田正彦、末本哲雄 内 線 7719（市原） E-mail ich@oita-u.ac.jp（市原）

【授業のねらい】

「自由なのは不自由ですね」今年卒業した学生の言葉です。大学の授業、とりわけ教養教育は、高校までとは異なり、学生の側にかなりの選択の自由があります。しかし、なにを選択したらいいかをはじめ、学生の皆さんにはとまどいも多いと思います。この授業のねらいは、学生の視点から、大分大学の授業・教育のあり方について、意見や疑問をだしあい、改善方策を考えようというものです。分大の特徴はどんなところにあるのか、問題点を見つけ、改善策を検討し、その魅力をさらに伸ばすにはどうするべきか、教員も含め、互いに助言しながら、考えてみましょう。

【具体的な到達目標】

ここでは、グループ学習、ディスカッション、レポート作成、発表・プレゼンテーションなどにより、課題発見と解決方策の検討を含む、基盤的な学習方法の習得をめざします。

【授業の内容】

1 授業ガイダンス
2 大分大学の歴史
3 学生教職員共同教育改善①「きっちょむフォーラム」の取組み
4 「学生との意見交換会」の取組み
5 他大学における学生参加の取組み
6〜8 学生教職員共同教育改善シンポジウム報告にむけた取組：グループ活動
9〜11 シンポジウムを受けての修正・改善
12 中間報告会
13〜14 最終報告に向けた修正・改善
15 最終全体報告会

【時間外学習】

授業以外の時間帯にも、グループ毎の中間報告、あるいは全体としての発表に向けた準備を行います。秋に行われる予定の大分大学「学生教職員共同教育改善シンポジウム」の企画や実施にも参加し、授業での検討してきた事柄を発表、提案します。

【教科書】

特にありませんが、講義中に資料を配付

【参考書】

【成績評価の方法及び評価割合】

グループ・レポートの作成分担内容とその発表・報告（70%）、レポート（30%）

【注意事項】

11月予定の大分大学「きっちょむフォーラム・学生教職員共同教育改善シンポジウム」に参加し、授業での検討してきた事柄を発表、提案します。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
仕事と社会 (Trade and Society)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・医・工	後期	水1	石井　まこと 内 線 7698 E-mail　mak@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

仕事の世界が揺らいでいます。親の世代が達成してきた成功ルートを辿る事が難しく、今後、我々が選択できる仕事は大きく変容していくことになってきています。この講義ではこうした雇用中心社会に変容が起きる要因について歴史の流れを追いながら理解してもらいます。その上で、非正規雇用や派遣労働問題あるいは福祉現場での低賃金労働といった現代労働問題の解決の緒（いとぐち）を探っていきます。

【具体的な到達目標】

現代日本社会で起きている雇用問題について、幅広い視野から考えることができるようになることを目標としています。
具合的には、以下のような問題について論じることができるようになってもらいたいと考えています。
・賃金はどうやって決まるか。
・労働時間はなぜ長くなるのか。
・非正規労働はなぜ増えるのか。
・能力は正しく評価されるのか。
・生産性向上は仕事と生活を豊かにするのか。
・働かないという選択肢はあるのか。

【授業の内容】

第１回　ガイダンス
第２回　雇用社会と産業発展
第３回　仕事と日本人
第４回　仕事社会の変化（１）
第５回　仕事社会の変化（２）
第６回　ホワイトカラーの生産性向上
第７回　自動車製造業における生産性向上
第８回　電気機器製造業における生産性向上
第９回　流通業における生産性向上
第10回　労働組合の役割
第11回　人事管理の役割
第12回　技術革新と仕事の変化
第13回　キャリアラダー戦略
第14回　福祉社会と仕事
第15回　地域における仕事の変化

【時間外学習】

途中で課題レポートを作成してもらいます。評価は期末試験に加算されます。課題レポートは指定書に対してのレポートになりますので、読書とレポート作成の時間が必要になります。また、講義中に紹介する参考書等の読書の時間もとってもらいます。

【教科書】

レジュメを毎回用意しますが、下記書をサブテキストとして利用します。石井まこと・兵頭淳史・鬼丸朋子（2010）『現代労働問題分析』法律文化社。

【参考書】

武田晴人（2008）『仕事と日本人』ちくま新書
中村圭介・石田光男（2005）『ホワイトカラーの仕事と成果』東洋経済新報社
Ｊ．フィッツジェラルド（2008）『キャリアラダーとは何か』勁草書房

【成績評価の方法及び評価割合】

課題レポート30%、期末試験70%。レポートは必ず出してもらいます。

【注意事項】

【備考】

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
アカデミックスキル入門ー社会教育計画を題材にー (Introduction to Academic Skills)	全学共通科目 総合

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・医・工	後期	水1	岡田　正彦 内 線 7647 E-mail　msokada@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

アカデミックスキルとは、大学などで学ぶために必要となる様々な技能を指します。具体的には、様々な情報を論理的に理解し、分析や総合により考察し、その結果を他者に効果的に示すといった一連のプロセスに関わる様々なスキルを含み、周囲の人々と良好なコミュニケーションをとることも必要となります。本授業では、社会教育計画を題材とし、調査法や社会教育計画の分析を通して、情報を読み取り、考え、示すスキルのブラッシュ・アップを図ります。

【具体的な到達目標】

1）提示された資料等の情報を正確に読み取り、考察し、改善案を提示することができる
2）質問紙の設計と作成ができる
3）社会教育計画を分析し、その問題点を析出して改善案を提示することができる

【授業の内容】

1）オリエンテーション（アカデミックスキルとは何か、社会教育計画とは何か。アカデミックスキルに関する診断的ポートフォリオの作成）
2）社会教育調査の分析１（社会教育調査の概要を説明し、調査分析の始点を示す。講義）
3）社会教育調査の分析２（既存の調査を分析し、問題点を析出する。個人ワーク）
4）社会教育調査の分析３（調査の改善案を作成し、発表・相互評価を行う。グループワーク）
5）社会教育調査の設計１（社会教育調査を設計する際に必要な検討点を概説する。講義）
6）社会教育調査の設計２（調査目的を設定し、調査構造図の作成と調査項目の検討を行う。グループワーク）
7）社会教育調査の設計３（作成した調査項目案に基づき、ワーディングや回答方法の決定などを行い、具体的な調査票を作成する。グループワーク）
8）社会教育調査の設計４（作成した調査票を発表し、相互評価する。グループワーク）
9）社会教育計画の概要（社会教育計画の目的・構造等について概説する。講義）
10）社会教育計画の分析１（既存の中長期社会教育計画を題材とし、計画の構造について評価を行う。個人ワーク）
11）社会教育計画の分析２（既存の中長期社会教育計画を題材とし、計画文言について評価を行う。個人ワーク）
12）社会教育計画の分析３（既存の単年度社会教育計画を題材とし、計画の構造について評価を行う。グループワーク）
13）社会教育計画の分析４（既存の単年度社会教育計画を題材とし、計画文言について評価を行う。グループワーク）
14）まとめ（アカデミックスキルの展望。自分のアカデミックスキルに関する評価的ポートフォリオの作成と今後の学習計画の策定）

【時間外学習】

授業時間中に終わらない個人ワーク、グループワークは時間外学習となる。使用するテキストは概説にとどめるので、個人ワーク・グループワークでのパフォーマンスを向上させるためには時間外学習が必要である。

【教科書】

鈴木眞理・清國祐二編著『社会教育計画の基礎』学文社、2004年。

【参考書】

授業の中で紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】

個人ワーク、グループワークでの提出物により評価する。

【注意事項】

授業の多くの部分は演習となり、個人あるいはグループで積極的に課題に取り組むことが求められます。
グループワークでは他のメンバーと積極的にコミュニケーションをとり、効果的にグループワークを進めることに貢献することが求められます。
遅刻や私語には厳しく対応します。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
大分の人と学問 (Introduction to Various studies Relating to Oita)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・ 医・工	後期	水3	大嶋 誠(教育担当理事)、岡田 正彦(高等教育開発センター)他 内 線 7647（岡田） E-mail hecenter@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

皆さんは自分の専攻分野のほかに、学問にいかなる分野があるかを知っていますか？本授業の目的は、大分大学をはじめとする県内7大学・高専の先生方から、大分の地に根ざしたいろいろな学問分野の紹介をいただき、各分野の理解を深めることにあります。幅広い学問分野の一端に触れるとともに、大分という地域の特色に関連した様々な研究のアプローチを学びます。このことで、学問においてどのようにテーマを設定し追求するかという研究のプロセスについて考えることができると思います。

なお、本授業は大分県内の8大学が参加して企画・実施するもので、本学の受講生は対面授業、他の7大学の受講生はビデオ視聴による授業となります。

【具体的な到達目標】

①講義を通して、いろいろな学問分野を学び、理解を深める。
②講義を通して、大分に対する理解を深め、大分の特徴や課題を第三者に説明することができる。
③レポート提出を通して、自分自身の考えを論理的に表現することができる。

【授業の内容】

この授業は、「とよのまなびコンソーシアムおおいた」が実施する共同教育プログラムであり、各回の授業はコンソーシアム参加の各校から選出された教員によってオムニバス形式で行われます。

各回の授業内容については、まだコンソーシアムでの検討が行われておらず未定です。後期の授業開始前の時点で（9月中旬頃）確定版の授業内容を各校にお知らせしますので、この授業の受講希望者は、必ず確定版のシラバスを各大学の教務担当係で確認の上受講を申し込むようにしてください。

＜参考＞昨年度の各回の講義テーマ（今年度の変更の程度は未定）
「「関あじ・さば」を科学する」
「竹の研究①」「竹の研究②」
「三浦梅園について」
「国際交流について」
「現代の経済問題」
「医学研究の現状」
「おおいた過疎地域を元気にする産学連携―柚子の抗アレルギー能について」
「地域の教育問題に挑む」
「農学の先達：大蔵永常」
「天然の奇士・前野良沢と『解体新書』」など

【時間外学習】

各回の授業に対してミニレポートの提出を求めます。学期全体を通して1回の課題レポート（1200字程度）の提出を求めます。

【教科書】

特にありませんが、それぞれの講義の中で資料を提示、または配付します。

【参考書】

それぞれの授業の中で紹介することがあります。

【成績評価の方法及び評価割合】

①授業毎のミニレポート70%、課題レポート30%の総合評価になります。
②ミニレポートと課題レポートの提出は、締切を厳守してください。評価できない場合があります。
③ミニレポートの未提出が5回以上となった時点で、単位認定が不可となります。また、課題レポートを提出しなかった場合も、単位認定ができません。

【注意事項】

①本授業では、大分大学生は対面型授業で受講します。大分大学以外の学生には、大分大学で収録された授業のビデオをインターネットを使って配信します。自宅（下宿）からの受講には、ブロードバンド接続されたPCが必要です。学内でのオンデマンド受講にあたってはヘッドホンが必要です。
②授業をビデオ受講される場合は、レポート提出なども全てパソコン上で行います。PCのメールやWordなどのワープロソフトの操作方法が全く分からない学生には向きません。
③その他授業の詳細については、各大学の教務担当係に問い合わせてください。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
成人教育方法入門 (Introduction to Adult Education Method)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・医・工	後期	水3	中川　忠宣 内 線 6027 E-mail　nakagawa@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

現代社会は、高齢者や団塊世代の社会参加促進のための学び直し、家庭教育力や地域社会の教育力の向上、学校と地域社会の教育の協働の推進などの多くの課題を抱えています。大人の地域づくりへの参画のために様々な学習会や研修会等が実施されていますが、それらが効果的に運営され、「学習」が「活動」に繋がるような教育手法が重要です。

そこで、各種調査の活用や事例研究等を「学習」にどう生かすか、「学習」したことを今後の活動にどう生かすかなどは成人グループのリーダーとして重要であり、この授業では「リーダー育成研修」を企画・リードするファシリテーターに関する学習をとおして、成人に対する教育方法を学びます。

【具体的な到達目標】

１．地域社会の課題に積極的に対応する成人を育成するための会議・研修等に必要な条件を例示できる。
２．成人教育の企画・構成・運営の手法を理解し、具体的なプログラムを作成することができる。
３．会議・研修の運営に必要なファシリテーターの役割について例示できる。

【授業の内容】

１．成人教育って何？
２．成人教育の重要性と成人教育の方策を考えよう
３．地域社会で取り組むべき課題を見つけよう
４．グループ研究①地域課題へ取り組むための活動企画づくり
５．成人教育の方法を学ぼう
６．成人教育のためのファシリテーターの役割を見てみよう
７～１０
　成人教育の実際（11月19日〈土〉キャリア教育コーディネーター研修への参加）
１１．グループ研究②課題解決のための企画を練り直そう
１２．グループ研究③課題解決のための企画の情報交換
１３．グループ研究④課題解決のための企画を練り直そう
１４．グループ発表「地域課題解決のための企画発表」
１５．成人教育の方策のまとめ

【時間外学習】

○県及び市町村等が主催する成人教育の研修会等を紹介するので、積極的に参加して具体的な場面をとおして、会議や研修のあり方を学び、グループ研究やレポートに生かして欲しい。

【教科書】

○特定の教科書は使用ません。適宜、資料を提示します。

【参考書】

○参考書は適宜紹介します。

【成績評価の方法及び評価割合】

① 到達目標」に関する最終レポートによって、社会教育における成人教育の方法についての具体的なプログラムを提案し、企画・構成・運営等の方法の理解度を評価する。（４０％）
② ループ研究・発表の評価、時間毎のレポート、時間外学習によって評価する。（６０％）

【注意事項】

○１１月１９日（土）に実施する社会人との合同授業「キャリア教育コーディネーター研修」（９：００～１６：２０）は１５時間の中の４時間なので、この授業を受講できることが必要です。
○１１～１４時限は一連の流れですから、ここでの学習が直接レポートに生かされるように留意すること。
○時間外の学習については、別途様式で提出するよう指示します。

【備考】

○社会人への公開授業とします。

授業科目名（科目の英文名）
プロジェクト型学習入門 (Introduction to Project-based Learning)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経	後期	金2	市原宏一、岡田正彦、末本哲雄 内 線 7719（市原） E-mail ich@oita-u.ac.jp（市原）

【授業のねらい】
本授業は、自ら企画したプロジェクトへの参加を通して学習を進め、自分自身の経験を今後の学習のリソース（資源）として活用できるようにする力をつけることが目的です。

【具体的な到達目標】
(1) プロジェクトへの参加を通して、問題発見、目標設定、目標達成などのスキルを身につけることができる。
(2) 自分自身の参加体験内容を、参加していない第三者に対して説得的に説明することができる。

【授業の内容】
(01) オリエンテーション（授業目的、授業趣旨の説明）
(02) 学習を科学する1（学ぶとはどういう営みなのか。学習を支援することは可能か。学びの理論）
(03)～(04) 大学での学び方～過去・現在・未来～
(05) プロジェクトマネジメントの基礎（今後の方針の作成）
(06)～(08) プロジェクト1（グループ学習等）
(09) 中期達成報告会
(10)～(13) プロジェクト2（グループ学習等）
(14) プロジェクト発表会
(15) 学習を科学する2（経験をいかに学びに変換するか。経験からの学習。理論からの学習）
授業内容や順序等は、履修者数によって異なる場合があります。

【時間外学習】
プロジェクト遂行にあたっては、授業外での活動が必須となります。グループもしくは個人で活動を行います。

【教科書】
ありません。講義中に資料として配付します。

【参考書】
講義において提示します。

【成績評価の方法及び評価割合】
プロジェクトの遂行と報告７０%、学期末レポート３０%

【注意事項】
本授業は、「きっちょむフォーラム」（学生教職員合同の授業改善に関する催し）で、学生が提案した内容の一部を具体化したものです。実験的な授業です。受け身の学生には向いていません。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
古典文学講読 (Reading of Japanese Classics)

区分・分野・コア
全学共通科目 人文

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・工	前	火1	田畑　千秋 内線 E-mail

【授業のねらい】
長い年月を経ても色あせず、多くの読者を有している日本古典文学を読み解いていく。
今期は、中世小説ともいわれる御伽草子をていねいに読むことによって、その時代のユーモアや思想、社会的背景も探っていく。古典文学のおもしろさを味わっていきたい。

【具体的な到達目標】
日本古典文学のリズムを修得し、すらすらと朗読ができるようにする。
講義で扱う作品の現代語訳ができるようになる。
古典文学解読に必要な基礎知識、語彙、文法事項を修得する。

【授業の内容】
１、御伽草子の概説
２、『浦島太郎』解説
３、『浦島太郎』音読、重要語彙、現代語訳（１）
４、『浦島太郎』音読、重要語彙、現代語訳（２）
５、『浦島太郎』音読、重要語彙、現代語訳（３）
６、『浦島太郎』音読、重要語彙、現代語訳（４）
７、『浦島太郎』音読、重要語彙、現代語訳（５）
８、『ものくさ太郎』解説
９、『ものくさ太郎』音読、重要語彙、現代語訳（１）
１０、『ものくさ太郎』音読、重要語彙、現代語訳（２）
１１、『ものくさ太郎』音読、重要語彙、現代語訳（３）
１２、『ものくさ太郎』音読、重要語彙、現代語訳（４）
１３、『ものくさ太郎』音読、重要語彙、現代語訳（５）
１４、『ものくさ太郎』音読、重要語彙、現代語訳（６）
１５、『ものくさ太郎』音読、重要語彙、現代語訳（７）
１６、試験

【時間外学習】
古典文学を読むためには、古語の習得も必要なので、必ず辞典を引いて講義にのぞむこと。
あつかう御伽草子は『浦島太郎』、『ものくさ太郎』等を予定している。

【教科書】
受講生にはプリントを配布する。

【参考書】
岩波書店発行、日本古典文学大系『御伽草子』等。

【成績評価の方法及び評価割合】
期末試験および講義中の小テスト等。

【注意事項】
出席して直接受講するのは、受講生の権利であると同時に、義務でもある。

【備考】
古語辞典を必ず持参のこと。

授業科目名（科目の英文名）
大分美術史概論 （Introduction to the Art History of Oita）

区分・分野・コア
全学共通科目 人文

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・ 医・工	前期	水3	田中　修二 内 線 7596 E-mail　tnkshj@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
大分における美術の歴史的な流れを、先史時代から現代にいたるまで概観する。私たちの身近にある豊かな造形表現に目を向けることで、美術に親しむきっかけを作るとともに、歴史を語るという行為の構造にも関心を持ってもらえることを目指す。

【具体的な到達目標】
1)　大分における美術の歴史の流れを知る
2)　造形表現におけるさまざまな素材・技法を知る
3)　歴史を語ることについての問題意識を持つ

【授業の内容】
1. オリエンテーション：「美術史」の性格
2. 「大分」とはなにか
3. 石の造形と土の造形
4. 古墳と石人
5. 仏教の伝来と浸透
6. 石仏
7. 雪舟と大分
8. 茶の湯の世界
9. 南蛮美術
10. 文化のネットワーク
11. 田能村竹田と豊後南画
12. 渡辺長男と朝倉文夫
13. 福田平八郎と大分の日本画
14. 石橋と鰻絵
15. 近現代美術の諸相
16. 試験

【時間外学習】
大分県内はもとより、さまざまな地域の美術について関心を持ち、美術館などに積極的に出かけて、美術作品を実際に鑑賞してください。

【教科書】
特になし

【参考書】
授業中に指示する

【成績評価の方法及び評価割合】
期末試験100%（ただし出席および課題等の条件を満たした者のみ試験を受けることができる）

【注意事項】
1〜2回、それぞれ課題を出して、授業時間外（休日など）に各自で大分市美術館あるいは大分県立芸術会館の展覧会を見学してもらう。原則としていかなる理由があっても、それができなかったときは成績を不可とする。

【備考】
美術や歴史について関心を持つ学生の受講を勧める。「注意事項」にあるとおり、授業時間外の課題があるので注意すること。

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
日本語の特徴 (The features of the Japanese language)	全学共通科目 人文

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・医・工	前期	水3	荻野 千砂子 内 線 7536 E-mail c-ogino@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
文法を中心に日本語の特徴を理解することを目的とする。
どんな言語にも「法則」があることを知り、日本語を一つの「言語」として相対的に捉えたい。なお、テキストを必ず購入することとする(1500円)。原則、毎回宿題を課す。

【具体的な到達目標】
・自分が話す日本語が分析できるようになる。

【授業の内容】
1 日本語の文法的性質
2 主語と敬語
3 敬語のしくみ
4 言語と思考
5 移動の動詞
6 結果の動詞
7 行為の動詞
8 スルとナル
9 意味のとらえかた
10 新語の法則
11 語構成
12 方言の文法
13 琉球方言
14 音声のしくみ（1）
15 音声のしくみ（2）
16 期末試験（持ち込み不可）

【時間外学習】
・テキストを読んで予習すること。
・宿題を毎回すること。
・レポートを提出すること。

【教科書】
影山太郎(2002)『ケジメのない日本語』岩波新書

【参考書】

【成績評価の方法及び評価割合】
出席を重視して、レポート提出20%、期末試験80%で評価する。

【注意事項】

【備考】

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
日本語はおもしろい (How interesting the Japanese language is !)	全学共通科目 人文

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1・2 3・4	教・工	後期	火1	日高貢一郎 内 線 7534 E-mail hidaka@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

私たちは毎日「ことば」を使って暮らしている。しかし、その「ことば」についてじっくり考える機会は案外少ないのではないだろうか。

この時間は、現代の日本語の中から興味深い事例を取り上げ、その多彩で多様な実態に注目し、いま私たちの目の前で生きて動いている現状について理解を深める。

その作業を通して、ことばについての関心をさらに高めることをねらいとする。

【具体的な到達目標】

自分がふだん使っていることばを正確に「内省（ないせい）」できるようになりたい。「内省」とは、そのことばを自分が、どういうときに、どういう意味で、どういうふうに使っているかをふり返って、正確に把握することを言う。

また、多様な姿を見せている現代の日本語だが、自分はそれについてどう考え、どう対応しようとするのか、各自の「言語観」を育てるきっかけとしたい。

【授業の内容】

現代の日本語の中でも、世代や地域により、また人によって異なった使い方をされている興味深い事例を取り上げて、毎回、最初に数問ずつ受講者にアンケート調査を行う。その結果を元に、『国語辞典』ではどうなっているか、また影響の大きいマスコミ（その代表としてNHKの場合）ではどうしているかを参考にしながら、全員で考えていく。

「ことわざ、慣用句、漢字の表記、若者ことば、歌の歌詞、外来語、敬語、…」などを取り上げて考察する予定である。

【時間外学習】

ラジオやテレビ、新聞や雑誌などをはじめ、私たちの身のまわりで使われていることばに注目し、どういう言い方・書き方・使い方がされているか、日頃から関心を持つよう心がけてほしい。

【教科書】

『NHKことばのハンドブック』第2版（NHK放送文化研究所編、NHK出版）

【参考書】

必要に応じて、適宜、プリントや参考資料などを配布する。

【成績評価の方法及び評価割合】

出席状況を重視する。（欠席は公欠等を含んで最大3回までとするので、十分注意すること）

学期末試験の結果をベースに、日頃の出席状況、受講状況などを加味しながら、総合的に評価する。

【注意事項】

『国語辞典』ではどういう扱いをしているかを参照しながら授業を進めるので、毎回必ず『国語辞典』（各自がすでに持っているものでよい。電子辞書も可）を持参すること。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
いやしの音楽 (Healing Music)

区分・分野・コア
全学共通科目 人文

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・ 医・工	後期	水2	田村洋彦（教）／藤原志帆（教） 内 線 7615（田村） E-mail htamura@cc.oita-u.ac.jp（田村）

【授業のねらい】

近年、いやしの音楽への関心は非常に高まっている。さらに、音楽療法などが普及し、音楽のいやしの力は科学的にも解明されつつある。本講義では、こうしたいやしの音楽の魅力に、理論と実践の両面からアプローチする。講義の前半では、生活空間、病院などにおける音楽と人間の関わりを分析し、人間が音楽にどのようにいやされているのかを考える。後半では、いやしの音楽を実際に作・編曲してみることによって、いやしの音楽への理解を深める。

【具体的な到達目標】

1. 特定の場面について、人間が音楽にどのようにいやされているのかを説明することができる。
2. コンピュータを用いて、いやしの音楽を作・編曲するための理論・技法を身につける。

【授業の内容】

1. ガイダンス
2. 生活空間における音楽と人間の関わり
3. 演奏会における音楽と人間の関わり
4. 病院における音楽と人間の関わり
5. 療育施設における音楽と人間の関わり
6. グループ討論(1)：テーマ設定と考察
7. グループ討論(2)：考察と発表準備
8. 発表
9. いやしの音楽に使用される音（旋法）
10. いやしの音楽に使用される和音
11. いやしの音楽に使用されるリズムなど
12. いやしの音楽鑑賞
13. いやしの音楽作・編曲のための理論
14. いやしの音楽簡易編曲法-ミュージックソフトを使用して-
15. いやしの音楽簡易作曲法-ミュージックソフトを使用して-

【時間外学習】

適宜指示する。

【教科書】

適宜資料を配付する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】

平常点（授業における課題など）40%、レポート60%

【注意事項】

出席回数について、次の2つを満たしておくことを評価の前提とする。
1. 全体の講義について10回以上の出席
2. 各教員の講義について4回以上の出席

【備考】

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
漢文学の世界 (The world of chinese literature)	全学共通科目 人文

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経	後期	金2	牛尾　弘孝 内 線 ７５３２ E-mail

【授業のねらい】
中国の怪異小説を漢文でよむ。

【具体的な到達目標】
１古典漢文の世界を味わうことができる。
２中国文学がいかに日本文学に与えたかを深く認識できる。
３漢文訓読の語法を理解することができる。

【授業の内容】
１　２　中国文学の特色
３　４　５　中国小説史概説
６　７　８　「離魂記」講読
９　１０　１１　１２　１３　「杜子春伝」講読
１４　１５　芥川龍之介の「杜子春」との比較分析
１６　定期試験

【時間外学習】
開講時に説明する。

【教科書】
『中国志怪・伝記選』（武蔵野書院）

【参考書】
そのつど紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】
試験１００％

【注意事項】
礼を以て始まり、礼を以て終わる。

【備考】
前の時間の復習（漢文訓読）をする。

授業科目名（科目の英文名）
くらしの法律 (Law about Our Life)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経	前期	月2	宇野　稔 内線 E-mail　unomino@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

高校卒業までの12年間に，皆さんは実に多くのことを学んだとしても，生活者として絶対に身につけておくべき法律知識はほとんど学んでいない。そのため，思わぬ，契約や自動車事故等をめぐるトラブルに巻き込まれてしまい，苦しむことになりかねない。そのような不幸を避けるために，換言すると，転ばぬ先の杖として，受講者に，生活者に絶対必要な法律知識を身に付けて頂くことを目的としてこの講義を行う。

【具体的な到達目標】

生活者に絶対必要な法律知識を身に付けて頂くこと。

【授業の内容】

１．法とは何か
２．法律上の責任の種類
３．刑事責任
４．民事責任
５．行政上の責任
６．契約責任
７．不法行為責任
８．法的人格の独立性～親子・夫婦等の財産関係～
９．相続
１０．サラ金・商工ローン
１１．訪問販売・マルチ販売等
１２．クレジット契約
１３．自動車事故
１４．ＰＬ法
１５．その他

を可能な限り理解しやすいように講義する。

【時間外学習】

時々宿題を出す。

【教科書】

レジメを配布するので，テキストは使用しない。

【参考書】

講義中に適宜紹介していく

【成績評価の方法及び評価割合】

学期末試験（100点）のみで評価する。

【注意事項】

連続して出席してもらいたい。そうすれば必ず講義は理解できる。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
社会調査実践論 (Practicum in Social studies)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・医・工	前期	水3	永田忠道 内 線 7546 E-mail

【授業のねらい】
現在，初等中等教育の学校現場では，机上だけでの学習や勉強が問題視されている。この傾向は高等教育においても同様の課題である。例えば，初等中等教育学校では，生活科や社会科，総合的な学習の時間等々において，ますます実際の社会を調査したり，経験したり，体験したりする機会が設けられつつある。それにもかかわらず将来的に教員になる可能性のある高等教育機関所属の学生は概ね現実の社会を分析的に経験する機会は乏しい。本講義では，実際に様々な社会調査を実践して，その経験や体験を分析的に検討することを目的とする。

【具体的な到達目標】
1. 社会の様々な諸問題についての課題意識を持つことができる。
2. 社会の様々な諸問題についての課題追究に意欲的に取り組むことができる。
3. 課題追究のための複数回の社会調査に際して協同的な事前調査や事前準備に取り組むことができる。
4. 実際の社会調査に協同的に取り組むことができる。
5. 社会調査後の経験や体験を分析的に検討して複数回の発表を行い報告書が作成できる。

【授業の内容】
1. ガイダンス
2. 生活科における社会調査
3. 社会科における社会調査
4. 総合的な学習の時間における社会調査
5. 社会調査テーマ選定会議
6. 社会調査1事前準備
7. 社会調査1実践
8. 社会調査1分析
9. 社会調査1発表会
10. 社会調査2事前準備
11. 社会調査2実践
12. 社会調査2分析
13. 社会調査2発表会
14. 社会調査報告書作成1
15. 社会調査報告書作成2

【時間外学習】
・文献や新聞等々により身近な社会問題の諸情報を把握しておくこと。
・講義の性格上，受講者と相談の上，通常の講義時間帯以外に調査の実施もありうる。

【教科書】
特に指定はしない。ただし講義の中で各種新書等の紹介を行う。

【参考書】
特に指定はしない。ただし講義の中で各種新書等の紹介を行う。

【成績評価の方法及び評価割合】
講義時課題30%　中間・最終課題報告書40%　発表30%

【注意事項】
・講義の性格上，受講者個人とグループでの協同的な調査や発表を実施する。

【備考】
特になし

授業科目名（科目の英文名）
雇用と法 (Employment and Labor Law)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	経・工	前期	木2	鈴木芳明 内 線 7692 E-mail ysuzuki@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

「雇用と法」というテーマのもとに，労働法の世界を鳥瞰する。労働法は，労基法や労組法等をはじめとする法令と，労働関係のなかで生じるトラブルを解決するためのルールから成るが，この授業は，最近の雇用社会の情況の変化を踏まえ，労働法の全体像と体系をできるだけ簡潔に，かつわかりやすく説明することによって，労働法の基礎知識を修得させることをねらいとする。

【具体的な到達目標】

社会人として備えておくべき労働法の基礎知識の修得をめざす。

【授業の内容】

1. 総論
2. 雇用平等
3. 雇用関係の成立
4. 人事
5. 賃金
6. 労働時間・休日・休暇
7. 就業規則・懲戒
8. 労働災害
9. 労働条件の変更
10. 雇用関係の終了
11. 非典型雇用労働者
12. 労働組合の結成と活動
13. 労使紛争の解決
14. 少子高齢社会と雇用政策
15. まとめ

【時間外学習】

必要に応じてレポートの提出を求める。

【教科書】

安枝英訷＝西村健一郎『労働法〔第10版〕』（有斐閣，2009年）

【参考書】

日本労働法学会編『講座21世紀の労働法』全８巻（有斐閣，2000年）

【成績評価の方法及び評価割合】

平常点（40%）と試験の結果（60%）を総合的に評価して判定する。

【注意事項】

六法全書を準備のこと。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
家族と法 (Family and Law)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経	後期	月2	藤村　賢訓 内 線 7703 E-mail　masa-f@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
私たちは誰もが家族とのかかわりをもっているが、制度としての家族のありかたは、社会や人々の意識の変化に伴って変化していく。その意味で、家族の担い手となる個々人がどのような家族を営もうとするのかが重要となる。とりわけ、これから家族を形成することになる世代の人たちが家族に関わる法・制度について知ることは大切なことといえよう。この講義では、そのような視点から、１人１人の生き方に深く関わる家族についての法・制度の歴史及び現代的な課題を学ぶことにする。

【具体的な到達目標】
１）家族法の沿革についての理解する。２）今問題となっている家族法改正問題（夫婦別姓など）についての理解する。３）少子高齢社会に対応する家族に関わる政策がどのように展開されているかについて理解する。４）生殖補助医療の急速な進展と性や婚姻に関する意識の変化が、今後の家族のあり方にどのような影響を及ぼすかについて考える。

【授業の内容】
1. はじめに：家族法の意義と日本の近代における歴史的展開及び現代家族法について
2. 家族法改正問題について：夫婦別姓・離婚制度改正などの課題と改正問題の現状について
3. 氏と戸籍・家庭裁判所：戸籍制度の意義と機能について・家事紛争解決システムについて
4. 婚姻・内縁：婚姻制度・内縁問題（パートナーシップ法、Pacsなどの世界的な動向を含む）について
5. 夫婦の法律関係：同居・協力・扶助の義務、DV法などについて
6. 夫婦の財産関係：別産制・婚姻費用分担・日常家事債務の連帯責任などについて
7. 離婚：離婚法の沿革・日本の離婚制度の特色と問題点などについて
8. 離婚後の生活：子どもとの関係（親権・面会交流）、財産分与・慰謝料などについて
9. 実親子関係：親子の法的な関係・生殖補助医療と親子関係などについて
10. 養親子：普通養子と特別養子について
11. 親権と子どもの権利：児童虐待・里親などについて
12. 扶養・成年後見制度：扶養と社会保障・任意後見契約・法定後見制度などについて
13. 相続：相続人・相続分について
14. 遺産分割：特別受益・寄与分などについて
15. 遺言と遺留分：遺言の方式・遺留分減殺請求権などについて

【時間外学習】
児童虐待・高齢者虐待・DVなど、家族をめぐって毎日のように報道がなされ、また、そうした問題への対策も次々とだされている。そうした現実の家族をめぐる動向や問題点などについて、関心をもってもらいたい。

【教科書】
利谷信義著　家族の法（第３版）　有斐閣
なお小型のもので構いませんので、六法を携行ください。

【参考書】
講義のなかで適宜指示する

【成績評価の方法及び評価割合】
期末試験８０％　　小テスト（確認テスト）　２０％
講義中の発言については大きく評価します。

【注意事項】
本講義は法律学の科目ですので、対話型双方向講義を行います。
受講生には着席して講義を聞いているだけでなく、積極的な発言を求めます。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
子どものこころの育ち (Child development-Ego and Self, Interpersonal relations, Social skill)

区分・分野・コア
全学共通科目 人文

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経	後期	月2	田中　洋 内 線 7557 E-mail　htanaka@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

子どもの人格発達の基盤は，彼らが生活する人的物的環境にあるが，現代においては，子どもの生活環境は彼らの発達を十分に保障できる状況にはない。こうした危機的状況の進行に伴い，友だちと一緒に遊べないなどといった対人関係や行動上の問題を示す子どもの増加が指摘されている。子どもを取り巻く状況を踏まえながら，この講義では自我・自己意識，対人関係，社会性の発達を軸に，主に乳児期から学童期における子どものこころの発達過程について学ぶことをねらいとする。

【具体的な到達目標】

1．主に乳幼児期学童期における子どもの発達に関する知識と考え方を身につける。
2．主に乳幼児期から学童期における子どもの自我・自己意識，対人関係や社会性の発達に関する知識と考え方を身につける。
3．新聞，雑誌等で取りあげられている現代的なトピックを通じて，「子ども問題」について考える

【授業の内容】

1．現代の子どものおかれている状況について①- 遊び・学びの変容
2．現代の子どもが明かれている状況について②- 不登校・いじめ・児童虐待
3．こころの発達とは何か
4．自我・自己意識の発達- 認知的側面（乳児期）
5．自我・自己意識の発達- 認知的側面（幼児期前期）
6．自我・自己意識の発達- 認知的側面（幼児期後期）
7．自我・自己意識の発達- 認知的側面（学童期）
8．自我・自己意識の発達- 行動的側面（乳児期）
9．自我・自己意識の発達- 行動的側面（幼児期前期）
10．自我・自己意識の発達- 行動的側面（乳児期後期）
11．自我・自己意識の発達- 行動的側面（学童期）
12．乳幼児期における対人関係，社会性の発達
13．学童期における対人関係，社会性の発達
14．「問題行動」示す子どもについて
15．まとめ- 子どもの「明日」をどのように保障するか
16．定期試験

【時間外学習】

1．「子ども問題」に関する情報（新聞，雑誌等）について，できるだけ日常的に触れるようにする。
2．子どもの発達に関する本やテキストにできるだけ目を通すようにする。

【教科書】

特定のテキストは使用しない。基本的に，教員作成のプリントを用いる。

【参考書】

心理科学研究会編「児童心理学試論（改訂新版）」三和書房
心理科学研究会編「小学生の生活とこころの発達」福村出版
梶田叡一著「自己意識の心理学（第２版）」東京大学出版会

【成績評価の方法及び評価割合】

ライティング　30%，レポート　30%，期末試験　40%

【注意事項】

ビデオなどの視聴覚教材を必要に応じて使用する。また，毎回講義の終了時に，簡単なテーマ（新聞記事等）についてライティングを実施する。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
教育の社会学 (Sociology of Education)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・医・工	後期	水3	長谷川　祐介 内 線 7541 E-mail　yhasegawa@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

教育は誰しもが何かしら経験するものであるがゆえ、常識的な見方に囚われやすい。この授業では「学校の社会的機能」「学歴」「高等教育」「メディアの中の教育」というテーマを事例に、教育社会学の知見を学習することを通して、教育に対する多角的な見方の習得を目指す。

【具体的な到達目標】

1．学校の社会的機能の内容について理解する
2．学歴の内容と社会的な効用について理解する
3．高等教育の現状と課題を理解する
4．メディアで表現される教育を通して、人々が抱いている教育像、学校像を理解する

【授業の内容】

1．オリエンテーション
2．学校の社会的機能（1）：社会化
3．学校の社会的機能（2）：選抜・配分
4．学歴（1）：社会階層、社会移動
5．学歴（2）：能力
6．学歴（3）；努力
7．学歴（4）：学歴の効用
8．高等教育の社会学（1）：高等教育とは何か？
9．高等教育の社会学（2）：エリート、マス、ユニバーサル
10．高等教育の社会学（3）：学生の変容
11．高等教育の社会学（4）：大学教員
12．メディアの中の教育（1）：教師
13．メディアの中の教育（2）：部活動
14．メディアの中の教育（3）：青春
15．まとめ

【時間外学習】

授業後に学習した内容を振り返り、不明な点がある場合は自分で調べたり質問したりするなどして解決すること。

【教科書】

なし。レジュメや資料を配布。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】

レポート　70%、　授業出席時のコメント 30%

【注意事項】

・授業中、よりよい環境で学習できるよう心がけること
・遅刻、欠席しないよう心がけること

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
現代の社会と教育 (Contemporary Society and Education)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経	後期	金2	伊藤　安浩 内 線 7636 E-mail　asuhiro-ito@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

この講義では，変化の激しい現代社会において，学校や教育のどのような問題が指摘されどのような変化が求められているのか，あるいは，そもそも人間の成長や発達にとって教育はどのような意味を持っているのかということについて，人間の原型と考えられる「子ども」という存在を中心にして考えていきたい。また，アメリカとの比較を通して，日本の社会や学校の文化的風土について理解する機会も持ちたい。

【具体的な到達目標】

1　現代社会における学校や教育の現状について理解する。
2　人間の成長と発達における教育の意義について理解する。
3　「子ども」を歴史的また社会的な文脈において理解する。
4　「子ども」の成長と発達における「家族」の意義について理解する。
5　日本の社会や学校の文化的風土について自覚的また反省的に理解する。

【授業の内容】

1　「学校」と「教育」の現状の批判的検討1
2　「学校」と「教育」の現状の批判的検討2
3　語源から見た「教育」
4　人間の成長と発達における「未成熟」の意味～カントの見解～
5　人間の成長と発達における「未成熟」の意味～デューイの見解～
6　アダムソン「野生のエルザ」とイタール「アヴェロンの野生児」の教訓
7　人間の成長と発達における「教育」の意義1
8　人間の成長と発達における「教育」の意義2
9　歴史的また社会的な文脈における「子ども」1
10　歴史的また社会的な文脈における「子ども」2
11　「子ども（児童）の権利条約」の意義
12　「子ども」の成長と発達における「家族」の意義
13　アメリカとの比較における日本の「子ども」観の特徴
14　アメリカとの比較における日本の社会や学校の文化的風土の特徴1
15　アメリカとの比較における日本の社会や学校の文化的風土の特徴2
16　試験

【時間外学習】

受講者各人の理解度を確認するための小テストを随時実施するので，講義終了後にノートを読み直すなどして，毎回の講義内容を確実に理解しておくこと。また，現代的な教育問題についての理解を深めるために，教育関連のテレビ番組の視聴を勧める。

【教科書】

特に指定しない。随時プリントを配布する。

【参考書】

天野郁夫（編）（1997）「教育への問い　現代教育学入門」東京大学出版会

【成績評価の方法及び評価割合】

試験は論述形式で行う。評価割合は，試験80%，随時実施する小テスト20%とする。

【注意事項】

毎回の講義開始時に，出席票を配布して出席を確認する（遅刻者には出席票を配布しない）。また，講義実施回数の3分の2以上の出席のない者については，試験の受験を認めない。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
経済成長における経済学の役割 (The Role of Economic Growth Theory on Economics)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・医・工	前期	水1	宇野　真人 内 線 7676 E-mail　muno@cc.oita-uac.jp

【授業のねらい】
経済成長とは所得（GDP）の成長のことを言う場合が多い。そして、各国の経済成長はある共通の法則のようなものがみられる。その法則のようなものが「なぜそうなるの？」というところを解き明かす。

【具体的な到達目標】
授業の狙いでも触れた現実のデータからみられる各国の経済成長における法則のようなものを解き明かし、具体的に机の上で経済の模型を作製し、どのような成長政策が有効なのか？を考えてみたい。

【授業の内容】
1. イントロダクション
2. 現実の経済より得られたデータで経済成長を見てみる
モデルを作る
3. 経済構造の想定1
4. 経済構造の想定2
5. 経済構造の想定3
6. 経済構造の想定4
7. 3～6で構築したモデルと現実経済のデータ比較（技術進歩を入れる前）
8. 3～6で構築したモデルと現実経済のデータ比較（技術進歩を入れた後）
より技術進歩を特定化した発展的モデルの考察
9. ローマーモデル（特許や人的資本の規模が経済成長に与える影響を考察）
10. ジョーンズモデル（人的資本の規模ではなく成長率が経済成長に影響を与えているのでは？）
11. ルーカスモデル（人的資本のレベルアップが経済成長にとって重要である）
上記のテーマを15回で講義します。

【時間外学習】

【教科書】
指定しない（資料をその都度配布

【参考書】
経済成長理論入門（日本経済新聞社）C.H.ジョーンズ　著、香西泰　監訳

【成績評価の方法及び評価割合】
日々の受講態度４０％＋レポート２回６０％

【注意事項】
成績評価中レポート２回は必ず出してください。１回しかレポート提出がない場合は無条件に不合格です。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
企業会計のしくみ (Financial Accounting)	全学共通科目 社会

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・医・工	前期	水2	椛田龍三 内 線 7691 E-mail

【授業のねらい】
「会計ビックバン（大改革）」という言葉を知っていますか。この具体的な内容は、個別決算報告書中心、原価・実現主義の会計から、連結決算報告書（グループ経営決算報告書）中心、時価・発生主義の会計への大回転を意味しています。この会計ビックバンが脚光を浴びるようになった理由は２つあります。まず第１は、経済・資本市場のボーダレス化や多国籍企業の増大等を背景として、世界的な秩序づくりの一環をなす国際会計基準-世界的に統一した企業会計のルール-に対応しているということです。第2は、フリー、フェアー、グローバルの３原則を目標とした日本版金融ビックバン（大改革）の一環をなしているということです。本講義では、会計ビックバンの内容を少しでも理解できるように、企業会計のしくみをやさしく解説します。これにより、現在の企業会計制度（ルール）がどのようなものであり、また、将来においてどのように変化しようとしているのかを、展望してみたいと思います。

【具体的な到達目標】
最初の１～４回は、企業会計の基礎の基礎として、入門レベルの複式簿記（日本商工会議所主催の商業簿記検定試験３級程度）を平易に解説します（プリント配布）。これにより、複式簿記の入門程度は理解できるものと思います。また、５～１５回は、企業会計の基礎的な内容と最近の会計ビックバンの内容を解説しますので、わが国の企業会計の動向が理解できるものと思われます。

【授業の内容】
１．企業会計の基礎の基礎である入門レベルの複式簿記のしくみを解説（１～４回）
２．企業会計の基本的しくみを解説（５～１２回）
３．わが国における会計ビックバンの内容を解説（１３～１５回）

【時間外学習】
１～４回は、入門レベルの複式簿記をしますので、練習問題（解答付）のプリントを配布し、つぎの講義までにしてきてください。
５～１５回は企業会計の講義をしますので、レポート(1回）の提出を求めます。

【教科書】
未　定

【参考書】
適時、紹介します。

【成績評価の方法及び評価割合】
期末試験（持込可）60～70%、レポート30～40%。

【注意事項】
近年、わが国においては、国、地方の公的組織および国立大学が複式簿記を導入しつつあり、社会において、簿記・会計は重要なインフラになりつつあります。この講義では、複式簿記の知識は全く必要ありませんが、電卓を用意しておいてください。

【備考】
最初の複式簿記の講義に関しては、プリントを配布します。

授業科目名（科目の英文名）
広告費と広告流通市場 （Advertising Fee & Advertising Delivery Market）

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・医・工	前期	水2	田中　敏行 内線 E-mail　tanaka-t@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
わが国の広告費の総額を示す広告流通市場は2007年度の7兆円をピークに減少傾向を示している。テレビ、新聞、ラジオ、雑誌のマス四媒体の広告流通市場でのシェアも低下傾向にあり、インターネット広告媒体の影響を受けていることが言われている。本授業では広告流通市場の最近の現状を分析し、当流通市場にある多様な媒体とそれを管理する広告代理業の役割・機能について学習する。

【具体的な到達目標】
広告流通市場の動向や変化、マーケティングと広告、広告代理業の機能や管理について理解する・

【授業の内容】
１．講義の進め方
２．広告流通市場の動向や変化（１）
３．広告流通市場の動向や変化（２）
４．マーケティングと広告
５．広告とは何か（１）
６．広告とは何か（２）
７．広告の組織（１）
８．広告の組織（２）
９．広告計画（１）
１０．広告計画（２）
１１．広告戦略（１）
１２．広告家核（２）
１３．媒体計画（１）
１４．媒体計画（２）
１５．まとめ

【時間外学習】
広告関連情報に限らず企業の経営や業績等の情報に関心をもつようにしてもらいたい。

【教科書】
岸志津江他『現代広告論（新版）』有斐閣、2008年

【参考書】
清水光一『広告の理論と戦略（第１５版）』創世社、2007年
吉見俊哉・水越伸『メディア論』放送大学教育振興会、2000年

【成績評価の方法及び評価割合】
期末試験で評価する

【注意事項】
他の参考書等で資料提示等を予定していますので毎回出席を望む

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
日常生活のリスクマネジメント (Risk Management in Daily Life)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	経・工	前期	木2	鴻上 喜芳 内 線 7688 E-mail kkougami@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
社会の高度化、利便性の向上に伴い、われわれの社会には日々新たなリスクが出現している。
リスクマネジメントの主体は、企業、行政、家庭に分けられるが、この講義では、身近なものとして家庭を取り上げ、日常生活のリスクを整理するとともに、その処理方法を学ぶ。

【具体的な到達目標】
・日常生活に潜むさまざまなリスクを理解した上で説明することができる。
・リスクの処理方法としての保険の利用の仕方を理解した上で実行することができる。

【授業の内容】
1. リスクとは
2. リスクマネジメントの基礎
3. 車のリスク
4. 旅行・レジャーのリスク
5. くらしのリスク　犯罪被害他
6. くらしのリスク　自転車事故他
7. すまいのリスク　窃盗リスク他
8. すまいのリスク　地震リスク他
9. 医療・介護のリスク
10. 悪徳商法のスク
11. 振り込め詐欺等のリスク
12. 損害保険の利用方法　自動車保険他
13. 損害保険の利用方法　傷害保険他
14. 生命保険の利用方法
15. まとめ(授業評価アンケート、レポート説明)

【時間外学習】

【教科書】
特に指定しない。

【参考書】
鴻上喜芳『保険論トレーニング』（2009年、創成社）

【成績評価の方法及び評価割合】
出席等平常点30%、期末レポート70%の割合で総合的に判断する。

【注意事項】
講義中の私語は厳重注意する。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
経済学を学ぶ （1st step to economics）	全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	経・工	前期	木2	髙見　博之 内 線 7674 E-mailh takami@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
経済学は，現実の様々な経済問題を体系的に評価する学問です。本講義においては，経済学の知識を持たない学生が，新聞等に取り上げられる話題について，経済学の観点から評価できるようになるための，基本的な経済学の考え方を学ぶことを目的とします。

【具体的な到達目標】
(1) 経済学の基本的な概念を説明できる。
(2) 現実の経済問題について，各々の経済主体への影響を説明できる。
(3) 需要曲線・供給曲線を用いた経済分析について説明できる。
(4) 経済問題を評価する際に，複数の観点からの効果を説明できる。

【授業の内容】
1　経済学の分析対象
【第I部　ミクロ経済学の基礎】
2　分業の利益
3　需要と供給
4　価格メカニズム
5　市場の効率性
6　市場の失敗
7　市場の限界
8　労働市場
【第II部　マクロ経済学の基礎】
9　GDPとは何か
10 何がGDPを決めるのか
11 消費需要と投資需要
12 貨幣と金融
13 政府の役割
14 外国貿易と為替レート
15 経済成長と国民生活

【時間外学習】
(1) 日本経済新聞を読むこと(関心が持てそうなところだけでも)。
(2) 授業時間内に実施できなかった小テストを作成すること(小レポートの形で)。
(3) 教科書は最低でも3回読み返して下さい。

【教科書】
中谷武・中村保編著『1からの経済学』碩学舎，2010年。

【参考書】
講義中に随時示します。

【成績評価の方法及び評価割合】
期末試験(60%)，随時行なう小テストなど(40%)による総合評価

【注意事項】
欠席回数が5回を超える場合，前期試験の受験資格が「自動的に」無くなります。

【備考】
経済学的な考え方に関心のある学生や，経済学を専門科目としてではなく有権者に必要な教養として学びたい学生に受講を勧めます。

授業科目名（科目の英文名）
消費者と企業 (Consumer and Company)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・ 医・工	後期	水2	松隈　久昭 内 線 7680 E-mail　himatsu@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

この講義の目的は、消費者の行動と企業・組織活動を分析することである。具体的には、企業が販売するブランド、JAなどが販売する地域ブランドの現状と課題を検討したい。

【具体的な到達目標】

消費者行動の基礎的理論、企業行動、ブランド戦略の理解が目標である。

【授業の内容】

主に下記の項目を中心とし、具体的事例もできるだけ紹介したい。

1．消費社会
2．企業中心主義と消費者中心主義
3．「モノ」の持つ意味
4．地域ブランドとマーケティング
5．地域ブランドと競争戦略
6．新規事業開発戦略
7．地域のブランド推進
8．知識創造理論
9．水産物のブランド化
10．国産材のブランド化
11．アンテナショップ
12．地域ブランドと雇用
13．事例分析（1）
14．事例分析（2）
15．まとめ

【時間外学習】

日頃から新聞や経済雑誌を読むことを勧める。

【教科書】

大分大学経済学部編「地域ブランド戦略と雇用創出」白桃書房

【参考書】

コトラー『マーケティング・マネジメント』ダイヤモンド社

【成績評価の方法及び評価割合】

試験（7割）とレポート（3割）で評価する予定。また、出席を重視するので、理由なく欠席が多い場合、評価対象としないので注意すること。

【注意事項】

【備考】

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
企業経営と会計 (Introduction to Management Accounting)	全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・ 医・工	後期	水2	加藤　典生 内 線 7695 E-mail　kato-norio@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
本講義では、企業経営の中でどのように会計が利用されているかを学習します。そのためには、まず経営とはどのようなものなのかを知っておかなければなりません。そこで、始めに企業経営とは何かを概説し、次に企業の経営行動の結果である財務諸表を分析し、問題点を発見する力を養います。そして、財務諸表をよくするために会計がどのような役割を果たすことができるのかを学びます。

【具体的な到達目標】
企業経営と会計との関係を理解する。
基本的な財務諸表分析を習得する。
企業経営に有用な会計技法の理解を深める。

【授業の内容】
【企業経営の基礎】
1. 経営と経営行動
2. マネジメント・コントロールと会計
3. マネジメントの分析
【財務諸表分析】
4. 会計の基礎
5. 財務諸表の読み方
6. 財務諸表の分析
7. 企業戦略と財務諸表
【財務諸表をよくするための会計の役割】
8. 短期利益計画のための会計
9. 経営意思決定のための会計
10. 原価管理のための会計

【時間外学習】
レポートの提出を求めます。

【教科書】
毎回プリントを配布します。

【参考書】
適宜指定します。

【成績評価の方法及び評価割合】
定期試験60点、レポート20点、小テスト20点で評価します。

【注意事項】
電卓を使用しますので、持参してください。

【備考】
この講義は、会計の知識がない学生でも受講できる内容となっています。

授業科目名（科目の英文名）
会計と社会 (Accounting and Society)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経・工	後期	木2	中村　美保 内 線 7669 E-mail　nakamura@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
会計制度が現在の経済社会においていかなる役割を果たしているのかについて講義する。

【具体的な到達目標】
以下の3つのことができるようになることを目標としている。
①基本的な会計ルールを理解すること。
②会計制度が投資家や企業経営者にどのような影響を与えているのか理解すること。
③簡単な財務諸表分析ができるようになること。

【授業の内容】
主に以下のトピックについて講義する
1. 経済社会における会計制度の役割
2. 会計制度の体系
3. ディスクロージャー制度のしくみ
4. 損益計算書の読み方
5. 貸借対照表の読み方
6. キャッシュフロー計算書の読み方
7. 財務諸表分析1
8. 財務諸表分析2
9. 国際社会と日本の会計基準

【時間外学習】
ほぼ毎回、課題を出すので、それをきちんとこなすこと。

【教科書】
適宜指示する

【参考書】
適宜指示する

【成績評価の方法及び評価割合】
課題レポートの内容（40%）・定期試験（60%）

【注意事項】
会計数値が読めるようになるためには、実際に自分で資料を集めて分析・考察することが不可欠である。そのため、トピックが終わるごとにレポートの作成を課す。また課題が多いので、それをこなせる学生を求める。

【備考】
定期試験については持ち込みは一切不可とする。

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
企業会計の基礎 (Introduction to Accounting)	全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	経・工	後期	木2	大崎　美泉 内 線 7699 E-mail　yosaki@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

現代社会における会計の役割を分かりやすく解説していきます。会計は、企業に利害関係をもつ人々に対して、企業に関する様々な情報を提供する事によって、彼らの意思決定を手助けしています。まさに、企業と経済社会を結ぶ環として重要な機能を担っているのです。

本講義は、会計は社会とどのように関わっているのか、どのような影響を与えているのか、どういった意義を果たしているのかといったことについて話していきます。この授業を受講することで、多くの人々が持っている「会計＝簿記」という誤解を解いてもらうことができるのではないかと期待しています。

【具体的な到達目標】

経済社会における会計の役割について理解するとともに、会計学全般についての基礎的知識を習得し、会計学研究への道筋をつけてもらいたいと思います。

【授業の内容】

以下の内容について、講義する予定です。

１．　はじめに
２．　わが国の会計学の歴史
３．　会計の領域と目的
４．　会計の機能と公準
５．　簿記の機構
６．　簿記の手続き
７．　企業会計原則
８．　制度としての会計
９．　財務諸表のしくみ（貸借対照表）
１０．　財務諸表のしくみ（損益計算書）
１１．　わが国の監査制度
１２．　原価計算
１３．　管理会計
１４．　会計学の新課題
１５．　まとめ

【時間外学習】

新聞やインターネットの経済関連記事に関心を持つようにして欲しいと思います。

【教科書】

青木茂男【著】大塚宗春【改】（2007年）『新版　会計学総論(第2版)』中央経済社

【参考書】

必要に応じて、講義中に紹介します。

【成績評価の方法及び評価割合】

期末試験（６０%）、授業への貢献（２０%）、レポート（２０%）の割合で、総合的に評価します。

【注意事項】

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
経営学の基本問題 (Fundamental of Business Management)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2	経・工	後期	木2	片山　准一 内 線 7679 E-mail　jnktyma@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
経営学の3要素である、生産・販売・財務の基本概念を講義する。

【具体的な到達目標】
履修学生が専門課程に進級する際の橋渡しとなるよう考慮する。
新聞・雑誌等の経済記事に興味を持つようになることを到達目標としている。

【授業の内容】
1．現代企業の現状の課題
2．経営学の対象
3．資本の循環と回転
4．労働力と生産手段
5．利潤―剰余価値
6．協業・分業→マニュファクチャー→機械制大工業
7．テイラー・システム
8．フォード・システム→大量生産・大量消費
9．大量販売→マーケティング
10．製品計画と商品のライフサイクル
11．商標政策と広告政策
12．資金調達論
13．企業組織形態―資本の結合
14．コーポレート・コントロールとコーポレート・ガバナンス
15．持株会社論

【時間外学習】
新聞・雑誌等の経済記事収集やインターネット検索を義務付ける。

【教科書】
未定

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法及び評価割合】
学期末試験。

【注意事項】

【備考】

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
経済と倫理 (Economics and Ethics)	全学共通科目 社会

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	経・工	後期	木2	佐藤　隆 内線　7681 E-mail　satoh@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

この授業のねらいは、経済と倫理に関する典型的な諸問題を自分自身の頭で考える機会を提供することです。必ずしも正解のない経済的・倫理的問題を考え抜くことで、問題を考えることの難しさを体感してもらいます。また、こうした問題に直面した経済学者や倫理学者がどのように考えたのかを簡単に紹介することを通じて、経済学や倫理学の考え方の有用性もあわせて実感してもらいます。こうした体感や実感を通じて、専門分野の勉強意欲をかき立てられればよいと考えています。

【具体的な到達目標】

・経済に関する倫理的問題にはどのようなものがあるか説明できるようになる。
・はじめに自分で考えてみた解答と、授業終了後に考えた解答とを比較し、自分の考えがどれだけ「深化」したかを説明できるようになる。

【授業の内容】

・経済と倫理はどのようなつながりがあるのか
・経済の自由はどこまで認められるか
・何を平等にするのが公平か
・市場での取引が望ましくないものにはどのようなものがあるか
・経済的弱者を救済するべきなのはどのような場合か
・人間の行動を規制するにはどのような方法があるか
・新自由主義、グローバリゼーション、環境問題における経済と倫理

１つのトピックスを２コマで扱い、最後にまとめを行う全15回を予定しています。
１つのトピックスのうち、
・１コマ目ではそのトピックスに関する「問題」を皆さんに解答・発表してもらいます。
・２コマ目ではその問題に対する経済学者や倫理学者の考え方を紹介します。
なお、受講者の興味関心によってはトピックスを取捨選択することもあります。

【時間外学習】

授業で取り扱ったトピックスについて、もう一度じぶんで考え直してみるような復習をして下さい。

【教科書】

ありません。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法及び評価割合】

小問に対する解答および課題レポート40%、学期末試験60%。

【注意事項】

この授業では、経済と倫理に関する問題を授業時間内に解答してもらい、何人かにはじぶんの考えをその場で発表してもらいます。この授業運営になじめそうにない人には受講を勧めません。また、正解のない問題を考えていきますので、考えることを面倒だと思う人にも受講を勧めません。

【備考】

授業運営や授業方針について初回講義時に説明する予定です。

授業科目名（科目の英文名）
基礎理論化学I (Basic Theoretical Chemistry I)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	教・経	前期	月1	大賀　恭 内 線 7958 E-mail　yohga@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
大学の化学を受講してつまずく原因の一つとして，大学の化学にでてくる理論や法則に関する難しそうな方程式に対する拒絶反応があげられる。ところが一見複雑そうで高度に見える方程式も，実は高校数学の基礎知識レベルで十分理解できるものが大部分である。本講義では，工学部専門基礎科目「原子と分子」および「物質の状態と変化」の内容の理解を前提に，これらの講義の中で扱った化学に関する理論や法則を，演習をまじえながらより深く理解することを目的とする。

【具体的な到達目標】
(1) 自然科学に関する基本的な理論・法則に関する理解を深めること
(2) 演習を通じて，理論・法則の使い方を身につけること
(3) 化学を理解する上で必要な基本的な数学を復習する

【授業の内容】
およそ以下のスケジュールにしたがって行うが，進行状況や理解度に応じて演習と解説の時間を増やすこともある。
第1週　ガイダンス（講義内容の紹介）
第2週　基本事項1：単位の取り扱い方・有効数字
第3週　基本事項2：特殊関数とグラフ
第4週　基本事項1，2に関する演習と解説
第5週　中間試験1
第6週　熱力学1：気体の状態方程式
第7週　熱力学2：熱力学の第一法則と第二法則
第8週　熱力学3：自由エネルギー
第9週　熱力学4：相変化
第10週　熱力学1～4に関する演習と解説
第11週　中間試験2
第12週　中間試験2の解説
第13週　化学平衡1：解離度・pH
第14週　化学平衡2：平衡定数
第15週　化学平衡1，2に関する演習と解説

【時間外学習】
毎回その時間に講義した内容に関する課題レポートを課す。

【教科書】
プリントを配布する。

【参考書】
浅野　努，上野正勝，大賀　恭　共著「FRESHMAN化学」（学術図書出版社）

【成績評価の方法及び評価割合】
演習・課題レポート40%，試験（中間・期末）60%。

【注意事項】
毎時間講義の開始時にその日に使うプリントを配布するので，遅刻は厳禁。関数電卓必携。前期開講「原子と分子」および後期開講「物質の状態と変化」を履修済みであることが望ましいが，最低限，高校「化学I・II」を履修していることが必要である。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
微分法と数学 (Differentiation and Mathematics)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経	前期	月2	大野　貴雄 内線 E-mail

【授業のねらい】
1変数関数の微分法について学びます。数学を勉強する場合の基礎の基礎である1変数の微分の計算能力を育成することを目指します。

【具体的な到達目標】
1. 数列と数列の極限の意味を理解し、その計算ができる。
2. 様々な関数の性質・法則を理解し、そのグラフを描くことができる。
3. 関数の連続性の意味を理解するとともに、関数の連続、不連続の判定が　できる。
4. 微分法の意味を理解し、具体的な関数の微分が計算できる。
5. 微分法を用いて関数の変化の状態を調べることができる。

【授業の内容】
1. 実数と数列
2. 数列の極限
3. 単調数列と有界数列
4. 有理関数
5. 無理関数
6. 合成関数
7. 関数の極限
8. 連続関数
9. 微分係数と導関数
10. 和、差、積、商の微分
11. 合成関数の微分
12. 対数微分法と高階導関数
13. 平均値の定理
14. 関数の極値
15. 不定形の極限値
16. 試験

【時間外学習】
教科書にたくさん問題がありますので、自分で解答し、理解を深めておくこと。

【教科書】
基礎数学研究会編「基礎微分積分学」東海大学出版会

【参考書】
学習指導要領

【成績評価の方法及び評価割合】
レポート30%、テスト70%

【注意事項】
なし。

【備考】
なし。

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
生命観の変遷 (History of Biological Science)	全学共通科目 自然

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経	前期	月2	牧野治敏 内 線 7644 E-mail lifesci@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
現代の生物学を理解するための基礎的な知識と考え方を身につけることをねらいとする。また、それらを無批判に受け入れるのではなく、歴史的な経緯を事例として、現代科学をクリティカルに考えることもねらいである。

【具体的な到達目標】
1）生物科学の歴史の概略が説明できる。
2）科学の発展と宗教との関係を簡潔に説明できる。
3）ダーウィンの進化論と、それ以前の進化論との違いを示すことができる。
4）生物学の歴史上、重要な人物をその業績と共に数人例示することができる。
5）臓器移植の是非について、自分なりの考えを述べることが出来る。

【授業の内容】
1. 命を考えることの意味（本授業のオリエンテーションを含む）
2. ギリシャの生命観１：祈祷から治療へ（ヒポクラテスの考え方）
3. ギリシャの生命観２：生き物の観察と記述（アリストテレスによる記載）
4. ギリシャの生命観のまとめ
5. ローマの生命観：ガレノスの実践とその伝承
6. 中東の国々の自然科学：ギリシャ文化の継承と発展
7. 新しい自然観：暗黒時代からルネサンスへ（画家による描写）
8. 機械論的な生命観：ベサリウス、ハーヴィの考え
9. 後成説と前成説：生きもの原型はどこにあるのか（胚発生）
10. 自然発生説の否定：生き物はどこから生じるのか（パスツールが示した結論）
11. 進化論I：ダーウィン以前の進化論（ビュフォン、ラマルク）
12. 進化論II：生命観の大転換（ダーウィン、ウォレスの進化論）
13. 人類の進化：生物としてのホモ・サピエンスの位置づけ
14. 分子生物学の成立：分子による生命現象の記述
15.「操作できる生命」という考え方について：臓器移植など
16. 定期試験・テスト

【時間外学習】
1）ギリシャ哲学についての基本的な事項を学習しておくこと
2）予習よりも復習を重視する（資料はWebClass上に掲示する）
3）WebClassからの課題があります

【教科書】
定めない

【参考書】
外科学の歴史（クロード・ダレーヌ、小林武夫ほか訳）白水社、
医学の歴史（小川鼎三）中公新書、裸のサル（デズモンド・モリス）講談社、
生物学の歴史（チャールズ・シンガー；西村顕治訳）時空出版、
改訂新版・脳死とは何か(竹内一夫）講談社ブルーバックス

【成績評価の方法及び評価割合】
期末試験50%、授業中の課題25%、WebClassによる課題25%

【注意事項】
生物学を基本とするので、提示資料には動物等の解剖図、写真等を使います。苦手な人は授業選択の際に注意してください。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
原子と分子 (Atoms and Molecules)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経	前期	月4	飯尾 心 内 線 7959 E-mail kokoro-i@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
物質科学の基礎としての化学を，原子・分子という微視的観点から学ぶことによって，物質の成り立ちについての理解を深めることを目指す。

【具体的な到達目標】
原子構造の基本すなわち原子内に存在する電子の状態を知り，それらがどのようにしてイオン結合，金属結合，共有結合などをつくるかを知る。またその知識に基づいてイオン性物質，金属，共有結合性物質などの構造と性質を理解する。

【授業の内容】
講義項目と予定は以下の通りである。章番号と内容は教科書のものである。
第1週　ガイダンス（講義の進め方や注意事項等の説明）
第2週　第1章　化学の基本（物質の分類，元素，元素記号，原子量）
第3～4週　第2章　単位と測定値の扱い（単位，物理定数，有効数字）
第5～8週　第3章　原子の構造と性質（原子の構造，原子スペクトル，ボーアのモデル，電子の波動性，軌道関数，電子配置，周期表）
第9～12週　第4章　原子から分子へ（共有結合，混成軌道，π結合，配位結合，電気陰性度，分散力，水素結合）
第13～15週　第5章　いろいろな結晶（イオン結晶，金属結晶，共有結合結晶，半導体）
中間試験（試験時間30分程度。試験範囲：第1～3章）を第3章が終わった翌々週（予定では第10週）に行う。

【時間外学習】
毎回その時間に講義した内容の課題レポートを課す。

【教科書】
浅野　努，上野正勝，大賀　恭　共著「FRESHMAN化学」（学術図書出版社）

【参考書】
浅野　努，荒川　剛，菊川　清　共著「第4版　化学− 物質・エネルギー・環境− 」（学術図書出版社）
浅野　努，上野正勝，大賀　恭　共著「原子・分子から学ぶ化学の世界− 基礎化学・エネルギー・環境− 」

【成績評価の方法及び評価割合】
課題レポート(30%)，中間試験(20%)，期末試験(50%)で評価する。

【注意事項】
高校での化学の履修を前提とせず基本からはじめ，その講義内容および方針は高校までの化学と異なり，基本原理の理解に重点を置く。遅刻は厳禁。月曜と金曜は同一内容の講義で，試験問題も同一で行う。人数のバランスをとるために，工学部1年生については学科・コースにより受講曜日を指定するが，工学部2年生以上および他学部の受講生はどちらで受講してもよい。

【備考】
後期開講の「物質の状態と変化」を合わせて受講することを強く勧める。

授業科目名（科目の英文名）
自然とゆらぎ (Fluctuation in the Nature)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・工	前期	火1	山下　茂 内 線 7563 E-mail　syama@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

「ゆらぎ」という言葉からどのような現象を思い浮かべますか？ 木の葉の舞い散る様，陽炎，直立している体のゆれ，そよ風の吹く様，心拍時間間隔，道路での単位時間当たりの自動車の通過台数，株価の変動というようにさまざまのところで「ゆらいでいる」現象が見られる。この講義では，その中でも自然界で起きる「ゆらぎ」を中心に話を進め，規則正しくゆれる揺れもあるが，ここではまったくでたらめに振舞う現象を中心に論じる。そこでは，花粉の動きで有名なブラウン運動からミクロな世界で繰り広げられる原子分子の運動などの現象，サイコロの目の出方や計測の世界で起きる現象等，それらのランダムに起きる揺らぎの現象の機構やダイナミックスを理解してもらい，自然や社会を考えるさいの一つの見方を学んでほしい。なお，講義においては，物理的，情報科学的な考え方を中心に学習を進める。

【具体的な到達目標】

・「ランダムである」とはどの様なことであるかがわかる。
・揺らぎの世界と人間社会との関わりがわかる。

【授業の内容】

1. 揺らぎとは，揺らぎをどの様に表現するか
2. 規則正しい揺れ(ゆれと共振の世界)
3. ランダム（でたらめ）な揺らぎ
4. 1/fのゆらぎ
5. 花粉，気体分子の動き
6. 雑音の世界
7. 音の世界
8. 計測の世界，人間社会の世界
9. 課題の設定
10. 人工的にでたらめをつくりだせるか。
11. モンテカルロ
12. どのレジが空いている？
13. ゆらぎの形を探る1(ミクロな世界)
14. 〃　　2（青空は？）
15. 課題検討会

【時間外学習】

【教科書】

使用しない。WebClassを使用してレジュメを掲載する。

【参考書】

参考図書や，参考サイト（ＵＲＬ）を講義の中においてその都度提示する。

【成績評価の方法及び評価割合】

課題レポート，試験で評価する。詳しくは講義のはじめに説明する。

【注意事項】

なし

【備考】

なし

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
科学技術コミュニケーション入門 （Introduction to Science and Technology Communication）	全学共通科目 総合

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・医・工	前期	水2	末本 哲雄 内 線 7069 E-mail suemoto@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

我々の生活は無数の科学技術に支えられています。複雑化した科学技術が社会に深く組み込まれるほど、科学技術について“知る”だけではなく、各人が科学技術との関わり方を“探り”、そして科学技術について立場の異なる者とも“連携や共同を行う”必要が生じます。

本講義では、科学技術コミュニケーションの発展してきた時代背景を学び、再考しながら、非専門家として科学技術との関わり方を探っていきます。将来、各分野において専門家へと移りゆくみなさんのアンカーポイントを形成できれば幸いです。

【具体的な到達目標】

- 科学技術コミュニケーションが発達してきた歴史・背景を他者に分かりやすく説明できる
- データや現象(特に科学技術と社会の接点の問題)に対して批判的に検証することができる
- 科学技術に関する適切な情報提供を元に他者と双方向コミュニケーションがはかることができる

【授業の内容】

1. ガイダンス（授業のねらい・概要・評価方法の説明，事前調査，受講動機の記入）
2. 科学技術コミュニケーションとはどのような領域か（受講環境整備の活動を含む）
3. 科学技術コミュニケーションはどのように発達してきたか
4. 日本の科学技術コミュニケーションの変遷はどのようなものか
5. 科学技術情報の双方向性をいかに保つか
6. 科学技術のディスコミュニケーションを考える(1)
7. 科学技術のディスコミュニケーションを考える(2)
8. 科学者がいかに科学技術コミュニケーションをするか
9. 市民がいかに科学技術コミュニケーションをするか
10. [議論] サイエンス・カフェ（自由テーマ）
11. [議論] 科学は誰のものか？
12. [活動] 科学技術コミュニケーションの技法（準備1）
13. [活動] 科学技術コミュニケーションの技法（準備2）
14. [活動] 科学技術コミュニケーションの技法（報告）
15. 改めて、科学技術とのつきあい方を考える（まとめ，事後調査）

【時間外学習】

日常生活で科学技術に関わるニュースや新聞を読んでおくこと

【教科書】

特に指定しない

【参考書】

- 「サイエンスコミュニケーション」（日本評論社）
- 「はじめよう！科学技術コミュニケーション」（ナカニシヤ出版）

【成績評価の方法及び評価割合】

毎回のミニレポート（60%）、活動成果報告（30%）、授業中のコメント(10%)

【注意事項】

・授業では情報基盤センターの「WebClass」というシステムを使用します。（http://lms.cc.oita-u.ac.jp/）
・利用者IDを取得しておいてください。（学内の教務情報システム「CampusSquare」で履修登録する際に使用するIDです）

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
現代天文学とＳＥＴＩ (Astronomy and SETI)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・ 医・工	前期	水2	仲野　誠 内 線 7572 E-mail　mnakano@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
宇宙を舞台に天体と生命としての人間との関係を理解するために、現代天文学を生命とからめて講義する。宇宙に存在する天体の階層構造とそのスケール、そしてその多様性についての理解を深めてもらうための天文学への導入部としたい。似非科学ではないSETI（地球外知的文明の探査）を手がかりに、その観点を広げてゆく予定である。

【具体的な到達目標】
(1) ＳＥＴＩの考え方の中心となったドレークの式、現在行われている探査方法などが理解できる。また、地球の進化や生命の誕生の概要についてもふれることができる。
(2) 地球を理解する上で必要な物理学的概念、および我々の太陽系内の他の惑星との比較、および最近発見されつつある太陽系以外の惑星系についての概観が得られる。
(3) 自然の核融合反応によって絶妙のバランスで輝いている太陽の現代における描像、太陽を典型例とする一般の恒星および恒星の誕生、進化、およびその終末という順で理解を進めてゆくことができる。

【授業の内容】
1　SETIとは？　（宇宙人はいるか？）
2　太陽系とボイジャー
3　地球の歴史
4　SETIの歴史
5　ドレークの式とは？
6　ドレークの式　銀河と星
7　ドレークの式　惑星と生命
8　ドレークの式　進化と社会
9　SETIへの道
10　我々の近くには？（太陽系の中における生命の可能性）
11　火星以外の候補は？
12　生命のエネルギー源（母なる太陽と恒星の世界）
13　恒星
14　恒星の進化とその終末
15　まとめ
16　試験

【時間外学習】
教科書の関連ページや問題等には十分目を通しておいておく。新聞やテレビ等にも注意を払ってもらいたい。e-Learning(WebClass)の利用は必須とする。なお、随時天体観測も実施する。

【教科書】
「新版・100 億年を翔ける宇宙」　加藤万里子著　恒星社
上で指定している教科書は天文学一般に関するものである。講義の内容は必ずしもその順序に沿ったものではないことには注意してほしい。

【参考書】
よくわかる宇宙の基本と仕組み（秀和システム）、地球外生命（講談社新書）、人類の住む宇宙（日本評論社）、最新宇宙学（裳華房）、生命の星エウロパ（NHK出版）、望遠鏡でさがす宇宙人（旬報社）など。そのつど紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】
毎回、講義内容と関連した質問用紙に記入を求める。未提出３回の時点で受講資格は取り消す。適宜小テストやレポート等も課す。これらの平常点（40%）と持ち込み不可の期末試験（60%）と総合して最終的に評価する。

【注意事項】
受講者数は150名以下に制限する。

【備考】
高校での地学の履修は前提としない。

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
生命科学と社会 (Life Science and society)	全学共通科目 総合

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・医・工	前期	水3	高濱　秀樹 内 線 7574 E-mail　htaka@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

科学が進歩する中で，特に生命科学は著しく進展している。それに伴って一般社会も変化するが，人々の認識や対応は遅れがちで，認識も十分ではなく，軋轢が生じる場合も起きている。最新の生命科学の進展について理解を深め，その目的や社会への影響について認識することを目的としている。

【具体的な到達目標】

生物の知識がなくても理解できる題材を扱うが，少なくとも次の点ができるようにする。

１生命科学の成果について十分理解し，明快に説明できるようになる。

２生命科学の成果が社会に与える影響について十分理解し，明快に説明できるようになる。

【授業の内容】

1　ガイダンス（講義内容と到達目標の説明および評価基準の明示）
2　人種の生物学
3　アルコール耐性の個人差
4　血液型と個人の性格
5　食の安全と遺伝子組換え作物
6　絶滅した動物の復元
7　エネルギー問題と景観
8　細胞と「塩分」の問題
9　水産エコラベルの普及
10　自己認識とその逸脱
11　化学物質の栄枯盛衰
12　出産に関る倫理
13　スポーツに関る倫理
14　老化の生物学
15　まとめ
16　試験

【時間外学習】

生命科学に関する入門書（新書等）を読む。

新聞，TVやWEBニュースで取り上げられる記事に注意を払う。分からない用語や事項を調べる習慣を身に付ける。

【教科書】

特になし

【参考書】

講義の中で紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】

試験　（100%）

【注意事項】

遅れない。私語をしない。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
原子と分子 (Atoms and Molecules)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1年以上	教・経	前期	金2	大賀　恭 内 線 7958 E-mailyohga@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
物質科学の基礎としての化学を，原子・分子という微視的観点から学ぶことによって，物質の成り立ちについての理解を深めることを目指す。

【具体的な到達目標】
原子構造の基本すなわち原子内に存在する電子の状態を知り，それらがどのようにしてイオン結合，金属結合，共有結合などをつくるかを知る。またその知識に基づいてイオン性物質，金属，共有結合性物質などの構造と性質を理解する。

【授業の内容】
講義項目と予定は以下の通りである。章番号と内容は教科書のものである。
第1週　ガイダンス（講義の進め方や注意事項等の説明）
第2週　第1章　化学の基本（物質の分類，元素，元素記号，原子量）
第3～4週　第2章　単位と測定値の扱い（単位，物理定数，有効数字）
第5～8週　第3章　原子の構造と性質（原子の構造，原子スペクトル，ボーアのモデル，電子の波動性，軌道関数，電子配置，周期表）
第9～12週　第4章　原子から分子へ（共有結合，混成軌道，π結合，配位結合，電気陰性度，分散力，水素結合）
第13～15週　第5章　いろいろな結晶（イオン結晶，金属結晶，共有結合結晶，半導体）
中間試験（試験時間30分程度。試験範囲：第1～3章）を第3章が終わった翌々週（予定では第10週）に行う。

【時間外学習】
毎回その時間に講義した内容の課題レポートを課す。

【教科書】
浅野　努，上野正勝，大賀　恭　共著「FRESHMAN化学」（学術図書出版社）

【参考書】
浅野　努，荒川　剛，菊川　清　共著「第4版　化学- 物質・エネルギー・環境- 」（学術図書出版社）
浅野　努，上野正勝，大賀　恭　共著「原子・分子から学ぶ化学の世界- 基礎化学・エネルギー・環境- 」

【成績評価の方法及び評価割合】
課題レポート(30%)，中間試験(20%)，期末試験(50%)で評価する。

【注意事項】
高校での化学の履修を前提とせず基本からはじめ，その講義内容および方針は高校までの化学と異なり，基本原理の理解に重点を置く。遅刻は厳禁。月曜と金曜は同一内容の講義で，期末試験も同一時間帯・同一問題で行う。人数のアンバランスを防ぐために，工学部1年生については学科・コースにより受講曜日を指定するが，工学部2年生以上および他学部の受講生はどちらで受講してもよい。

【備考】
後期開講の「物質の状態と変化」を合わせて受講することを強く勧める。

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
幾何学 (Geometry)	全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	2	教・経	後期	月2	家本　宣幸 内 線 7569 E-mail　nkemoto@cc.oita-u.au.jp

【授業のねらい】
図形を通して空間認識の資質を養う。

【具体的な到達目標】
日常生活における数学的な自然現象を見い出し，それを解明しようとする意欲を持たせる。

【授業の内容】
1. タイル張り
2. 〃
3. 〃
4. 〃
5. 〃
6. 折れ線・交差
7. 〃
8. 〃
9. 〃
10. 距離
11. 〃
12. 〃
13. 色つき図形
14. 〃
15. 〃
16. 試験

【時間外学習】
しない。

【教科書】
使用しない。

【参考書】
使用しない。

【成績評価の方法及び評価割合】
期末試験　５０％、平常点（出席・他）　５０％

【注意事項】

【備考】

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
物質の状態と変化 (States and Changes of Matter)	全学共通科目 自然

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経	後期	月4	大賀　恭 内 線 7958 E-mail　yohga@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
前期開講の「原子と分子」の内容を踏まえて，原子・分子の集合体という巨視的観点から物質をとらえ，物質の状態と変化の背後にある原理について学ぶことによって，よりいっそう物質についての理解を深めることを目指す。

【具体的な到達目標】
以下の概念を理解できるようになる。
1．状態図　2．熱力学の第一法則　3．内部エネルギー　4．エンタルピー　5．熱力学の第二法則　6．エントロピー　7．自由エネルギー　8．反応速度と速度式　9．化学平衡

【授業の内容】
講義項目と予定は以下の通りである。章番号と内容は教科書のものである。
第1～2週　第6章　分子の世界1（相図，気体，状態方程式）
第3～4週　第7章　分子の世界2（固体，液体，ラウールの法則，沸点上昇，凝固点降下）
第5～6週　第8章　エネルギーとエントロピー（第一法則，エンタルピー，エントロピー，ギブズエネルギー）
第7～8週　第9章　化学平衡の原理（平衡定数，ルシャトリエの原理）
第9～11週　第10章　酸と塩基（pH，pKa，中和滴定，加水分解，緩衝溶液）
第12～13週　第11章　酸化と還元（酸化数，電池）
第14～15週　第12章　反応の速度（反応速度，アレニウスの式，触媒）
中間試験（試験時間30分程度。試験範囲：第6～8章）を第8章が終わった翌々週（予定では第8週）に行う。

【時間外学習】
毎回その時間に講義した内容の課題レポートを課す。

【教科書】
浅野　努，上野正勝，大賀　恭　共著「FRESHMAN化学」（学術図書出版社）

【参考書】
浅野　努，荒川　剛，菊川　清　共著「第4版　化学- 物質・エネルギー・環境- 」（学術図書出版社）
浅野　努，上野正勝，大賀　恭　共著「原子・分子から学ぶ化学の世界- 基礎化学・エネルギー・環境- 」（学術図書出版社）

【成績評価の方法及び評価割合】
課題レポート(30%)，中間試験(20%)，期末試験(50%)で評価する。

【注意事項】
高校での化学の履修を前提とせず基本からはじめ，その講義内容および方針は高校までの化学と異なり，基本原理の理解に重点を置く。遅刻は厳禁。月曜と金曜は同一内容の講義で，期末試験も同一時間帯・同一問題で行う。人数のアンバランスを防ぐために，工学部1年生については学科・コースにより受講曜日を指定するが，2年生以上および他学部の受講生はどちらで受講してもよい。

【備考】
前期開講の「原子と分子」を受講済みであることを前提として講義をすすめる。

授業科目名（科目の英文名）
身近な物理学 (Physics in familiar Phenomena)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・工	後期	火1	藤井　弘也（教） 内線　7562 E-mail　hfujii@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
この講義では，難解と考えられている物理学がいかに身近な現象を明快に説明できるかという点を話題として，これらの現象の基礎になっている物理法則へと展開する。例えば「空はなぜ青いのか」，「マジックミラーの原理は」などから光の本質へと話しを進めていく。物理に対する難しい，計算がめんどうといった固定観念を払拭し，物理が日常生活にどのように結びついているかについて知ることにより，学生がこれまでと違った観点から物理を見るための材料を提供することを目的とする。

【具体的な到達目標】
日常生活の中で，ほとんど見過ごしている現象が実は科学的なバックグラウンドを持っているということに気づかせ，自然科学的な目を養うとともに物理に関する興味を喚起する。

【授業の内容】
1.光の不思議１（虹のなりたち，ガラスの不思議）
2.光の不思議２（光の反射と屈折）
3.光の不思議３（夕焼けと青空<光の屈折と散乱>）
4.力と運動の不思議１（ピラミッドと重心他）
5.力と運動の不思議２（吸い上げポンプと気圧）
6.電気の不思議１（冷蔵庫とエアコン）
7.電気の不思議２（電線，雷）
8.電気の不思議３（静電気）
9.波と音の不思議１（音の伝わり方）
10.波と音の不思議２（津波と地球）
11.波と音の不思議３（音の共鳴と反射）
12.波と音の不思議４（量子，波と粒）
13.宇宙の不思議１（真空と無重力）
14.宇宙の不思議２（宇宙の成り立ち）
15.宇宙の不思議３（特殊相対性理論）

【時間外学習】
準備学習として，できるだけ科学に関わる書籍やテレビ番組などを見て，いろいろな現象に対して興味を持ち，疑問を感じる目を養う。

【教科書】

【参考書】
パズル・物理の不思議入門：副島肇（講談社ブルーバックス）
物理質問箱：都筑卓司他（講談社ブルーバックス）
身近な物理の世界：福井嵩時（講談社サイエンティフック）

【成績評価の方法及び評価割合】
期末試験５０%，各回ライティング５０%。

【注意事項】
関連するビデオなどを使用する。できるだけ隔回に演示実験を交えて授業を進める。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
統計学入門 (An Introduction to Statistics)	全学共通科目 自然

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・医・工	後期	水1	甲斐 隆文 内 線 2011 E-mail kai-takafumi@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

情報化が進む現在社会では、多くの分野で様々な情報を収集し、整理、分析をしていくことが必要になります。本講座は、初めて統計学を学ぶ学生のための基礎講座です。

【具体的な到達目標】

高等学校で学ぶ場合の数・確率の復習から、資料の整理・推測・検定までの基本的な事項を演習形式で解説します。

【授業の内容】

1．高等学校の復習（1）順列・組合せ・確率
2．高等学校の復習（2）ベイズの定理
3．資料の整理（1） 度数分布、代表値、平均、分散
4．資料の整理（2） 変量の変換
5．資料の整理（3） 散布図と相関係数
6．資料の整理（4） 回帰直線
7．正規分布（1）
8．正規分布（2）
9．同時確率分布
10．二項分布
11．標本平均の分布
12．母平均の推定
13．母比率の推定
14．仮説検定（1）
15．仮説検定（2）

【時間外学習】

必要事項は授業中指示しますが、演習形式なので予習が必要です。日頃から納得するまで考え、自分の力で解くことが大切です。

【教科書】

特定の教科書は使用しません。必要に応じて資料を配付します。

【参考書】

ゼロから学ぶ統計解析（講談社、小寺平治著）
単位の取れる統計ノート（講談社 西岡康夫著）
確率統計□キャンパス・ゼミ□（マセマ出版社、馬場敬之・久池井茂共著）

【成績評価の方法及び評価割合】

平常点（３０％）、レポート・定期試験（７０％）で総合評価します。

【注意事項】

数学は日々の積み重ねが大切です。欠席をすれば次回から分からなくなります。授業は毎回出席し、積極的に質問に来て下さい。

【備考】

簡単なΣ計算、微分、積分の予備知識が必要です。受講者は100名を限度とします。

授業科目名（科目の英文名）
パラサイトからみた生命 (Life Science of Parasitism)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・ 医・工	後期	水2	長谷川　英男 内 線 5608 E-mail　hasegawa@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

10年以上前から「パラサイト（＝寄生虫，寄生体）」という言葉が流行語のようになっている．「パラサイト・イブ」という小説は映画化もされたし，「パラサイト・シングルの時代」は困った社会現象として捉えられている．最近では「年金パラサイト」という新造語も誕生した．しかし果して「パラサイト」とは何か？ぬくぬくと暮らしているというのは全くの誤解で，真のパラサイトたちは激烈な生存競争を必死に生き抜いている．本講義では様々なパラサイトの眼を借りて生命現象を眺め，約40億年前の誕生以来，進化を続けてきた生命の本質を理解したい．

【具体的な到達目標】

この授業では寄生現象をキーとして，生命現象を様々な角度から眺め，生命の本質を考察できる能力を身につけることを目標とする．同時に課題を科学的・論理的に論証して文章化する能力を養う．またできるだけ寄生虫の実物を供覧・解説し，より興味を持てるようにしたい．

【授業の内容】

(1) パラサイトとは何か
(2) 私たち体内の寄生と共生
(3) セントラルドグマ（I）
(4) セントラルドグマ（II）
(5) DNAの中にもパラサイト
(6) 生体エネルギーとパラサイト
(7) パラサイトダイエットの虚実
(8) パラサイトで太る
(9) 行動を操るパラサイト
(10) 性を操るパラサイト
(11) パラサイトから守る
(12) 眩ます・騙す・逃げる
(13) 弱り目に祟り目
(14) 共に進化する
(15) 復活するパラサイトたち

【時間外学習】

授業は学生参加型とし，毎回出す課題について各自の見解を求め，次の授業ではそれに基づいて討議する．主体的に取り組む学生の受講を期待する．また「今週のおすすめ」として生物学関係の新刊書を紹介し，より深い理解ができるよう指導する．

【教科書】

特に指定しない．授業ではプリントを配布する．

【参考書】

長澤和也（編）：フィールドの寄生虫学．東海大学出版会(2004)．
石橋信義・名和行文（編）：寄生と共生．東海大学出版会(2008)．
小島荘明：寄生虫病の話．中公新書(2010)．
その他，授業の中で多くの本を紹介する

【成績評価の方法及び評価割合】

期末試験50%，授業への参加・発表50%．

【注意事項】

高校生物履修ないし同程度の知識を有することを履修の条件とする．

【備考】

関連ホームページhttp://www.med.oita-u.ac.jp/lepidopteron/wormy1-1.htmlを開いている．

授業科目名（科目の英文名）
科学技術コミュニケーションのデザインと実践 (Designs for Science and Technology Communication)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・ 医・工	後期	水2	末本 哲雄 内 線 7069 E-mail suemoto@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

現在の社会では科学技術が深く入り込み、各人が科学技術に対して関わりを持っています。それは単に「科学と人」の関わりだけでなく、科学を介した人のつながりに拡張しています。本講義では、サイエンス・イベントを例にとり、科学技術コミュ
ニケーションの実践的手法を学びます。

【具体的な到達目標】

・科学技術コミュニケーションの場において、主体的な実践活動を行うことができる
・科学技術コミュニケーションの場の企画・運営プログラムを作成することできる
・実践の体験から、科学技術コミュニケーションの重要性を具体的に説明することができる

【授業の内容】

1. ガイダンス（授業のねらい・概要・評価方法の説明，事前調査，受講動機の記入）
2. 科学技術コミュニケーション活動の現場（受講環境整備の活動を含む）
3. 調査の基本と批判的思考［講義形式］
4. サイエンス・プレゼンテーション1 （大学生に科学を伝える）
5. ビデオを用いた振り返り
6. サイエンス・プレゼンテーション2 （中学生に科学を伝える）
7. ファシリテーションとファシリテーションの役割［講義形式］
8. サイエンス・イベントの企画1（コンセプト・デザイン）
9. サイエンス・イベントの企画2（合意形成会議）
10. 企画案の検討会
11. サイエンス・イベントの準備1
12. サイエンス・イベントの準備2
13. サイエンス・イベントの準備3
14. サイエンス・イベントの実施
15. まとめ（振り返り、レポート課題説明、事後調査）

【時間外学習】

日常生活で科学技術に関わるニュースや新聞を読み、情報のストックをもっておくこと（いわゆるポートフォリオの作成）

【教科書】

特に指定しない

【参考書】

・「ワークショップ入門」（日本経済新聞出版社）
・「サイエンスコミュニケーション」（日本評論社）
・「はじめよう科学技術コミュニケーション」（ナカニシヤ出版）

【成績評価の方法及び評価割合】

毎回のミニレポート（60%）、活動成果報告（30%）、授業中のコメント(10%)

【注意事項】

・授業では情報基盤センターの「WebClass」というシステムを使用します。（http://lms.cc.oita-u.ac.jp/）
・利用者IDを取得しておいてください。（学内の教務情報システム「CampusSquare」で履修登録する際に使用するIDです）

【備考】

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
物質の状態と変化 (States and Changes of Matter)	全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3	教・経	後期	木1	飯尾　心 内 線 7959 E-mail　kokoro-i@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

原子・分子の集合体という巨視的観点から物質をとらえ，物質の状態と変化の背後にある原理について学ぶことによって，よりいっそう物質についての理解を深めることを目指す。

【具体的な到達目標】

以下の概念を理解できるようになる。

1. 状態図
2. 熱力学の第一法則
3. 内部エネルギー
4. エンタルピー
5. 熱力学の第二法則
6. エントロピー
7. 自由エネルギー
8. 反応速度と速度式
9. 化学平衡

【授業の内容】

講義項目と予定は以下の通りである。章番号と内容は教科書のものである。

第1～2週　第6章　分子の世界1（相図，気体，状態方程式）
第3～4週　第7章　分子の世界2（固体，液体，ラウールの法則，沸点上昇，凝固点降下）
第5～6週　第8章　エネルギーとエントロピー（第一法則，エンタルピー，エントロピー，ギブズエネルギー）
第7～8週　第9章　化学平衡の原理（平衡定数，ルシャトリエの原理）
第9～11週　第10章　酸と塩基（pH，pKa，中和滴定，加水分解，緩衝溶液）
第12～13週　第11章　酸化と還元（酸化数，電池）
第14～15週　第12章　反応の速度（反応速度，アレニウスの式，触媒）

中間試験（試験時間30分程度。試験範囲：第6～8章）を第8章が終わった翌々週（予定では第8週）に行う。

【時間外学習】

毎回その時間に講義した内容の課題レポートを課す。

【教科書】

浅野　努，上野正勝，大賀　恭　共著「FRESHMAN化学」（学術図書出版社）

【参考書】

浅野　努，荒川　剛，菊川　清　共著「第４版　化学- 物質・エネルギー・環境- 」（学術図書出版社）

【成績評価の方法及び評価割合】

課題レポート(30%)，中間試験(20%)，期末試験(50%)で評価する。

【注意事項】

高校での化学の履修を前提とせず基本からはじめ，その講義内容および方針は高校までの化学と異なり，基本原理の理解に重点を置く。できるだけ毎回課題レポートを課す。遅刻は厳禁。月曜と金曜は同一内容の講義で，試験問題も同一で行う。人数のバランスをとるために，1年生については学科・コースにより受講曜日を指定するが，2年生以上および他学部の受講生はどちらで受講してもよい。

【備考】

前期開講の「原子と分子」を受講済みであること。

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
物理学への招待 (Invitation to Physics)	全学共通科目 自然

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3	経・工	後期	木2	長屋　智之, 近藤　隆司, 小林　正 内 線 7956 E-mail　ryuji-kondo@susi.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

この講義では、光，物質，エネルギー等を取り上げて、その歴史的変遷に触れながら現代物理学の中で持つそれぞれの意味について述べる。これらの内容は工学部の専門基礎科目の物理関係の科目の紹介でもある。
講義は３部からなる。I部では物質のマクロな性質を原子・分子のミクロな立場からどの様に理解できるか、測定法をも含めて考察し、II部では力学が成立する過程をアルキメデス、ケプラー、ガリレオ、ニュートンの業績を追いながら考察する。III部では日常生活で体験する光に関わる現象や身近な光学機器の原理を紹介する。

【具体的な到達目標】

I部では物質の本質の理解とそのための分析機器の原理について理解する。II部では力学の法則が、どのような実験と考察から導かれたのか、その歴史的由来を学ぶ。III部では光のスペクトル、波動性と粒子性、偏光などの基本事項を学び、それらが光に関する自然現象や光学機器の仕組みを理解する。

【授業の内容】

I 部 物質とは何だろう　(1-5週)
1. 先端的な未来技術と手法の紹介と、 ミクロ的・マクロ的なアプローチ
2. 結晶構造解析，この１世紀の歩み
3. 各種分析機器の分類と新規な分析機器の開発手法について

II部　力学の始まり (6-10週)
1. アルキメデスと静力学
2. ケプラーと火星の楕円軌道
3. ガリレオとニュートン

III部　光の性質　　(11-15週)
1. 光と色
2. 偏光
3. 液晶
4. 構造色

期末試験 (16週)

【時間外学習】

講義前に配付した資料プリントや指定した参考書を利用して、事前に講義内容に関わる事項を調べて講義中の質問に答え、討議に参加する。

【教科書】

使用しない。講義中に資料プリントを配付する。

【参考書】

「物理学とは何だろうか」朝永振一郎著　岩波新書、その他それぞれの部で講義中に紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】

期末試験５５%、平常点（演習・レポート）４５%

【注意事項】

I、II、III部の各々について出席率が２／３に満たない者は期末試験を受けることができない。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
数学の世界 (The Mathematics World)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教，経	後期	金2	川嵜　道広 内 線 7567 E-mail mkawasa@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

数学の世界は，現実の世界における事物・現象を数学化（抽象化，理想化，一般化，形式化等）することにより人間が作り出した自然科学の一分野である。本講義は，人間との関わりを通して数学的理論を再考することをねらいとしている。人間がどのような観点から数学的理論を構成し，どのように役立てようとしたのかという認識論的考察に基づいて，数学の世界を探究するとともに，数学の世界の中にどのような人間性が盛り込まれているのかも探究したい。

【具体的な到達目標】

1) 数や図形，数量関係等の基本的な数学的理論に関する解説を理解し，演習等により数学的技能を習熟する。
2) 数学的理論に関する歴史的解釈および数学的理論の現実世界における認識論的解釈に基づき，数学の世界に関する見識を深める。

【授業の内容】

1) 代数領域の基礎的内容に関する数学的理論１（数の世界）
2) 代数領域の基礎的内容に関する数学的理論２（自然数）
3) 代数領域の基礎的内容に関する数学的理論３（素数）
4) 代数領域の基礎的内容に関する数学的理論４（整数）
5) 代数領域の基礎的内容に関する数学的理論５（代数式）
6) 代数領域の基礎的内容に関する数学的理論６（合同式）
7) 代数領域の基礎的内容に関する数学的理論７（有理数）
8) 代数領域の基礎的内容に関する数学的理論８（実数）
9) 幾何領域の基礎的内容に関する数学的理論１（図形と世界）
10) 幾何領域の基礎的内容に関する数学的理論２（平面と空間）
11) 幾何領域の基礎的内容に関する数学的理論３（作図）
12) 幾何領域の基礎的内容に関する数学的理論４（論証）
13) 数量関係領域の基礎的内容に関する数学的理論１（量と関係の世界）
14) 数量関係領域の基礎的内容に関する数学的理論２（関数）
15) 数量関係領域の基礎的内容に関する数学的理論３（確率）
16) 試験

【時間外学習】

授業において紹介する文献により数学の世界に関する見識を一層深めるとともに，提示する課題や補充問題の解決を通して基礎的な数学の力も身につけてもらいたい。

【教科書】

樋口禎一他「現代基礎数学通論」培風館　1400円

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法及び評価割合】

期末テスト（ノート持ち込み不可）60%，授業における小テスト30%，課題やレポート10%

【注意事項】

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
数学入門 (Introduction to Mathematics)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経	後期	金2	大隈　ひとみ 内 線 7646 E-mail　okuma@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
数学の目を通してみると日常生活における現象や行動に隠されている美しさや不思議さが見えてくる。それらを発見することにより新たな発想や創造が生まれる。このような観点から日常生活で出会う諸問題や論理パズルを問題解決のために役立つと考えられる数学的思考，抽象化や一般化，共通性の見つけ方について，具体的な問題を題材に講義を進める。

【具体的な到達目標】
1. 数学に対する嫌悪感や苦手意識をなくす。
2. 問題解決場面における数学的方法についての理解を深める。
3. 数学的な見方・考え方の良さや有用性を実感する。

【授業の内容】
1. はじめに
2. 数の組み合わせ
3. 共通性の発見
4. 隠れた規則性１
5. 隠れた規則性２
6. 覆面算と虫食い算１
7. 覆面算と虫食い算２
8. 計算の工夫
9. 代数パズル１
10. 代数パズル２
11. 図形の美しさ１
12. 図形の美しさ２
13. 論理パズル１
14. 論理パズル２
15. まとめ
16. 試験

【時間外学習】
なし

【教科書】
使用しない

【参考書】
適時紹介する

【成績評価の方法及び評価割合】
期末試験 80%，受講状況等 20%

【注意事項】

【備考】
隔年開講。平成23年度は開講します。

授業科目名（科目の英文名）
基礎理論化学II (Basic Theoretical Chemistry II)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1年以上	教・経	後期	金2	大賀　恭 内 線 7958 E-mail　yohga@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

「原子と分子」および「物質の状態と変化」では物質科学の基礎である原子や分子の構造と成り立ちと，それらの集合体の性質・特徴を学んだ。これらを基礎として本講義は，分子がその構造や性質によって系統的に分類されていることを理解し，ルールに基づいて名称をつけることおよび名称から分子構造が書けるようになることを目的とする。さらに有機化合物の構造を決定するための分析手法についての解説と演習を行う。

【具体的な到達目標】

(1) 化合物の系統的な分類を理解すること
(2) 化合物の系統的な名前の付け方を理解すること
(3) NMR, IR, Massなど各種スペクトルデータから，化合物の構造を決定すること

【授業の内容】

およそ以下のスケジュールにしたがって行う。講義は説明・解説と演習を交えて進める。進行状況や理解度に応じて演習と解説の時間を増やすこともある。
第1週　ガイダンス（講義内容の紹介）
第2～7週　有機化合物の命名法：炭化水素，アルコール，カルボン酸誘導体，含窒素化合物
第8週　中間試験
第9～10週　赤外分光法
第11～12週　：プロトン核磁気共鳴分光法
第13週　炭素- 13核磁気共鳴分光法
第14週　質量分析法
第15週　スペクトルによる構造決定の総合演習

【時間外学習】

毎回その時間に講義した内容に関する課題レポートを課す。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書】

小川雅弥・村井真二　監修「有機化合物　命名のてびき」（化学同人）
R. M. Silverstein他著，荒木　舜　他訳「有機化合物のスペクトルによる同定法　第７版」（東京化学同人）

【成績評価の方法及び評価割合】

演習・課題レポート40%，中間試験30%，期末試験30%。

【注意事項】

講義の開始時にその日に使うプリントを配布するので，遅刻は厳禁。
前期開講「原子と分子」を履修済みであることが望ましいが，最低限，高校「化学I・II」を履修し，内容（特に有機化合物に関する事項）を理解していることが必要である。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
電気の世界II (Introduction to Electrical Engineering)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経	前期	月2	大久保　利一 内 線 7829 E-mail　tohkubo@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

電気は現代社会において，幅広く用いられている。しかし，実際に目に見えるものでないので理解することが難しい。この講義では，電気の基本について学び基礎から応用を含めて，簡単なデモや最近の話題を含めて解説する。特に，電気の基本的な理解を重視して，幅広く多くのことを学ぶよりも基本を理解することに努める。応用では，電気と環境問題の関連について理解を深める。また，最新の電気技術のいくつかを取り上げて，解説する。また，自分でも調べることができるようになること。

【具体的な到達目標】

1. 電気の基本について理解をする。
2. 電気の応用技術について知識を得る。
3. 最新の電気技術について知識を得る。

【授業の内容】

1. 講義内容の説明
2. 電気の発見と歴史
3. 電気とは
4. 電荷の発生と帯電列
5. 電気力と電気エネルギー
6. 電気が使われるのはなぜか？
7. 電気回路の基礎I
8. 電気回路の基礎II
9. 電気回路の基礎II
10. 電気の応用技術
11. 環境問題と電気について
12. 最新の技術：静電気による環境浄化技術
13. 最新の技術：電子ペーパー
14. 最新の技術：エレクトロクロミックについて
15. 電気技術の今後について

【時間外学習】

電気を用いた技術，製品及びその仕組みに関して普段から興味を持って調べておくこと。

【教科書】

教科書は用いない。必要に応じ資料を配布する。

【参考書】

講義の中で必要があれば参考書等を紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】

出席2/3以上のものに対して成績評価を行う。レポート：60%，演習・小テスト：40%

【注意事項】

出席及びレポートの提出に注意すること。

【備考】

磁気及び磁力が関連する電気の分野に関する講義は，「電気の世界I」で行われる。この講義では，電荷や電流などに関する静電気の分野について講義を行う。

授業科目名（科目の英文名）
建築環境計画 (Environmental Design)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・工	前期	火1	佐藤[誠]（工）/大鶴（工）/真鍋（工）/鈴木（工）/小林（工）/富来（工）/姫野（工） 内 線 7936(事務室) E-mail kenchiku@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

建築学は、人類の福祉のために、学術・技術・芸術の結晶たる建築・都市環境の創造とそれらの持続可能な発展を目指している。ここでは、建築環境工学と計画学の立場から以下の３項を目標とする。

1. 建築と生活環境、都市と地球環境との関係性及び重要性を理解する。
2. 建築と都市の背後にある理論や理念、技術、歴史などを知り、理解する力を培う。
3. 建築の専門家でない市民として、生活価値を高めると共に安全で快適な社会を創造していく上で必要とされる基礎知識と考える力を培う。

【具体的な到達目標】

1. 都市や建築空間における室内音響と騒音振動問題の科学的理解と解決へ向けた議論の展開。
2. 都市や建築空間における光・熱環境に関わる問題の科学的理解と解決へ向けた議論の展開。
3. 都市や建築空間における空気環境に関わる問題の科学的理解と解決へ向けた議論の展開。
4. 都市計画に関わる問題の科学的理解と解決へ向けた議論の展開。
5. 建築計画学的観点（＝人間と空間と時間の相互関係）から、生活・居住環境の基礎的知識を修得する。

【授業の内容】

1. 本授業の概要と位置づけ
2. 建築は凍れる音楽か？
   （1）建築学の体系と建築環境工学の位置づけ、建築音響学の歴史と基礎理論
3. 建築は凍れる音楽か？
   （2）室内音響理論の概要と音響設計例、現状と課題、まとめテスト
4. 建築・都市における騒音問題
   測定、評価、関連法規の理解
5. 建築・都市における騒音問題
   環境基準の理解、現状と課題、まとめテスト
6. 建築の熱環境：人体が感じる快・不快という観点から、熱環境評価手法について学ぶ
7. 建築の光環境：自然光・人工光源の役割や照明と建築の関係の理解
8. 中間試験
9. 近代都市計画のはじまり（産業革命、都市計画家と理想都市）
10. 現代都市と都市デザインについて
11. 都市・地域環境が創り出す景観論
12. 都市の緑環境と計画
13. 福祉的住生活環境を考える
14. 近代日本住宅の変遷と課題
15. 都市のシステムと持続可能性

【時間外学習】

それぞれの「まとめテスト」あるいは「レポート」は期末試験に代わるものである。各担当教官の指示に従い十分準備しておくこと。

【教科書】

使用せず，必要に応じ講義資料を配付する。

【参考書】

【成績評価の方法及び評価割合】

平常点40%，課題レポートおよび中間試験60%

【注意事項】

遅刻，欠席，私語や居眠り等の受講態度を厳しくチェックし成績評価に反映させる。
毎回のレポート、課題レポートの成績次第では、毎回出席していても単位取得に至らない場合もあります。
本講義は建築学を専攻としない学科／学部の学生を対象としており，工学部福祉環境工学科建築コースの学生は受講できない。
「建築入門」を履修した者は受講できない。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
建築構造工学 (Structural Engineering)	全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・工	前期	火1	井上(工)/佐藤[嘉](工)/菊池(工)/大谷(工)/黒木(工)/田中(工) 内 線 7936(事務室) E-mail kenchiku@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

本授業は，建築学における構造・材料系分野の立場から，建築について学習しようとするものである。建築物はその使用性や安全性に関して目標性能を確保できるよう，耐用年限中に建物に作用する各種の荷重や建物の環境条件を考慮して設計・施工されなければならない。たとえば，世界有数の地震国である我が国では，地震に対して建物が安全であるように設計することが重要である。また，21 世紀は地球環境問題の深刻化に対応して，建設資源の有効活用やリサイクルの推進，既存建築物の改修による持続使用，耐久性に富む建築物の建設などが求められている。本授業では，これらのことを話題に取り入れながら，建築構造設計や材料・施工の基礎から最新技術まで学習する。

【具体的な到達目標】

次の事項について理解し，安全な町づくりや持続可能な建築の重要性をしっかりと認識する。建築形態と構造の概要／地震による建築物の被害とその教訓／安全な住まいづくり／構造設計の概要／身近な建築物の構造と防災対策／耐震診断と耐震補強の概要／主要な建築材料の力学的特性と耐久性／建設廃材のリサイクル／

【授業の内容】

1. 本授業の概要と位置づけ
2. 地球環境と木材利用
3. 木造建築物の紹介（1）
4. 木造建築物の紹介（2）
5. 建築構造設計の流れ，建築形態と構造
6. 建築物の地震被害とその教訓
7. 既存建築物の耐震診断と耐震補強
8. 身近な構造物の耐震性と防災対策
9. 主要な建築材料の力学的特性と耐久性(1)
10. 主要な建築材料の力学的特性と耐久性(2)
11. 住宅の建設から解体まで
12. 機能性材料
13. 建設廃材のリサイクル
14. コンクリート構造物の耐久性診断 － 補修・補強技術の現状 － (1)
15. コンクリート構造物の耐久性診断 － 補修・補強技術の現状 － (2)

【時間外学習】

小テストやレポートを多く課す。これらは期末試験に代わるものであり，各担当教員の指示に従い十分準備しておくこと。

【教科書】

使用せず，必要に応じ講義資料を配付する。

【参考書】

【成績評価の方法及び評価割合】

平常点（出席・他）４０%，課題レポート６０%

【注意事項】

遅刻，欠席，私語や居眠り等の受講態度を厳しくチェックし成績評価に反映させる。
毎回のレポート、課題レポートの成績次第では、毎回出席していても単位取得に至らない場合もあります。
本講義は建築学を専攻としない学科／学部の学生を対象としており，工学部福祉環境工学科建築コースの学生は受講できない。
「建築入門」を履修した者は受講できない。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
情報科学の世界 (Introduction to InformationScience)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・ 医・工	前期	水1	伊藤哲郎 内 線 7868 E-mail ito@csis.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

我々の周りにはさまざまな情報が渦巻いている。これらの情報は，数値や文字であったり，音声や画像で表現されたりとその形態が一様ではない。また，その内容も広範囲で多岐に渡っている。情報科学は情報を取り扱うときの基礎となる理論の体系であり，20世紀後半に生まれた新しい科学である。

この講義では，我々の身近にある情報を取り上げ，その特徴ならびに使い方にかかわる基礎的な考え方を紹介する。さらに，コンピュータによる情報処理についても言及する。

【具体的な到達目標】

情報科学における考え方には，多くの視点のあることが分かる。
情報科学の基礎となる数学的な考え方について学ぶことができる：確率，統計など。
情報科学・情報技術の応用について知ることができる：WWW，電子図書館，パターン認識など。

【授業の内容】

1) 情報科学とは
2) データのばらつきを科学する　－ 確率と分布 －
3) 意思決定のための情報を作り出す　－ データ解析の技術 －
4) 情報洪水に溺れないように　－ WWWとインターネット －
5) 知識から情報へ　－ 図書館と電子図書館－
6) 情報の主たる担い手：言葉を解剖する　－ 自然言語処理 －
7) 計算機はどこまで知的になれるか　－ 人工知能 －
8) 百聞は一見に如かず　－ 画像処理とパターン認識 －

【時間外学習】

課題レポート等（各担当教員の指示による）。

【教科書】

教科書は用いない。適宜，参考資料を配付する。

【参考書】

【成績評価の方法及び評価割合】

各担当教官員によるレポート・小テストの評価を集計することにより評価を行う。

【注意事項】

工学部知能情報システム工学科の学生は受講不可。

【備考】

・藤田米春(工)，末田直道(工)，越智義道(工)，中島 誠(工)，原 恭彦(工)，行天啓二(工)もあわせて担当する．
・すでに全学共通科目の「情報科学概論」あるいは「情報科学入門」の単位を取得している学生は，
本科目を受講することはできない。

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
食品材料概説 (Food Item General Statement)	全学共通科目 自然

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・医・工	前期	水1	望月　聡 内 線 7598 E-mail　smochi@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

私たちは食品から栄養素を摂取している。生きるために食べる。よい食事をするためには、食品に含まれる栄養素の組成を知らなければならない。一方、おいしい食べ物を食べることは人生の楽しみの一つである。食べ物のおいしさは食べる人の主観・体調・価値観や調理加工によって大きく変化する。いろいろな食品について、どのような特徴をもっているか、おいしく食べるためにはどのようなことに気をつけたらよいかといった観点を中心にして講述する。

【具体的な到達目標】

食品に対する興味を持つ。
食品の選択に役立つ情報を得る。
食品の特徴、調理加工に伴う変化についての知識を得る。
楽しい食生活をおくることができる。

【授業の内容】

1. ガイダンス…授業のねらい
2. 穀類について
3. イモ類について
4. 豆類について
5. 野菜類について
6. 果実類について
7. キノコ類について
8. 油脂類について
9. 獣鳥肉類について
10. 魚介類について(1)
11. 魚介類について(2)
12. 乳類及び乳製品について
13. 卵類について
14. 加工食品について
15. その他の食品について
16. 試験

【時間外学習】

新聞、テレビ、インターネットなどで食品に関する情報を調査すると理解を深めるのに役立ちます。

【教科書】

オールガイド　五訂増補食品成分表　２０１１　実教出版

【参考書】

新訂　原色食品図鑑　　菅原龍幸・井上四郎　編集　建帛社

【成績評価の方法及び評価割合】

毎回の授業でのライティング50%、期末試験または課題レポート50%

【注意事項】

教科書を必ず用意してください。写真を見ながら解説を進め，板書もします。ノートを用意することをお薦めします。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
エレクトロニクスの世界I (Introduction to Electronics I)	全学共通科目 自然

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・医	前期	水2	益子洋治/中野忠夫/工藤孝人 内 線 7844 E-mail mashiko@eee.oita-u.ac.jp（益子）

【授業のねらい】
急速に情報化が進む現代社会においては，文系・理系を問わず，エレクトロニクスに関連した様々な知識を必要とする機会が増えている．この講義では，エレクトロニクスの基礎から応用にわたる３つの分野（半導体集積回路，コンピュータ，電磁波）を取り上げ，簡単なデモや最近の話題を交えて解説する．なお，後学期に開講される「エレクトロニクスの世界II」と併せて受講すれば，エレクトロニクスの幅広い分野を概観するのに効果的である．

【具体的な到達目標】
(1) 上に示した３つのエレクトロニクス分野で用いられている理論や技術について，それらの基本概念や原理，構造や仕組みなどの知識を深める．
(2) ３つのエレクトロニクス分野と現代生活との関係，およびその問題点を探り，各分野の理論や技術に対して我々はどのように向き合えばよいのか，ということを考えていくための素養を身につける．

【授業の内容】
第１部（第1週～第5週）「LSI技術と応用」（益子洋治）
LSI（半導体集積回路）は，携帯電話，デジタル家電をはじめ，今やあらゆる分野に用いられ，我々の生活を変えていく基礎部分にもなっている．この講義では，LSIの製造技術，構造，機能そして応用までを，現在取り組まれている最先端技術を含めて解説する．
第２部（第6週～第10週）「コンピュータの基礎」（中野忠夫）
コンピュータは，現在，社会のあらゆる分野で使われており，これからの情報化社会で生活していく上で必要不可欠なものになりつつある．この講義では，コンピュータの基本的な仕組み，システム構成，ネットワークの基礎とその応用について解説する．
第３部（第11週～第15週）「電磁波の基礎」（工藤孝人）
通信，放送，医療，加工，探査など，様々な分野で電磁波は現代生活を支えている．この講義では，電磁波の歴史を振り返るとともに，電磁波を利用したいくつかの科学技術について，その基本概念や原理について解説する．

【時間外学習】
宿題を課すことがある（詳細については，各分野毎に，講義時に指示する）．また，新聞，ＴＶ，インターネットなどをできる限り活用して，講義内容に関連した記事や情報の収集・整理に努め，常日頃からエレクトロニクスに関心を持つように心がけること．

【教科書】
使用しない．必要に応じて，資料を配布する．

【参考書】
各分野毎に，講義中に適宜紹介する．

【成績評価の方法及び評価割合】
各週の講義時に行う演習，または，各分野の講義終了時に実施する小テスト・小論文：100%
成績評価は各分野毎に実施し，最終評価はそれらを総合して行う．なお，出席回数が講義回数の３分の２に満たない分野がある場合，特段の事情がない限り，その分野の評価対象としない．

【注意事項】
講義は主にPowerPointのスライドと板書による．疑問点があれば，積極的に質問すること．

【備考】
工学部の学生については，自主的に聴講しても構わないが，成績評価は行わない．

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
機械技術概論 (Introduction of Machine Technology)	全学共通科目 自然

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	経・工	前期	木2	佐久間俊雄 内 線 8513 E-mail sakuma@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

機械工学は幅広い学問であり，様々な基礎学問をベースに民生から宇宙まで機械技術・システムが実用化されている．これらの技術・システムが採用，推進されるに至った社会的，経済的背景を分析するとともに技術・システムの構築に必須となる基礎学問との関連，その重要性を認識し，21世紀の「機械技術と環境」，「機械技術と人間」とのあり方について考える．

【具体的な到達目標】

(1)感想文ではなく，小論文が書けるようになる．
(2)自分の考えを持ち，その根拠を示すことができるようになる．
(3)相手を納得させる的確な情報収集・まとめおよび編集ができるようになる．
(4)自分の考えを相手に判り易く伝える創意・工夫をすることによりプレゼンテーションができるようになる．

【授業の内容】

以下のテーマについて講義する．また，与えられた課題に対し，調査結果を発表し，討論する．
1．技術と社会の関わり
2．機械技術の発達史
3．モノ作りの哲学（生産原論）
4．機械技術を支える４大力学
5．エネルギー・資源問題と機械技術
6．地球環境問題と機械技術
7．人間生活の質的向上と機械技術
8．循環型社会の構築と機械技術

【時間外学習】

機械学会誌，エネルギ学会誌などの学・協会誌の特集記事や解説記事およびインターネット検索等により，「エネルギ・資源問題」，「環境問題」，「QOL」，「リサイクル・リユース・リデュース」に関する最近の技術開発状況，開発課題などを調査しておくこと．

【教科書】

使用しない

【参考書】

必要に応じ，適宜紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】

課題レポート提出（プレゼンテーションを含む）により評価する．

【注意事項】

出席回数が2/3未満の場合には，受験資格がなくなるので注意すること．
また，プレゼンテーションを行わなかったものは，受験資格がなくなる．

【備考】

課題調査結果について10分程度のプレゼンテーション（必須）を課する．

授業科目名（科目の英文名）
人間と被服 (Clothing for human)

区分・分野・コア
全学共通科目 人文

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経	前期	金2	都甲 由紀子 内 線 7561 E-mail togo-yukiko@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
衣服を着る意味について改めて考えて言葉にすることで，意識的に衣生活を送れるようになることを目的とする．また，衣服を選んだり手入れをしたりする上でも衣服の素材や構成について知ることは必要不可欠なことであるし，衣生活の歴史や民族性に対する認識を持つことは文化的な衣生活を送る上で重要である．このようなことをふまえて各自が豊かな衣生活を送れる力を養うことも目的とする．

【具体的な到達目標】
１．自分にとっての「衣服を着る意味」を意識して他人に説明できるようにする．
２．服飾文化や衣服の成り立ちを理解した上で文化的な衣生活を送れるようになる．
３．衣服の素材や性能，取り扱いについての知識を得て，健康的で快適な衣生活を送ることができるようになる．

【授業の内容】
1. 人はなぜ衣服を着るようになったのか
2. 衣服のデザイン，構成
3. ファッションデザイナー
4. ファッションデザインと配色
5. 世界の民族衣装（ブータンのキラ，インドのサリーなど）
6. 布，針，糸を使った実習
7. 日本の伝統染織（宮古上布，黄八丈など）
8. 衣服の素材（天然繊維，化学繊維）
9. 繊維から糸，糸から布へ（織物，編み物）
10. 衣服の色（染色），繊維製品の仕上げ加工
11. 衣服生産の現状と課題
12. 衣服の洗浄，手入れと保管
13. 衣服の表示
14. 衣服の快適性，着心地
15. まとめ
16. 定期試験

【時間外学習】
自分自身の衣生活に関心をもつ。
自分なりに「衣服を着る意味」を言葉で説明できるようにする。
レポートを作成する。

【教科書】
プリントを配布する。

【参考書】
鷲田清一「ひとはなぜ服を着るのか」NHK出版

【成績評価の方法及び評価割合】
レポート30%，期末試験60%，実習10%

【注意事項】
席の近い人同士で話し合ったりすることもありますので、積極的に周囲の人とコミュニケーションをとることができることが求められます。
実習のとき、忘れものをしないように気をつけてください。

【備考】
本講義は，教育福祉科学部の科目である「被服学（被服製作実習を含む）」「ライフスタイルと衣服」「衣生活論」と並行して履修することはできません．またこれらの単位を取得している学生は受講することができません．

授業科目名（科目の英文名）
エネルギー科学 (Energy Technology)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経	前期	金2	濱本　誠 内 線 7809 E-mail　mhamamo@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

私たちの日常生活において，エネルギーは電気という形で家庭の奥深くまで入り込み、容易にその恩恵にあずかることができるが，限りあるエネルギー資源の有効利用が叫ばれる今日，電気エネルギーに関する最新の科学技術開発の現状とその経緯を認識することは，エネルギーを利用することの意義を考える上で重要なことである。ここでは電気エネルギーについての問題を受講者自身が考えることのできる足場を築くことを目標とする。

【具体的な到達目標】

電気エネルギーに関して近い将来実用化が期待されている新技術について４つのテーマを取り上げ，それらを専門とする担当者の説明により，それがどのような技術なのか，それを開発する為の課題は何か等について理解を深める。さらに将来の電力発生の事情はどうなるのか，効率100%の省エネルギー機器はあり得るのか，電気の流れはどのような形で貯えることが可能か，見えないエネルギーの流れをどのようにして知ることができるのか，そしてエネルギー利用に関する技術はどこへ向かおうとしているのか等の諸問題について考える。

【授業の内容】

1　授業内容の説明
2　プラズマとその応用　(1)：プラズマとは？
3　〃　(2)：プラズマの特徴・性質
4　〃　(3)：プラズマの応用と計測
5　〃　(4)：未来を作るプラズマ
6　原子力発電について　(1)：核エネルギー
7　〃　(2)：原子力発電所とその構造
8　〃　(3)：安全管理
9　〃　(4)：新しい原子力発電
10　グリーン電力について　(1)：日本の電力事情
11　〃　(2)：グリーン電力とは
12　〃　(3)：様々なグリーン電力
13　〃　(4)：グリーン電力市場の展望
14　レポート作成時間
15　レポート作成時間

【時間外学習】

自分の身の回りでの電気エネルギーの使用の状況，その問題点等を調べ考察することを求めるが，具体的内容は授業の時指示する。

【教科書】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

【成績評価の方法及び評価割合】

平常点（各回毎に簡単なレポート・他）20%，課題レポート80%，［出席2/3未満は自動的に不合格］

【注意事項】

課題レポートは講義内容の一部，または全般的事項について講義内容をまとめたもの及び感想，意見，提言を書く。ただし講義内容をまとめたものがない場合は受理しない。また感想，意見，提言は自分自身で考えて書くこと。参考書等を写したものは認めない。工学部機械・エネルギーシステム工学科(エネルギー)は受講不可

【備考】

後藤雄治（工），高坂拓司（工）もあわせて担当します。

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
植物細胞工学 (Plant Cell Technology)	全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経	前期	金2	泉　好弘 内 線 7577 E-mail　yizumi@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

近年マスコミでも報道される機会の多い，高等植物のバイオテクノロジーに関連する基礎的研究を解説していく。植物バイオテクノロジーには，組織培養、半数体・倍数体植物の育成、プロトプラスト培養、遺伝子導入など様々なテクニックが実用化されてきたが，それらの生物学的成果と応用例（農学的・薬学的成果）を解説し、それらの将来性や問題点を考えていく。その他，動物のバイオテクノロジーの分野で話題となった事例についても簡単に解説する。まずは，新しい科学技術に興味を持ってもらいたい。

【具体的な到達目標】

本講義をとおして、バイオテクノロジーという新しい技術をやみくもに恐れるのではなく，その必要性や問題点を正しく理解し，この新しい技術に対する自分なりの考え方を確立させてもらいたい。そのうえで，正しい根拠をもとに，この技術に対する賛成または反対の意見を言えるようになってもらいたい。

【授業の内容】

1) バイオテクノロジーに関する最近の話題
2) カルス形成
3) 不定胚形成
4) 成長点培養
5) 胚培養
6) 人工種子
7) 半数体の育成
8) 有用物質の大量生産
9) プロトプラストの単離と培養
10) 細胞融合
11) 遺伝子導入（方法）
12) 遺伝子導入（実例）
13) 遺伝子組み換え食品について
14) 遺伝子組み換え食品の問題点
15) 環境問題とバイオテクノロジー

【時間外学習】

新聞報道やテレビのニュース，報道番組などを，興味を持って見て欲しい。

【教科書】

使用しない。講義中に資料を配布する。

【参考書】

講義の中で随時紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】

期末試験 70%,　授業中の態度 30%

【注意事項】

特になし。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
電気の世界I (World of Electro-technology I)	全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経	後期	月2	榎園正人 内線　7821 E-mail　enoki@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

電磁現象を利用した電気工学の世界は，一見すると昨今の超能力じみた世界に見える。しかしそこには確固たる自然科学の法則が貫かれ，それに基づいたものである。２１世紀は新たな電気工学の技術が台頭しょうとしているが，それは電場・磁場といった空間をコントロールする技術である。そのような中で近年，電場・磁場を利用したごまかしの器具や意味不明の装置が巷にあふれ，電気・磁気というとなにか摩訶不思議な力が備わっているように捕らえがちである。そこで本講義では，学生諸君に対し，この電磁現象の正しい理解を与え，物事の正しい判断ができるような視点を育てることを目的とする。

【具体的な到達目標】

【授業の内容】

最初に電気・磁気から電磁気に至る歴史を通じて，我々が自然界をどのように考え，それを我々の社会に役立たせるべく発展してきたかを学ぶ中で，講義の基本的目的である科学的なものの見方を学ぶ。次いで，近代技術として確立した電磁気学の世界に足を踏み入れて，その電磁現象を利用した技術を紹介し，今後未来に対してどのような技術革新が起こるのであろうかを一緒に考えていく。具体的な講義テーマは

1. 電気の歴史　～電気・磁気から電磁気学へ～
   - ・電気・磁石の発見からファラディーの世界
   - ・マクスウェルの電磁方程式が切り開く新しい世界
   - ・エジソン，ベルからコンピュータへ
2. 電磁場の世界の技術　～工学と物理学～
   - ・電気工学とは？
   - ・電磁気学の世界
   - ・電磁場の世界を描くコンピュータシミュレーション技術
3. 電磁材料の世界　～高性能材料からインテリジェント材料へ～
   - ・アモルファス磁性材料の世界
   - ・超高性能永久磁石
   - ・形状記憶材料
4. 大分大学磁気工学研究室における新技術の紹介

【時間外学習】

【教科書】

なし

【参考書】

講義の中でここのテーマに応じた参考書を紹介する

【成績評価の方法及び評価割合】

筆記試験（レポート評価は行わない）

【注意事項】

講義はＯＨＰ機器を使用して行うので，講義内容の修得に努めてほしい。

【備考】

後・月

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
機械と文明 (The Impact of machines on civilization)	全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・医	後期	水1	後藤真宏/他の2名は未定（工学部） 内 線 7772 E-mail masagoto@cc.oita-u.ac.jp（後藤）

【授業のねらい】

工学の一つの専門分野である、機械工学が現代社会および社会生活とどのように係わっているかを、歴史的な側面と共に、基礎的な知識として習得することを目的とする。機械工学を構成するものとして、伝統的に四力（りき）、すなわち、材料力学、熱力学、流体力学、および機械力学が挙げられるが、これらの分野を通して、基礎的な内容から、先端的なものまで、極力数式は避け、平易に講述することに努め、機械工学への理解を深めるとともに、機械工学の現代社会・社会生活へ占める役割・今後の発展へのより深い理解を提供する。授業の展開は、関連する専門分野の教官3人で行う。特に、他の工学関係の授業科目との関連性にはこだわらない。

【具体的な到達目標】

機械工学の基礎的専門分野である、材料力学・機械力学及び流体力学的視点から、それぞれの専門基礎的な内容、およびそれらの応用・社会への活用状況などを歴史的発展などを加味しながら、機械工学的素養を修得できる。ただ、極力数式的展開は避けるとはいうものの、多少の基礎的知識（高校における数学・物理関係の基礎知識）が持っている方が望ましいと考える。

【授業の内容】

下記の三つの分野内容を行う。順序は、その年度の各教員の職務内容により異なるので、事前に講義内容として明示することは困難である。

(1)材料力学− 大きな力が加わる機械は、その強さを保証し破壊を防ぐため金属材料から造られることが多い。これら金属はどの位の強さを有し、どの様に破壊が起こるのか、また材料の破壊を防ぐための工夫などについて、幾つかの事例を挙げて概説する。

(2)機械力学− 未定

(3)流体力学− 未定

【時間外学習】

配布資料等を予習して授業に臨んでほしい。

【教科書】

必要に応じて資料を配付する。

【参考書】

講義の際に指示する。

【成績評価の方法及び評価割合】

出席：50%（2/3以上の出席が評価対象要件）、レポート：50%（全レポート提出が評価対象要件）

【注意事項】

「成績評価の方法」に示したように、各教員から課せられたレポートはその全てを提出することが成績評価の条件である。

【備考】

工学部学生の受講は認めない。原則として授業開始時に出席をとり、その後入室した者は欠席とする（遅刻は欠席とする）ので、余裕をもって来ること。

授業科目名（科目の英文名）
エレクトロニクスの世界II (Introduction to Electronics II)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・医	後期	水2	厨川明　他２名（佐藤輝被、鍋島隆） 内 線 7845 E-mail　akuriya@eee.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

エレクトロニクスの基礎から応用まで，最近のトピックスを交えた講義を行う。

(1)「情報」，「シミュレーション」という言葉を工学的な立場から考え，一般的な事例をあげて定量的に評価する方法を，難しい数式などをできるだけ使わずに概説する。(鍋島)

(2) 近年の情報化社会に不可欠な電子計算機に関する基礎知識とその基本となるディジタル回路について理解を深める。(佐藤)

(3) エレクトロニクスの基礎である電気磁気に関する法則の体系（電磁気学）を，簡単なデモを交えて概説する。(厨川)

【具体的な到達目標】

(1)「情報」や「シミュレーション」という用語を，ある程度理論的に明確な意味付けされたものとして理解する。又，パルス技術についてその考え方，技法を実例をもとに習得する。

(2)電子計算機の基礎用語を理解し，論理代数公式の証明および基本的な論理回路の設計ができる。

(3)個々の知識というよりも，その根底にある理工学的な考え方を電磁気学における論争を通して理解する。

【授業の内容】

以下の3テーマ（各4～5週）によって構成される。

(1) 情報とシミュレーションおよびパルス技術

1)情報量とエントロピー　2)シミュレーション　3)パルス技術

(2) ディジタル回路と電子計算機

1)電子計算機の基礎知識　2)論理代数と基本定理　3)論理回路とその設計

(3) 電磁気学における論争

1)電気磁気の基本法則　2)電気磁気のエネルギー　3)物体に働く電気磁気の力

【時間外学習】

事前，事後学習の指導については，特に行わない。

【教科書】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法及び評価割合】

(1)，(2)，(3)の各講義が終了後，そのつど試験を行う。試験の成績は，３回分の平均点によって評価する。従って，学期末試験は実施しない。授業回数の2/3以上出席していなければ，再履修とする。

【注意事項】

板書やOHP等(PowerPointによるスライドを含む)により講義を行う。工学部の学生は受講不可。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
情報科学の世界 (Introduction to Information Science)	全学共通科目 自然

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経	後期	金2	伊藤哲郎 内 線 7868 E-mail ito@csis.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

我々の周りにはさまざまな情報が渦巻いている。これらの情報は，数値や文字であったり，音声や画像で表現されたりとその形態が一様ではない。また，その内容も広範囲で多岐に渡っている。情報科学は情報を取り扱うときの基礎となる理論の体系であり，20世紀後半に生まれた新しい科学である。

この講義では，我々の身近にある情報を取り上げ，その特徴ならびに使い方にかかわる基礎的な考え方を紹介する。さらに，コンピュータによる情報処理についても言及する。

【具体的な到達目標】

情報科学における考え方には，多くの視点のあることが分かる。
情報科学の基礎となる数学的な考え方について学ぶことができる：確率，統計など。
情報科学・情報技術の応用について知ることができる：WWW，電子図書館，パターン認識など。

【授業の内容】

1) 情報科学とは
2) データのばらつきを科学する － 確率と分布 －
3) 意思決定のための情報を作り出す － データ解析の技術 －
4) 情報洪水に溺れないように － WWWとインターネット －
5) 知識から情報へ － 図書館と電子図書館－
6) 情報の主たる担い手：言葉を解剖する － 自然言語処理 －
7) 計算機はどこまで知的になれるか － 人工知能 －
8) 百聞は一見に如かず － 画像処理とパターン認識 －

【時間外学習】

課題レポート等（各担当教員の指示による）。

【教科書】

教科書は用いない。適宜，参考資料を配付する。

【参考書】

【成績評価の方法及び評価割合】

各担当教官員によるレポート・小テストの評価を集計することにより評価を行う。

【注意事項】

工学部知能情報システム工学科の学生は受講不可。

【備考】

・藤田米春(工)，末田直道(工)，越智義道(工)，中島 誠(工)，原 恭彦(工)，行天啓二(工)もあわせて担当する．
・すでに全学共通科目の「情報科学概論」あるいは「情報科学入門」の単位を取得している学生は，
本科目を受講することはできない。

授業科目名（科目の英文名）
教養としてのコンピュータ (Liberal Studies of Computer)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経	後期	金2	谷野　勝敏 内 線 7591 E-mail　tanino@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

現代は情報化社会といわれている。コンピュータによる情報処理技術が社会のあらゆるところで使用され，我々はその恩恵に浴している。このような社会で生活する我々にとってコンピュータについて学び，正しい知識を得ることは非常に大切である。

本講義ではコンピュータの歴史，仕組み，利用形態など，一般教養として知っておきたい最低限の知識を修得することによって，コンピュータのハードウェアとソフトウェアについての理解を深めることを目的とする。

【具体的な到達目標】

1 コンピュータの歴史についての知識が十分である。
2 ２進数および２進数の演算が理解できている。
3 コンピュータ内部での情報の表現が理解できている。
4 コンピュータの５大機能および５大装置が説明できる。
5 補助記憶装置の種類および動作原理が説明できる。
6 コンピュータの利用形態が理解できている。
7 オペレーティングシステムについての理解ができている。

【授業の内容】

1　この講義の受講上の注意および講義内容の説明
2　コンピュータの出現
3　２進数の世界
4　２進数の演算
5　コンピュータ内部での情報の表わし方
6　コンピュータ内部での数値の表わし方
7　コンピュータ・システム　５大装置
8　コンピュータ・システム　入出力装置
9　コンピュータ・システム　記憶装置
10　コンピュータ・システム　演算・制御装置
11　コンピュータの種類
12　パーソナルコンピュータ
13　コンピュータの利用形態
14　オペレーティングシステム
15　アプリケーションソフトウェア
16　試験

【時間外学習】

【教科書】

吉田敬一著：教養・コンピュータ 第４版：共立出版

【参考書】

コンピュータ・ハードウェア関係の書籍，雑誌

【成績評価の方法及び評価割合】

課題レポート30%，試験の成績70% で総合的に判断する。

【注意事項】

工学部生は受講してもかまわないが，単位認定は行わない。教育福祉科学部技術選修生は受講不可。

【備考】

本講義は隔年開講です。2012年度は不開講

授業科目名（科目の英文名）
福祉と工学技術 (Technology of Helping People with Special Needs)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・ 医・工	前期	水1	池内秀隆 内 線 7944 E-mail hikeuchi@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

高齢社会の到来とともに、それらの問題を解決する取り組みが重要性を増し注目されています。この講義では福祉に関する工学技術・電子情報製品・機械製品に関する話題を提供し、これらへの理解を深めるとともに、福祉分野における機器利用・工学的手法の役割や重要性を認識することをねらいとしています。

バリアフリーやユニバーサルデザインという言葉を見かけることが増えました。これらの考え方や身近に応用されている福祉的工学技術を紹介し理解を深めます。また、このような分野の話題を理解するために必要な用語や分野の内容、研究概要なども紹介します。さらに、障害者や高齢者の生活を支援する機器や支援技術(Assistive Technology)について学びます。これらを普及していくために産業との関連やや制度・政策に関連する項目も紹介します。

【具体的な到達目標】

・福祉に関する支援技術・機器利用の重要性について理解を深めること
・福祉機器・介護機器について理解を深めること。
・福祉機器や介護機器の市場・利用法についての問題点を理解し、今後の方向性について考察できること。
・福祉工学・リハビリテーション工学など学問分野についての概要を理解すること。

【授業の内容】

次のような項目に関して講義を行います。
1. 障害とは何か：障害の種類，障害に対する誤解など
2. 福祉と工学：福祉工学とはなにか，福祉工学の歴史や現状
3. 身近な福祉関連技術
　バリアフリー・ユニバーサルデザイン・共用品・情報機器アクセシビリティ・Webアクセシビリティなど
4. 障害と福祉機器
福祉機器とその市場，視覚障害に関する機器，言語障害・聴覚障害に関する機器，義肢装具，車いす，福祉車両，杖・歩行器，自助具，コミュニケーション機器，介護ロボット，知的障害や記憶・認知障害に関する道具や工夫
5. まとめ

【時間外学習】

資料を基に予習もしくは復習をしてください。

【教科書】

基礎 福祉工学，手島教之，米本清，相川孝訓，相良二郎，糟谷佐紀，コロナ社

【参考書】

バリアフリーのための福祉技術入門、足立芳寛、後藤芳一、オーム社
福祉情報技術１、e-AT利用促進協会、ローカス
「誰でも社会」へ−デジタル社会のユニバーサルデザイン−、関根千佳、岩波書店
http://www.kyoyohin.org
ほか

【成績評価の方法及び評価割合】

筆記試験による評価を行います。

【注意事項】

「福祉と技術」を受講(単位取得) した者は，受講できません。重複履修となりますので，注意してください。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
カラダの見方・考え方 (Ways of looking at Human Body)	全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経	後期	月2	牧野治敏 内 線 7644 E-mail hmakino@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

現代の科学、あるいは科学的な常識を批判的に捉えることをねらいとしている。そのために、生物学の歴史を例として、特に前学期の教養教育科目「生命観の変遷」の内容から、ヒトの身体に焦点をあて具体的に考察することをねらいとする。

【具体的な到達目標】

1）進化論の概略と、それを受け入れる社会について例を挙げて説明できる。
2）唯物論的自然観に基づく生命観，身体観を説明できる。
3）ヒトの生物学的な位置づけを説明できる。
4）理論と実践の関係について、日本とヨーロッパを比較できる。
5）事実を踏まえて、臓器移植についての見解を述べることが出来る。

【授業の内容】

1）人体の扱い方から命のとらえ方を探る(授業の概略)
2）エジプトでの死体処理２：ミイラの製法
3）エジプトでの死体処理２：ミイラを作る理由
4）ギリシャでの医師の仕事：医師の仕事から命の考え方を探る
5）ギリシャの科学は、どう伝わったのか（中東諸国の役割）
6）暗黒時代からルネサンスへ：画家たちによる人体の見方の変革
7）実践的な解剖学の復興：ヴェサリウスによる改革
8）中世以降の死体の保存術について。
9）現代の進化論からみたヒトの位置付け
10）進化論とヒト：霊長類との比較からヒトを考える
11）カラダの記録（絵、模型、人体標本、ビデオ等による記録）
12）日本における人体の記録（仏教思想を反映した絵巻など）
13）江戸医術から考える人体のとらえ方（漢方、古方、蘭方）
14）江戸時代の人体利用ビジネス
15）現代の話題：臓器移植について考える
16）定期試験・テスト

【時間外学習】

1）ギリシャ哲学についての基本的な事項を学習しておくこと
2）WebClass上に授業資料を掲載します。また、課題を出題します。
3）授業の内容は「グローバルキャンパス」でオンデマンド配信します。

【教科書】

使用しない

【参考書】

図解科学の歴史（八杉龍一）東京教学社、
生命観の歴史（G．スミス、八杉龍一訳）岩波書店、
解体新書(杉田玄白、酒井シヅ）講談社学術文庫、
人体解剖図（ベンジャミン・リフキン他）二見書房

【成績評価の方法及び評価割合】

期末試験50%、授業後のレポート30%、WebClassからの課題20%

【注意事項】

生物学の内容が基本ですので、解剖図、写真、ビデオ等を説明に使います。常識の範囲内のものですが、苦手な人は受講選択の際に注意してください。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
ケアから導く創造力＝三好春樹の思想と方法

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1・2	教・工	後期	火1	工藤　修一 内 線 7947 E-mail takamine@cc.oita.u.ac.jp

【授業のねらい】
三好春樹は，現場で絶大な支持を受けている介護界のカリスマです。これは，彼の思想・方法論が高齢者の生活に根ざしたものであり，具体的な手段をもつつとともに，創造的なアプローチをしていることにあります。本講義では，介護において出合う典型的な場面・状況について，「なぜ，そのようなことが生じるのか」，「どのようにすれば解決できるのか」などについて，グループディスカッションを通じて学びます。

【具体的な到達目標】
1　複眼的思考をみにつける
2　ケアの学びから，創造力を涵養する。

【授業の内容】
1. オリエンテーション
2. 関係障害１
3. 関係障害２
4. 関係障害３
5. 生活障害１
6. 生活障害２
7. 生活障害３
8. 認知症１
9. 認知症２
10. 認知症３
11. 事例分析１
12. 事例分析２
13. 事例分析３
14. 事例分析４
15. まとめ

【時間外学習】
三好春樹の著作は一切読まないで講義に臨んでください。理由は初回の講義で説明します。

【教科書】
使用しない。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】
試験レポート100点。

【注意事項】
○取り扱うのは高齢者，あるいは介護に関わる際の「視点」であり，排泄ケアなどの介護「技術」ではありません。
○「入門的」な内容ですので，医療・福祉現場に従事したことがある社会人学生等にはあまりお勧めできません。
○グループワークが中心です。
○私語などは厳禁です。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
健康と看護 (Health and Nursing)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・工	後期	水2	井上 亮（医学部看護学科） 内 線 5051 E-mail ryo@med.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

「健康で自分らしくありたい」という願いは、全ての人々に共通するものであろう。健康を守る責任の基本は個人にあるとはいえ、私たちは日常生活の中で自身や家族の健康を守ることをどのくらい意識して実践しているだろうか。

本科目では、学生が自分や家族の健康に関心をもち、生涯にわたり健康を自ら守るための実践的知識を得ることを目的に、発達段階（誕生～子ども～青年～成人～高齢者）や健康段階（病気の予防、回復、安らかな死）に応じた健康支援・看護の知識を教授する。

【具体的な到達目標】

1. 看護の概念を理解し、自分が生活の中で実践している健康を守るための知識に関心をもつ。
2. 健康の概念および健康のための自己決定について理解する。
3. 人々の健康課題（生命の誕生、子どもの成長・発達、生活習慣病予防、安らかな死、健やかな老い、地域生活の継続、病気からの回復等）とそれらを解決する看護の方法を理解する。

【授業の内容】

毎回、看護学科の教員が、それぞれの専門性にそって、オムニバス形式で授業をすすめる。

10/5 ｺｰｽｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ　生活と看護　原田
10/12 生命の誕生と看護　水谷
10/19　子どもの健康と看護　宮崎(史)
10/26 成人の健康と看護　脇
11/2 ＤＶから私を守る、人々を守る　菅原
11/9 がんと共に生きる人々への看護　徳永
11/16 人生を生きることを支える看護　寺町
11/23 生活習慣病と脳卒中　井上
12/7 認知症を正しく知ろう　三重野
12/14 家族・集団・地域の健康と看護　志賀
12/21 私の健康、人々の健康　杉田
1/11 高齢者とのよりよいコミュニケーション　末弘
1/18 感染予防と看護　宮崎(伊)
1/25 子供の健康　穴井
2/1 糖尿病の起こり方と予防法　浜口
期末試験　井上

【時間外学習】

なし

【教科書】

なし

【参考書】

授業中に担当教員が適宜紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】

・期末試験（100%）
・2/3以上の出席がなければ期末試験の受験資格を失う。

【注意事項】

・毎回の授業終了時に評価シートの提出をもって出席状況を確認する。
・医学部の学生は受講対象にならない。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
医科学入門 (Introduction to Medical Science)	全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・工	後期	水3	西園　晃 内 線 5710 E-mail　a24zono@med.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

受講者が科学としての医学を理解することで、それを日常生活に役立てると共に、医学以外を専門とする方に医学研究への入り口となる事をねらいとする。毎年一つの病態に的を絞り、その概念とそれがどのような原因で引き起こされるのかについて人体の構造と生理機能の基礎を細胞レベル、遺伝子レベルからわかりやすくひもとき、病気の成り立ちの仕組みとそれに関わる社会的要因などにも目を向け、これらに対処する予防、治療などの臨床的事項にまで学習を広げる。最終的には疾病を理解するためにどのような科学的アプローチが現在の医学研究の中で用いられているかを知る。

本年度は「生活習慣病」を主題材に取り上げる。高血圧、糖尿病、心臓病、脳卒中、動脈硬化症、脂質代謝異常などこれまで「成人病」と呼ばれていたものが、日常生活の中で習慣として日々繰り返される食生活、喫煙、飲酒、運動、ストレスなどの「生活習慣」から、肥満を複合してメタボリックシンドロームと総称されることはよく知られている。現在生活習慣病はがんに次いで日本人の死亡原因の多くを占めるまでになっており、生活習慣病の推定有病者数は6,000万人以上ともいわれる。

生活習慣病の病態を知るために本開講科目では、我々のからだの基本的な仕組みを知り、その仕組みがどんな原因でどのように乱れた時に病気、特に生活習慣病が引き起こされるのか、実際にどのような病気が生活習慣病に含まれるのか、どのような治療法が実際に行われているのか、これらを知るために、医学部関連分野の複数の教官がオムニバス形式で主題の理解を促す。

【具体的な到達目標】

1. 生活習慣病、メタボリックシンドロームについて説明できる
2. 糖質代謝、脂質代謝について説明できる
3. 糖質代謝、脂質代謝異常の病態について説明できる
4. 生活習慣病のリスク要因を列挙できる
5. 生活習慣に関連した疾病を列挙できる
6. 食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる

【授業の内容】

1. 生活習慣病、メタボリックシンドロームについて－ 総論－
2. 細胞のエネルギー代謝について
3. 栄養について
4. 肥満について
5. 動脈硬化症について　Ⅰ，Ⅱ
6. 高血圧について　Ⅰ，Ⅱ
7. 脳血管障害について
8. 糖尿病について　Ⅰ，Ⅱ
9. 心臓病について
10. 小児成人病について
11. アルコール摂取と肝障害について
12. 運動について
13. 試験

【時間外学習】　推薦参考書の予習

【教科書】

特に定めないが、講義の理解を充分にするために、推薦する参考書等を購入して、予習･復習を行うことを薦める。

【参考書】　追って掲示する

【成績評価の方法及び評価割合】　期末試験　80%　出席率　20%

【注意事項】　特になし

【備考】

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
地域と財政 (Regional and Public Finance)	全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経	前期	月2	井田　知也 内 線 7705 E-mail　ida@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
現在、中央・地方を問わず各々の財政状況は厳しい状態にあり、今後高齢化社会の到来によりその傾向は益々悪化すると思われる。財政は我々の生活に密接しているにも拘らず、その実態が一般的に分かりにくいこともありそれへの関心は依然として低い。このような認識のもとで、本講義では単なる財政の制度解説や現状紹介を行うだけでなく、そのあり方を識者見解もまじえ一緒に考える。

【具体的な到達目標】
財政に関連する制度や諸問題を理解すると同時にそれに対して各自がコメントできるようになる。

【授業の内容】
1. ガイダンス
2. 財政赤字の現状
3. 財政破綻と増税(1):識者見解
4. 財政破綻と増税(2):意見交換
5. 社会保障の現状
6. 年金の維持可能性(1):識者見解
7. 年金の維持可能性(2):意見交換
8. 介護・医療の問題点(1):識者見解
9. 介護・医療の問題点(2):意見交換
10. 地方財政の現状
11. 道州制の是非(1):識者見解
12. 道州制は是非(2):意見交換
13. 地方での改革(1):識者見解
14. 地方での改革(2):意見交換
15. 大分県の市町村財政

【時間外学習】
日本経済新聞の購読

【教科書】
配布資料

【参考書】
講義中に適時紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】
期末試験(70%)と講義レポート(30%)を総合的に評価する。

【注意事項】
各テーマに関して現状・制度の解説や識者見解の紹介を行った後、それに対する受講者の見解を授業中に講義レポートとしてまとめ、それに基づき意見交換を行う。そのため、A4サイズのレポート用紙は毎回持参すること。

【備考】
来室予約や質問等はEmailで受付ける。なお、言うまでもなく講義中の私語・携帯電話は厳禁である。

授業科目名（科目の英文名）
江戸時代の日本と世界 (Japan and the World in Edo period)

区分・分野・コア
全学共通科目 人文

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1	教・経	前期	月2	鳥井　裕美子 内 線 7523 E-mail

【授業のねらい】
日本は、アジアの中で最も早く「近代化」に成功した国と長年言われてきた。しかし、政治・経済の閉塞感が強まり、近代化＝西欧化の再検討が進む中、「日本らしさ」を体現する江戸時代が再評価されている。この講義では、「国際環境」「異文化理解」「伝統と革新」をキーワードに江戸時代を見つめる。

【具体的な到達目標】
「鎖国」イメージがまだ強い江戸時代の日本が、実は朝鮮・琉球・オランダ・中国（明・清）との外交・貿易関係を持ち、イギリス・ロシア・フランス・アメリカ等、国際社会とも双方向の影響関係を持っていたことを認識するのが目標。今回は西欧諸国との関係に重点を置く。

【授業の内容】
①導入
②江戸時代以前の日本人の世界観と外国人の日本観
③17世紀初頭の東アジアの国際環境ー朱印船貿易の時代
④徳川幕府の対外政策の枠組みの完成
⑤日本と中国（明・清）
⑥日本と朝鮮王国
⑦日本とオランダ・イギリスー平戸貿易の時代
⑧オランダの貿易独占ー長崎貿易の時代
⑨「鎖国」下の国際情報ーオランダ風説書
⑩18世紀、啓蒙主義ヨーロッパにおける日本情報
⑪ロシアの南下と北方問題
⑫ロシア研究の時代
⑬19世紀初頭の日本とロシア・イギリス・オランダ
⑭日本とアメリカ
⑮幕末の日本ー庶民の世界観
⑯試験

【時間外学習】
特になし

【教科書】
なし

【参考書】
講義の中で紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】
出席点と期末試験で評価する。

【注意事項】
日本史・世界史の基礎知識を有することが望ましい。

【備考】
時々豆テストを実施する。

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
やさしいEU入門 （Introduction to EU Studies）	全学共通科目 人文

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	経・工	前期	木2	城戸　照子 内 線 7946 E-mail tkido@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

この授業では、欧州連合（EU）が今何をしているのか、将来何を目指しているのか、過去から今までどのように統合してきたかを、知ることを目的としています。そのためには基本的な知識を整理して、複雑なEC/EUの統合の歴史と、現在のガバナンスのしくみを理解しなければなりません。大きな目標としては、EUという窓を通して、変化しつつあるヨーロッパの姿を理解したいと考えています。

【具体的な到達目標】

1　EUのガバナンスのしくみを理解する。欧州委員会、欧州理事会、欧州議会のそれぞれの機能と役割を知る。
2　市場統合によるモノの自由移動を可能にするための作業を知る。
3　通貨統合を可能にした欧州の通貨政策の歴史と欧州中央銀行の役割を知る。
4　人（労働力）の自由移動を可能にするために必要な作業とその現状を知る。
5　国境を越えた経済統合の可能性と良い影響について知る。

【授業の内容】

1　EUはいつ成立したか（EC/EU統合の拡大について）
2　EU加盟各国のプロフィール
3　ヨーロッパ統合の利点（巨大な経済圏の成立）
4　日本とEUには関係があるか
5　現在のEUを運営する国は
6　欧州委員会の仕事とは何？（EUの重要な実務集団）
7　欧州委員会の仕事と各国政府との関係（補完性の原則）
8　ヨーロッパにとってユーロはどのくらい大事か？
9　ユーロを統括する欧州中央銀行の役割
10　モノの移動に必要な作業
11　EU域内の貿易について
12　人の自由移動に必要な作業
13　どうすればヨーロッパ市民権を確立できるか
14　欧州統合の中における国境を越えた地域の役割
15　欧州統合にこれから必要な活動は何か
16　定期試験

【時間外学習】

EUに関する新聞記事やニュースをこまめにチェックすること。また知識の定着をはかるため、講義後30分程度、ノートした板書事項やプリントを読むことで、復習してほしい。

【教科書】

基本的な知識の整理のため、以下の新書を1冊教科書として指定するが、それ以外に読むことが必要な文献は、講義中に文献目録を配布して推薦する。テキストとして藤井義博著『EUの知識　第15版』日本経済新聞社、2010年。

【参考書】

佐藤・高橋他『A Dictionary of the Enlarged European Union 拡大EU辞典』，小学館，2006年

【成績評価の方法及び評価割合】

小テスト（50点）および学期末試験（50点）で評価する。

【注意事項】

甚だしい遅刻はしないこと。講義中の私語・携帯電話の使用は厳に慎んでほしい。講義中に配布したプリントは、ノートに貼るなりして良く読んだ上保持しておくこと。

【備考】

この講義では基本知識の整理を目標としています。専門的な講義に関心がある人のためには、経済学部でスティーヴン・デイ先生の講義が開講されています。是非おすすめします。

授業科目名（科目の英文名）
少子高齢化と地域福祉社会 (Welfare of Socity with a declining birthrate and an aging population)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・医・工	後期	水1	奥田　憲昭 内 線 7685 E-mail　nokuda@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
1．日本の人口構造の変化と原因を認識する。
2．少子高齢化が社会に及ぼす影響や問題を理解する。
3．問題状況に対する社会の取り組みを考える。

【具体的な到達目標】
ねらいと同じ

【授業の内容】
1．人口と社会システム
2．少子化の推移と原因
3．少子化の家族
4．少子化と地域社会
5．少子化と教育
6．少子化と経済
7．日本の少子化対策
8．世界の少子化対策
9．高齢化の推移と原因
10．高齢化の原因
11．高齢者と病気・貧困・孤独
12．高齢者と社会関係
13．高齢者と介護問題
14．高齢者と認知症
15．認知症と地域支援システム

【時間外学習】
授業ノートをまとめる。
紹介された本を購読する。

【教科書】
プリントを配布

【参考書】
授業で紹介

【成績評価の方法及び評価割合】
出席と試験

【注意事項】

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
ジェンダー論 (Gender studies)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合分野

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・ 医・工	後期	水3	根笈　美代子 内 線 7602 E-mail　neoi@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

今回の「ジェンダー論」は「働く女性とリプロダクティブ・ヘルス／ライツ」をとりあげる。具体的には「働く妊婦」を巡る問題であるとか，妊娠・出産調査プロジェクト-聞き取り調査から-，働く女性の健康問題などを中心に授業を進めていく。今後の女性労働者の健康支援について，あるいは，マタニティ・ハラスメントという観点などから問題を探っていく。女子学生のみでなく男子学生にも考えて貰いたい。現在は共働きをする夫婦が多く社会人として当然知っておいて貰いたいためである。

【具体的な到達目標】

1. マタニティ・ハラスメントとは何か
2. 育児休業を選択せず働き続けて，公務の職場で，派遣社員，パート社員，産休申し出による退職勧奨，転勤に　よる退職
3. 健康に関わる女性労働者のための法律について
4. 女性ホルモンの影響，女性の死因，乳がんと子宮ガン，心疾患，骨，精神疾患などについて知る

【授業の内容】

1. 「働く妊婦」をめぐる問題-マタニティ・ハラスメント-
2. 「働く妊婦」をめぐる問題-マタニティ・ハラスメント-
3. 「働く妊婦」をめぐる問題-マタニティ・ハラスメント-
4. 妊娠・出産調査-聞き取り調査から-
5. 妊娠・出産調査-聞き取り調査から-
6. 妊娠・出産調査-聞き取り調査から-
7. 働く女性の健康問題
8. 働く女性の健康問題
9. 働く女性の健康問題
10. 労働組合による男女平等と経済発展-スウェーデンをめぐる一考察
11. 労働組合による男女平等と経済発展-スウェーデンをめぐる一考察
12. 労働組合による男女平等と経済発展-スウェーデンをめぐる一考察
13. 労働組合による男女平等と経済発展-スウェーデンをめぐる一考察
14. 改正均等法施行規則・指針の解説
15. 正規・非正規間の処遇の公正化はどこまで進んでいるか-最近の労働調査から-

【時間外学習】

予習・復習など配付したプリントなどを良く読むこと

【教科書】

「格差拡大に挑む」女性労働問題研究会　青木出版　２００７　１５００円＋税

【参考書】

【成績評価の方法及び評価割合】

毎週簡単なレポートを書かせる。１０点　　試験９０点　　計１００点

【注意事項】

【備考】

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
マルチメディアとコミュニケーション (Multimedia and Communication)	全学共通科目 社会

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・医・工	後期	水3	市原 靖士 内 線 7587 E-mail ichihara-yasushi@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

コミュニケーションスキルは現代社会においてもっとも重要なスキルの一つである。特に、高度情報社会となった現在社会においては、コンピュータを用いたマルチメディアによるコミュニケーションスキルの習得は必須である。そこで、本授業においては、プレゼンテーションやWeb技術による情報発信の現状やそのスキル、背景にある心理的スキルの習得に関する授業を教育的視点から展開する。

【具体的な到達目標】

・発信したい情報を正確にプレゼンテーションできる
・Web技術を用いて情報発信ができる
・コミュニケーションと情報に関する知識・技能

【授業の内容】

・コミュニケーションと情報(2)
・コミュニケーションと認知科学(2)
・プレゼンテーションの実際(2)
・プレゼンテーションの演習(4)
・Web技術の実際(2)
・Web技術の演習(3)
など

【時間外学習】

課題制作　ディジタルポートフォリオ

【教科書】

・適宜配布

【参考書】

・適宜配布

【成績評価の方法及び評価割合】

課題制作 50　試験(プレゼンテーション実演を含む) 50

【注意事項】

・授業は教育的視点から展開するため、コミュニケーション対象が小中高生をメインターゲットとしている点に注意してください。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
現代国際政治と日本 (Contemporary International Relations and Japan)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3	経・工	後期	木2	鄭　敬娥 内 線 7637 E-mail　jeong@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
現代国際社会の基本的な問題とその背景を理解し，国際社会における日本の位置づけおよび役割を考える。

【具体的な到達目標】
1. 国際関係の基本的な構図とその成り立ちを理解する。
2. 戦後日本の形成を国際政治の文脈で理解する。
3. 国際社会と自分のかかわりを把握する。

【授業の内容】
1. 「主権国家」システムの形成と国際関係論
2. 第一次・第二次世界大戦と国際社会の変容
3. 戦後日本政治の形成１：占領と独立
4. 戦後日本政治の形成２：平和憲法と日米安全保障
5. 戦後日本政治の形成３：経済大国としての登場とその影響
6. 東アジア地域諸国と日本
7. 冷戦の終焉
8. グローバリゼーションの展開
9. 国境と人権をめぐって
10. 多文化社会の到来？
11. 国際的地域主義の出現１：ＥＵ
12. 国際的地域主義の出現２：アジア太平洋
13. 東アジア地域における日本の役割
14. 国際社会における多様な行為体の出現：ＮＧＯ／ＮＰＯ
15. 振り返り学習・まとめ

【時間外学習】

【教科書】
特になし。プリントなど配布。

【参考書】
松井康弘編『グローバル秩序という視点－－規範・歴史・地域』（法律文化社、2010年）。

【成績評価の方法及び評価割合】
レポート３０％，テスト７０％

【注意事項】

【備考】
日本技術者教育認定機構（JABEE）認定科目

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
地域社会へのまなざし (Viewpoint of Community)	全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	経・工	後期	木2	高島　拓哉 内線 E-mail

【授業のねらい】
地域社会に対する多面的なアプローチを通じて、地域社会の実践的主体者として自己形成するための基礎を培うことをねらいとします。

【具体的な到達目標】
地域社会学による地域社会理解の基礎を学びつつ、ごみ問題、介護問題、「有害図書」規制問題などの具体的テーマに関わらせて、住民参加での公共問題処理の課題について考える視点を習得します。もう一つの大きな論点としては市町村合併と行政区域について詳しく理解していただきます。

【授業の内容】
1　地域とは？　地域社会とは
2　「老人Z」から考える人間・環境・地域
3　共同体、アノミー、コミュニティ
4　ごみ問題・障害者駐車場問題
5　性教育・性表現・「有害図書」
6　国際化・構造改革から市町村合併へ
7　迷惑施設、受益圏・受苦圏、住民投票
（各項について１～２回程度を当てます）

【時間外学習】
新聞、ニュースなどで言っていることと講義内容を照らし合わせて検討する習慣を。

【教科書】
大久保武・中西典子編『地域社会へのまなざし』文化書房博文社、2006年。ただし毎回使うというわけではありません。

【参考書】
高島拓哉『都市経営論』つむぎ出版、2004年。高島拓哉『「地方分権」と現代の地域』つむぎ出版、1994年。その他、講義で紹介します。

【成績評価の方法及び評価割合】
レポート（100%）

【注意事項】
レポートの採点基準を最初の講義で述べます（基準を外すと０点になるので注意）。講義内容をふまえないレポートは評価しないなど、かなり厳しい内容です。

【備考】
15年度以前に「地域を見つめる目」の単位所得をした者は、この講義を受講できません（本講義は同科目の名称変更のため）。

授業科目名（科目の英文名）
電気も車もないアーミッシュ社会 (Amish Society Without Any Electric Appliances and Automobiles)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経	後期	金2	丸山　武志 内線 E-mail

【授業のねらい】

アメリカでは、２０万人以上のアーミッシュと呼ばれる再洗礼派のキリスト教を信仰する一派が各地でコミュニティ生活を享受しています。かれらは中世の農民生活を守りながら，電気も電話もテレビも自動車も使うことなく生活しています。

他方、わたしたちの社会では、これらの文明の利器は生活を便利に労働を楽にしてきましたが，わたしたちは額に汗して働くという人間の神聖な行為から遠ざかってきました。わたしたちのとこしえもない欲望（の解放）により，大量生産・大量消費・大量廃棄の社会が進み、環境問題が人類の未来を奪いかねない状態になっています。また、テレビや自動車や情報化など工業化にともなう消費文明の発展により，バーチャル・リアリティ、遺伝子組み替え食品、試験管ベビーなどの人工的な世界で人間が生きるようになり，人間と人間とのつながりや人間と自然との共生関係が徐々に失われました。人々が金銭的損得や物欲のみを追い求めるようになった結果，いじめや未成年者の殺人や家庭崩壊の問題(精神の荒廃)も生じています。

このような中でわたしたちはどのように生きていけばよいのでしょうか。そのことをみんなで考え話し合いましょう。

【具体的な到達目標】

アーミッシュ・コミュニティでは，二輪馬車(バギー)で自然を満喫しながら，金銭を得るために働くのではなく生活のためまたは自分を磨くために働き，テレビも電話もなく昔ながらの親密な家族や人間関係を大事にする社会が存在します。そのようなアーミシュの生活と文化を参照しながら，わたしたちの社会と生き方をじっくりと考えていきます。

【授業の内容】

１～３．旧アーミッシュOld Order Amishについて
４～６．家族制度
７～９．宗教とコミュニティ
１０・１１．アーミシュの結婚と生活
１２・１３．教育プラン
１４・１５．絶対的な平和主義と現代の諸問題　　(内容については変更することがあります)

【時間外学習】

授業前にテキストを読み、その内容についてよく考えること（１時間ぐらい）。

【教科書】

学生たちで作った教科書。

【参考書】

Ｊ・ウィットメア著，丸山武志訳『穏やかな人々（１～6）』，大分大学『経済論集』，1998年3月・1999年5月・11月・2000年11月・2001年3月・7月。その他は授業中に指摘します。

【成績評価の方法及び評価割合】

質問・意見表明・授業態度などの日常点（30%）と試験（70%）で評価します。

【注意事項】

授業の途中に教室への出入りをしないこと。
授業中は静かにすること。

【備考】

自分の生きている社会に関心を持ち、社会のニュースや情報などを好んで入手すること。

授業科目名（科目の英文名）
大分の水 I (Water environment in Oita)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・医・工	前期	水2	川野田實夫、市原宏一、前田寛、本谷るり、芝原雅彦、大上和敏、岡田正彦 内 線 7719 E-mail ich@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

大分県内の水辺を題材として、その自然環境や実際にそこで生活する人々との交流、野外体験と、教室での講義を通じて、環境や地域づくりについて実態的に理解を深めます。さらに体験実習による集団学習の体験を通じて、学生相互さらには地域の人々と共に学びあいます。

【具体的な到達目標】

1. 地域を題材として、自然と他者との共生、循環型社会、持続可能な社会など基礎的知識を習得するとともに、 専門学習を深めるきっかけとします。
2. グループ・集団での学習・生活など大学における基盤的な勉強法の習得をめざします。
3. 地域の人々との交流により社会生活上の基本的な関係のあり方も学びます。

【授業の内容】

第１回 ガイダンス
第２回 水と環境（1）（担当・川野）
第３回 ゼロエミッションコンセプトからとらえる水問題（担当・大上）
第４回 水辺のレジャー（担当・前田）
第５回 地域体験活動：水辺のレジャー実習：大分市田浦
第６回 里山の環境とトキの里つくり
第７～９回 地域体験活動：田植え等 九重、竹田、安心院
第１０回 里海の環境
第１１回 ビーチクリーン：大分市こうざき
第１２回 水と環境（2）（担当・川野）
第１３・１４回 特別講義水フォーラム総会記念講演会：大分市内
第１５回 まとめ
試験

【時間外学習】

実際に川辺・海浜で、レジャーや川遊び、水質調査、流域保全活動など様々な野外実習を行います。したがって、通常の授業日以外に、主に土日に野外実習が予定されています。

【教科書】

特にありませんが、授業で資料を配付します。

【参考書】

【成績評価の方法及び評価割合】

試験（30%）、講義・体験活動参加に際しての小レポート（70%）

【注意事項】

水辺でのバードウォッチング、スポーツ、川遊び、野外実習など体験学習に大きな比重を持ちます。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
化学物質と環境影響 (Ecotoxicology)	全学共通科目 総合

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教、経、工、医	前期	水3	吉岡　義正 内 線 7631 E-mail　yoshioka@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
"地球にやさしい"といった標語に含まれる意味を冷静・厳格に理解し、やさしくあるために必要な環境破壊のメカニズムに対する科学的な知識を習得する。化学物質による環境影響を数値化・評価して，地球生態系を保全するための基礎知識や技術を学ぶ。

【具体的な到達目標】
1 人類の課題の概要を説明できる。
2 化学物質による環境問題の現況を説明できる
3 化学物質による影響の評価法について説明できる
4 現在の化学物質規制について説明できる

【授業の内容】
1. 人類の問題：歴史的展開(地球誕生)
2. 人類の問題：歴史的展開(生命)
3. 人類の問題：人・食糧
4. 人類の問題：資源・環境
5. 化学物質の環境影響事例：ダイオキシン
6. 化学物質と環境影響事例：内分泌攪乱化学物質
7. 環境倫理：全体主義と世代間倫理
8. 環境倫理：自然の生存権
9. 環境問題の基礎：生態系のルールー
10. リスクの考え方
11. リスクアセスメント・リスクマネジメント
12. 生態影響評価システム
13. 生物試験法(PEC, PNEC)
14. 生態影響評価法
15. 社会的制度及びまとめ
16. 試験

【時間外学習】
配布されたプリントは事前に読んでおくこと。特に化学物質が関与する環境問題に係わる新聞報道等に留意すること。

【教科書】
必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】
1. 環境庁(編)　環境白書（総説）大蔵省印刷局，２. 保田仁資，やさしい環境科学　化学同人，３．加藤尚武，環境倫理学のすすめ，丸善ライブラリー，４．若林明子，化学物質と生態毒性，丸善

【成績評価の方法及び評価割合】
試験100%，試験は，主に記述形式で実施する。

【注意事項】
６回以上休んだものは受験資格を失う。

【備考】
化学の知識（化学物質の名称・構造・性質）を特に必要としない。環境保全に興味を持つ学生を歓迎する。

授業科目名（科目の英文名）
世界・日本・大分の農業経済論 (Agricultural Economics)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経	前期	金2	山浦 陽一 内 線 7677 E-mail yamaur@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

近年食料、農業への関心は高まりを見せています。2010年に限っても、口蹄疫、天候不良による野菜高騰、TPPと構造改革、米価急落、戸別所得補償制度開始等がニュース、新聞に踊らない日はありませんでした。本講義では、それら最新のトピックスのいくつかを入り口として、農業問題の広がりについて理解することをねらいとしています。

【具体的な到達目標】

この講義を通じて、例えば…、
「一人が一年間食べるご飯のために、どれくらいの田んぼが必要なの？」といった素朴な疑問から、
「なぜ日本の自給率は、先進国の中で特に低いか？」「サブプライム問題が日本の酪農へあたえる影響は？」
といった複雑な問題まで、世界、日本、大分の農業を理解し、また人に説明できるようになりましょう。

【授業の内容】

1．ガイダンス
2．世界・日本・大分の農業の現在
3．「五つの武器」論とは？
4．バイオ燃料生産の実態と影響
5．バイオ燃料と遺伝子組み換え作物の関係
6．世界の農産物貿易と日本農業
7．ＧＡＴＴ・ＷＴＯ体制と日本農業
8．日本の食料自給率の意味
9．戦後の日本農業の変貌
10．日本農業の多様性と地域性
11．大分県農業の性格と地域性
12．大分県農業の方向性
13．大学生と農業
14．まとめ
（以上は2009年度の講義内容であり、多少変更する可能性があります。なお2011年度は第15回まで実施します）。

【時間外学習】

希望者は新聞のスクラップを提出して下さい。質・量に応じて成績に加点します。記事は農業に関係するものに限定します。

【教科書】

教科書は指定しません。講義は、パワーポイントでおこない、スライドを印刷し配布する予定です。

【参考書】

毎回、講義内容に関連する書籍やビデオ、講演会等を紹介します。

【成績評価の方法及び評価割合】

講義中に小テストを行います。この小テストと定期試験で成績をつけます。定期試験は記述式を予定しています。配点の割合は概ね小テスト4割、定期試験6割で、それに新聞スクラップ分を加点します。

【注意事項】

特になし。

【備考】

将来就農を希望する人はもちろん、農村部の市町村や農協等への就職を考えている方、是非受講してください。なお講義計画は受講者の関心や、関係する出来事の発生等にあわせて変更することがあります。

授業科目名（科目の英文名）
里海と里山Ⅰ （The Relationship between the Coastal Sea and the Country-side）

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・ 医・工	前期	集中	川野田實夫、市原宏一、前田寛、本谷るり、芝原雅彦、大上和敏、岡田正彦 内 線 7719 E-mail ich@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

九重飯田高原で合宿授業により、大分県中山間地での生物の現状と環境の関連を理解するとともに、そこで生活する人々との交流を通じて，地域づくりや地球規模での共生社会について実態的に理解を深めます。さらに体験活動、地域における交流や活動支援、集団学習の体験を通じて、学生相互に，また地域の人々と共に学びあいます。

【具体的な到達目標】

1. 自然と他者との共生、循環型社会、持続可能な社会など基礎的知識を習得するとともに、専門学習を深めるきっかけとします。
2. グループ・集団での学習・生活、地域の人々との交流により、学園・社会生活上の基本的な関係のあり方も学びます。
3. 自然保護活動や調査活動の体験を通じて、身近な自然に対する「認識」や「発見」を促し、「自ら考える」「自ら知る」事の経験をします。

【授業の内容】

1-4：ガイダンス事前指導（大分大学）
5-9：九重青少年自然の家合宿第一日目
午前：9時半大分大学→九重・オリエンテーション
午後：講義、体験ゲーム・自然保護ゲーム
夜：地元有機農業についての講義
10-12：合宿第二日目
午前・午後：自然保護・野外調査体験ウォークラリー（水質・植物小動物捕獲等）
夜：グループ・個人ふり返りと共有
13-15：合宿第三日目
午前：小動物捕獲体験・観察・外来種駆除体験活動
午後：ふり返りグループワーク・グループ発表
九重→18時大分大学

【時間外学習】

【教科書】

特にありませんが、授業で資料を配付します。

【参考書】

【成績評価の方法及び評価割合】

授業・体験活動における取り組み状況（各授業や体験活動での発言など参加態度とレポート）

【注意事項】

合宿実習を中心に、里山での自然観察、環境調査、野外実習など体験活動に大きな比重があります。このため、二泊三日の合宿のための個人負担（保険料等を含む）五千円程度を必要とします。

【備考】

履修登録と事前ガイダンスは夏休み直前（７月）、合宿授業は夏休み（９月初旬予定）となります、履修案内の掲示（６月）に注意してください。

授業科目名（科目の英文名）
環境と生物 （Environmental threats and Ecology）

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経	後期	月2	永野 昌博 内 線 7576 E-mail masanagano@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

自分自身の毎日の生活を見直し、自分と環境のつながり、環境と生き物のつながりを生態学（エコロジー）というキーワードで認識する。その上で、地球（グローバルな）環境問題を地域（ローカルな）視点、生き物の視点で捉える力を身につけてもらう。

【具体的な到達目標】

・地球規模の環境問題と自分の生活、暮らしている地域、将来就く仕事とを結び付けて考える広い視野をもつ。
・身近に起きている小さな環境問題に関心を抱き、それを地球規模の環境問題として捉える視点をもつ。
・環境問題を生態学的見地から分析し、それを他者に説明することができる力を身につける。

【授業の内容】

１．環境問題を考えみよう～地球規模、地域規模、自分規模の環境問題～
２．健全な環境とは～生態系の概念～
３．空気と水と土の物質循環
４．土壌生物と環境
５．陸上生物と環境
６．水生生物と環境
７．都市環境と生物
８．里山環境と生物
９．地球温暖化と生物
１０．環境変化と生物多様性
１１．環境変化と地域社会
１２．環境変化と産業
１３．持続的な環境の保全を目指して
１４．環境と生き物のためできることを考えてみよう
１５．まとめ
１６．試験

【時間外学習】

新聞等を読み、環境や生物の現状の把握に心がける。

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

特に指定しない。
講義の中で随時紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】

試験６０％　レポート４０％

【注意事項】

【備考】

後・月

授業科目名（科目の英文名）
化学物質と環境影響 (Ecotoxicology)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1・2 3・4	教・工	後期	火1	吉岡義正 内 線 7631 E-mail yoshioka@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
"地球にやさしい"といった標語に含まれる意味を冷静・厳格に理解し、やさしくあるために必要な環境破壊のメカニズムに対する科学的な知識を習得する。更に、化学物質による環境影響を数値化・評価して，地球生態系を保全するための基礎知識や技術を学ぶ。

【具体的な到達目標】
1 人類の課題の概要を説明できる。
2 化学物質による環境問題の現況を説明できる
3 化学物質による影響の評価法について説明できる
4 現在の化学物質規制について説明できる

【授業の内容】
1. 人類の問題：歴史的展開(地球誕生)
2. 人類の問題：歴史的展開(生命)
3. 人類の問題：人・食糧
4. 人類の問題：資源・環境
5. 化学物質の環境影響事例：ダイオキシン
6. 化学物質と環境影響事例：内分泌攪乱化学物質
7. 環境倫理：全体主義と世代間倫理
8. 環境倫理：自然の生存権
9. 環境問題の基礎：生態系のルールー
10. リスクの考え方
11. リスクアセスメント・リスクマネジメント
12. 生態影響評価システム
13. 生物試験法(PEC, PNEC)
14. 生態影響評価法
15. 社会的制度及びまとめ
16. 試験

【時間外学習】
配布されたプリントは事前に読んでおくこと。特に化学物質が関与する環境問題に係わる新聞報道等に留意すること。

【教科書】
必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】
1. 環境庁(編) 環境白書（総説）大蔵省印刷局，２. 保田仁資，やさしい環境科学 化学同人，３．加藤尚武，環境倫理学のすすめ，丸善ライブラリー，４．若林明子，化学物質と生態毒性，丸善

【成績評価の方法及び評価割合】
試験100%，試験は，主に記述形式で実施する。

【注意事項】
６回以上休んだものは受験資格を失う。

【備考】
化学の知識（化学物質の名称・構造・性質）を特に必要としない。環境保全に興味を持つ学生を歓迎する。

授業科目名（科目の英文名）
交通からみた地域社会 (Research on Regional Issues about Transportation)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・医・工	後期	水1	大井　尚司 内 線 7697 E-mail　ooi-hisashi@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

１年生も受ける教養（共通）教育科目として開講されていることを意識し、地域・社会の問題としても身近な交通の問題を話題にして、地域・社会に問題の考え方に関する基礎情報と、交通の問題に関する基礎情報を提供することで、交通問題の地域における重要性と、地域における交通に関連した問題を考えるひとつのきっかけ作りをすることを狙いとしています。

【具体的な到達目標】

地域の交通に関する問題を考える上で重要なポイントとして、（１）地域で起きている交通問題の実態を正確に把握すること、（２）他の社会問題・政策との関係などについても理解すること、（３）現状や政策を理解するためのツールを理解すること、があります。

本講義では（３）はデータの読み方等の一部を取り上げることにとどめ、主に（１）・（２）についての情報提供を行うことで、地域・交通問題をより深く理解し、本講義の知識をきっかけに自身に関連する問題として自らの考えを持つことを到達目標とします。

【授業の内容】

１．イントロダクション
２．「地域」の現状（全国、九州、大分の現状把握＝交通について）
３．「地域」をどうやってみるか（データの取り方・見方、必要な学問）
４．交通の特徴について（需要面、供給面）
５．地域社会の抱える問題と交通のつながり（１）地方部・過疎地
６．地域社会の抱える問題と交通のつながり（２）商業
７．地域社会の抱える問題と交通のつながり（３）都市・団地
８．地域社会の抱える問題と交通のつながり（４）高速道路無料化
９．（予定）映像教材放映（レポート）＋進度調整
10．地域社会の抱える問題と交通のつながり（５）高速鉄道の整備
11．地域社会の抱える問題と交通のつながり（６）空港の整備
12．地域社会の抱える問題と交通のつながり（７）観光と交通
13．地域社会の抱える問題と交通のつながり（８）交通企業の経営
14．地域社会の抱える問題と交通のつながり（９）制度と組織
15．まとめ

【時間外学習】

日ごろから新聞や雑誌記事の交通に関する問題に注目しておいてください。
交通関係で卒業研究や大学院進学を考えている人は、今後関連の講義（交通論、公共経済学、地域政策、交通計画など）を受講することを薦めます。

【教科書】

使用しません（適切な書物がないため、資料を配布します）。
講義資料の再配布や、オンライン掲載はしません。

【参考書】

初回に配布するコースシラバス、また講義中に随時紹介します。
現状の理解として、さしあたり以下の書物を紹介しておきます。
国土交通省『国土交通白書』各年版
（財）運輸政策研究機構『地域交通年報』各年版

【成績評価の方法及び評価割合】

映像教材放映時のレポート（50％：出席率６割未満の場合は半分に減点）、学期末試験（論述形式含む）（50％）

【注意事項】

（１）双方向性確保のためミニッツペーパーで感想や質問等に対応し、出席はこれでとります。
（２）１５分以上の遅刻は欠席扱いとします（学校の認める「公欠」事例を除く）。
（３）出席率が６割未満の場合は、ペナルティとしてレポート点を半分に減点します。レポート未提出者の成績は不可とし、救済措置も行いません。

【備考】

１回目の講義で、成績評価・講義内容・進め方等に関する詳細なコースシラバスを配布します。

授業科目名（科目の英文名）
大分の水 II (Water environment in Oita II)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・医・工	後期	水2	川野田實夫、市原宏一、前田寛、本谷るり、芝原雅彦、大上和敏、岡田正彦 内 線 7719 E-mail ich@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

地域の水辺から大分県、さらにアジア・太平洋地域にまで視野を広げ、地球規模での共生社会について実態的に理解を深めます。同時に、自然環境や実際に生活する人々との交流、流域での野外体験と、教室での授業を通じて、地域環境や地域づくりについての考察も深めます。また、野外実習や地域諸行事への参加による集団学習の体験を通じて、学生相互さらには地域の人々と共に学びあいます。

【具体的な到達目標】

1. 地域から地球規模に及ぶ、自然と他者との共生、循環型社会、持続可能な社会など基礎的知識を習得するとと もに、専門学習を深めるきっかけとします。
2. グループ・集団での学習・生活など大学における基盤的な勉強法の習得をめざします。
3. 地域の人々との交流により社会生活上の基本的な関係のあり方も学びます。

【授業の内容】

第１回 ガイダンス
第２回 水と環境（1）（担当・川野）
第３回 里山の環境となりわい（担当・市原）
第４回 地域体験活動：稲刈り等九重飯田地区
第５回 地域体験活動：稲刈り等竹田岡本地区
第６回 地域体験活動：稲刈り等安心院
第７回 水辺のレジャー（担当・前田）
第８回 ビーチクリーン：大分市こうざき
第９回　水と地球環境（2）（担当・川野）
第１０・１１回 特別講義：おおいた水フォーラム
第１２回 地域体験活動：里山の自然観察バードウォッチング豊後大野市
第１３回 大分の水辺環境史（担当・市原）
第１４回 ゼロエミッションコンセプトからとらえる水環境（担当・大上）
第１５回 まとめ
試験

【時間外学習】

実際に水辺で、生業体験や自然観察、水質調査、流域保全活動など様々な野外実習を行います。

【教科書】

授業中に資料を配付します

【参考書】

【成績評価の方法及び評価割合】

試験（30%）、講義・体験活動参加に際しての小レポート（70%）

【注意事項】

野外体験実習や行事参加など教室外・通常時間外の授業に大きな比重があります。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
土地利用論 (Introduction to Land-use Study)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・医・工	後期	水3	土居　晴洋 内 線 7549 E-mail　hdoi@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

土地利用の概念や解析手法について理解を深めるとともに，地球環境研究における土地利用研究の位置付けとその意義，さらに世界各地の土地利用およびその変化の実態を事例として，そのような土地利用変化を引き起こすドライビングフォースを探る。

【具体的な到達目標】

1　土地利用を客観的に観察し，認識する力を養う。
2　土地利用の分析手法を理解し，利用することができる。
3　現代社会の実態や変化を，土地利用をキーワードにして理解することができる。

【授業の内容】

1　イントロダクション（土地利用を考える意味）
2　土地利用の概念と諸特性
3　環境研究としての土地利用研究
4　土地利用データの諸問題
5　土地利用データの取得方法
6　土地利用データの分析手法
7　土地利用図の作成（準備作業）
8　土地利用図の作成（屋内作業）
9　土地利用図の作成（野外作業）
10　土地利用図の考察
11　人口増加と土地利用変化
12　経済発展と土地利用変化
13　都市地域の土地利用変化
14　農村地域の土地利用変化
15　土地利用の変化と21世紀の世界

【時間外学習】

適宜課題を課すので，期限内に提出する。また，日常生活の中で，講義の内容を確認する努力を行う。

【教科書】

なし

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】

期末試験　50%，平常点　20%，課題レポート　30%

【注意事項】

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
里海と里山Ⅱ （The Relationship between the Coastal Sea and the Country-side）

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・医・工	後期	集中	川野田實夫、市原宏一、前田寛、本谷るり、芝原雅彦、大上和敏、岡田正彦 内 線 7719 E-mail ich@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

大分県沿岸の里海の現状と，内陸の緑地環境の関連を理解するとともに，自然環境やそこで生活する人々との交流を通じて，地域づくりや地球規模での共生社会について実態的に理解を深めます。さらに海辺、里山など地域における交流や活動支援、集団学習の体験を通じて、学生相互に，また地域の人々と共に学びあいます。

【具体的な到達目標】

1. 自然と他者との共生、循環型社会、持続可能な社会など基礎的知識を習得するとともに、専門学習を深めるきっかけとします。
2. グループ・集団での学習・生活など大学における基盤的な勉強法の習得をめざします。
3. 地域の人々との交流により社会生活上の基本的な関係のあり方も学びます。

【授業の内容】

1　　ガイダンス（大分大学）
2～4　特別講義：おおいた学生水フォーラム（大分市内）　2月上旬
5～8　講義：里海と里山の関係とそれぞれの地域づくり　2月中旬
9～13　合宿による地域体験実習と里山自然観察（豊後大野市）２月下旬
午前：9時半大分大学→九重・オリエンテーション
午後：講義、体験ゲーム・自然保護ゲーム
夜：地元有機農業についての講義
10-12：合宿第二日目
午前・午後：自然保護・野外調査体験ウォークラリー（水質・植物小動物捕獲等）
午後：ふり返りグループワーク・グループ発表
九重→18時大分大学
14～15　水辺自然観察と特別講義（大分市こうざき）２月下旬

【時間外学習】

実際に川辺・海浜で、生業体験、水質調査、流域保全活動など様々な野外体験活動を行います。したがって、通常の授業日以外に、主に土日が予定されています。

【教科書】

講義中に配布します

【参考書】

【成績評価の方法及び評価割合】

試験（30%）、講義・体験活動参加に際しての小レポート（70%）

【注意事項】

合宿授業を含め学外での地域体験活動（生業体験、自然観察、フォーラム参画）に比重があります。このため、二泊三日の合宿のための個人負担（保険料等を含む）数千円程度を必要とします。

【備考】

履修登録と事前ガイダンスは春休み直前、合宿授業を含む日程は春休み中（２月中下旬）となります、履修案内の掲示（１月）に注意してください。

授業科目名（科目の英文名）
食と農の地理学 (Geography of Food and Agriculture)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経 医・工	前期	水1	大呂　興平 内線 E-mail

【授業のねらい】
私たちの食生活，世界の食料問題，日本の農業・農村問題．これらは全てが結びつき，さまざまな地域の社会や経済と深く関わり人々の暮らしに大きなインパクトを与えています．本授業は，こうした問題を地理学的・経済学的視点から考察し，問題の構図を大局的に俯瞰できるようになることを目指します。

【具体的な到達目標】
日々の食事や身近な農村のことから，世界の食料貿易や日本の農業・農村問題のことに考えをめぐらせ，大局的な視点からそれらを理解できるようになる。

【授業の内容】
1．イントロダクション
2．農業という産業，食料という商品，食べるという行為
3．経済発展と食料消費の変化
4．グローバル化する食文化
5．世界の食料生産・貿易のパターン
6．農産物貿易をめぐる国際政治
7．新大陸国家の農業構造と貿易
8．EU諸国の農業構造と貿易
9．東アジアの農業構造と貿易
10．途上国の貧困と食料・農業問題
11．食糧自給率をめぐる議論
12．日本の農産物輸入の変遷
13．日本農業の構造と地域
14．農業政策の論理と課題
15．総括
なお，講義の内容および順番は変更になる場合があります。

【時間外学習】
授業では，毎回関連する参考書を紹介するので，それらを自主的に読むことを勧めます。

【教科書】
特に指定しません。

【参考書】
授業で適宜紹介します。

【成績評価の方法及び評価割合】
小テストもしくはレポート30%，学期末試験　70%．より具体的には第1回目の授業で説明します。

【注意事項】
講義内容の充実を図るため，毎回の講義で内容への感想，意見等を提出して頂くことを予定しています。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
財務諸表の読み方 （Reading of Financial Statements）	全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経 医・工	後期	水1	越智　学 内線 E-mail

【授業のねらい】
就職活動，ビジネス，資産運用（株式投資）など，大学生や社会人になると，自分と利害関係のある企業の情報を理解し，意思決定を行うことが求められるようになります。そこで役に立つのが，企業の膨大な活動が要約された財務諸表です。本講義では，財務諸表の基本的な読み方を学習し，そこから見える企業の姿を理解できるようになることを目的とします。また，財務諸表を利用して適切な意思決定を行うためには，財務諸表の質（信頼性）に関する監査人のメッセージが記載された監査報告書の理解が不可欠です。講義の後半では，監査報告書の読み方についても学習します。

【具体的な到達目標】
財務諸表と監査報告書の基本的な読み方を習得し，財務諸表情報から見える企業の特徴や，監査報告書に記載された監査人のメッセージに関して簡単な説明ができるようになることを到達目標とします。

【授業の内容】
第1回　オリエンテーション：講義の概要と目的
第2回　企業の活動と企業情報の種類
第3回　会計の役割
第4回　財務諸表の構造
第5回　損益計算書
第6回　貸借対照表（1）：資産
第7回　貸借対照表（2）：負債と資本
第8回　キャッシュ・フロー計算書
第9回　その他の情報と財務諸表の限界
第10回　監査の役割
第11回　監査報告書の構造
第12回　導入区分と範囲区分：監査人の責任，監査の性質と限界，合理的な基礎
第13回　意見区分：監査意見の種類と意味
第14回　追記情報：監査人の情報提供機能
第15回　まとめ

【時間外学習】
新聞や経済誌などを読み，会計および監査に関する情報に触れるようにしてください。

【教科書】
指定しない。適宜資料を配布します。

【参考書】
伊藤邦雄『ゼミナール現代会計入門』日本経済新聞出版社。
山浦久司『監査論テキスト』中央経済社。
その他の参考書については，適宜紹介します。

【成績評価の方法及び評価割合】
定期試験（70%），課題レポート（30%）で総合的に評価します。

【注意事項】
「財務諸表（監査報告書）って何？」という初学者向けの講義を想定しています。

【備考】
講義中に電卓を使うことがあります。詳しくは第1回の講義で説明します

授業科目名（科目の英文名）
日本のニュースメディアとグローバライゼーション (The Japanese News Media and Globalism)

区分・分野・コア
短期留学プログラム科目

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・工	前期	月2	南里　敬三 内 線 7635 E-mail　keizo-nanri@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
このコースはメディア・リテラシーを高めることを目的とする。焦点があてられるメディアは新聞および通信社。

【具体的な到達目標】
授業はすべて英語で行われる。（1）日本のメディア構造の特色を知る。（2）新聞社の内部構造を知る。（特に社会部と政治部の関係。）（3）新聞のサポート体制がどのようなものなのかを知る。（4）上記4点を熟知した上で報道のバイアスが具体的にどのような形で表れるのかを知る。

【授業の内容】
1．メディア産業の構造（新聞中心の構造）。
2．再販売制度並びに新聞配達制度の長所と短所。
3．押し紙。
4．社会部記者と冤罪事件。
5．政治部記者と政治家の関係。
6．世界を構築する通信社と国益。

【時間外学習】

【教科書】
授業でプリント配布。

【参考書】
授業でプリント配布。

【成績評価の方法及び評価割合】
小さなプレゼン（2回）30%、研究発表（2回）40%、筆記試験30%。

【注意事項】
授業でのディスカッション（英語）に積極的に参加すること。課題等も全て英語で提出のこと。なお、英語でのレポートの書き方、プレゼンの仕方がわからない生徒は南里研究室まで相談に来ること。出席回数が全体の70%に満たなければ筆記試験を受けられない。

【備考】
聴講希望の学生も全ての課題をこなすこと。

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
日本ポピュラー・カルチャー論 B： マンガ・アニメ・マスメディア (Japanese Popular Culture B: (Manga, Animation and Mass Media))	短期留学プログラム科目

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・工	前期	火3	長池　一美 内 線 7953 E-mail　nagaike@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

The contemporary debate about Japanese popular culture has provided various important perspectives from which to deal with

questions concerning Japanese society and culture. In this course, we will examine a variety of Japanese popular cultural materi

als-e.g. manga comic books, Japanimation

(Japanese animations), magazines, pop music, et cetera, and discuss the impact of these genres within both the Japanese

【具体的な到達目標】

【授業の内容】

(Tentative Schedule)

1) Introduction to Japanese Popular Culture: Issues of Media Literacy and Otaku
2) Ukiyoe: Pre-modern Japanese Popular Culture
3-6) Manga (e.g. Shonen manga, Shojo manga, Ladies' Comics, Yaoi manga, etc)
7) Japanese Popular Culture and Censorship
8-9) Animation (e.g. "Ghost in the Shell, "Sailor Moon, etc)
10) Japanese "Soft Power"
11) Magazines
12) Japanese Pop Music
13-15) Group Project

【時間外学習】

【教科書】

To be prepared and provided by Lecturer.

【参考書】

To be provided by Lecturer.

【成績評価の方法及び評価割合】

Participation: 30%
Group Project: 30%
Examination: 40%

【注意事項】

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
Understanding Japanese Cybercultures (Understanding Japanese Cybercultures)

区分・分野・コア
短期留学プログラム科目

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・工	前期	水3	菅沼 勝彦 内 線 7634 E-mail

【授業のねらい】

This course examines Japanese cybercultures with a particular emphasis on the Internet and other digital communication technology. The specific focus of this course is on how cyber-technology, such as the Internet, has shaped and reshaped the construction of Japanese society, culture, and history, especially among the youth. Students will be asked to make a close examination of Japanese cybercultures with reference to a variety of topics such as politics, history, gender, sexuality, ethnicity, literature, and the economy. In addition, this course also provides a general introduction to key theoretical frameworks in the study of cybercultures.

【具体的な到達目標】

【授業の内容】

Part I
Introduction to Cyberculture & Internet Studies
Overview on Japanese Cybercultures
Individualising the self on the Internet
Part II
Japanese tradition and the Internet (e.g. emoticons, kaomoji)
Politics and the Internet (e.g. political use of the cyberspace)
Sexuality and the Internet
Gender and the Internet
Part III
Mobile-phone Communication (e.g. 'subsidised dating', enjo kō sai)
Race & Ethnicity and the Internet
Re-telling History on the Internet (e.g. historical debates on Ni-channel)
Literature and Cyber-technology
(I)mobility in the Internet Age (e.g. net cafe)
Isolation and Community Building (e.g. mixi)
Internet Activism

【時間外学習】

【教科書】

To be prepared and provided by Lecturer.

【参考書】

Students who wish to complete some background reading should consult the following text. Gottlieb, N. and McLelland, M. eds. Japanese Cybercultures, London and New York: Routledge, 2003.

【成績評価の方法及び評価割合】

Attendance and Participation: 30% Presentation: 30% Examination: 40%

【注意事項】

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
異文化コミュニケーション (Intercultural Communication)

区分・分野・コア
短期留学プログラム科目

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・工	前期	水4	長池一美(国際教育研究センター) 内 線 7953 E-mail

【授業のねらい】

Exploring new types of knowledge and analyzing thestructures of cultural activities are both required, in order to enchance cross-cultural communication in this contemporary era of internationalization. In this course, we will attempt to understand the kinds of ideological conceptwhich are required to cultivate intercultural communication; this will mainly involve discussing such issues as Japanese ways of thinking, the structure of Japanese society, globalization, multiculturalism, and so forth.

【具体的な到達目標】

【授業の内容】

(Tentative Schedule)

1) Introduction and Orientation

2) What is Intercultural Communication?

3-5) The Analysis of Japanese Society and the Psychology of Japanese People (honne and tatemae, uchi and soto, giri, shudanishiki, zoto, senpai and kohai, amae, etc)

6) Gesture and Non-Verbal Communication

7) Orientalism and Techno-Orientalism (e.g. the analysis of Hollywood Movies)

8) Nationalism and Imagined Community (e.g. the analysis of the movie titled The Great Wall)

9) Multiculturalism (e.g. issues of Ainu people)

10) Communication and Mass Media (e.g. stereotypical images of foreigners in Japanese mass media)

11) Culture Shock

12-13) Japan in Asia and in the World (e.g. issues of Yasukuni Shrine)

14-15) Group Project

【時間外学習】

【教科書】

To be prepared and provided by Lecturer.

【参考書】

To be provided by Lecturer.

【成績評価の方法及び評価割合】

Participation: 30%

Presentation: 30%

Examination: 40%

【注意事項】

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
Japanese Cultural Studies (Japanese Cultural Studies)

区分・分野・コア
短期留学プログラム科目

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教、経、工	前期	木3	菅沼 勝彦 内 線 7634 E-mail

【授業のねらい】

This course looks at Japan's interaction with globalisation as expressed in Japanese (sub-)cultures. It explores the ways in which Japan has constructed its own identity in relation to the force of globalisation in a variety of (sub-)cultural genres including films, literature, and other forms of media. Students will be asked to make a close examination of numerous cultural phenomena with reference to a variety of topics such as Japanese history, gender, ethnicity, nationality, economy, and cross-cultural communication. This course also offers students an introduction to key concepts and theories used in the field of cultural studies.

【具体的な到達目標】

【授業の内容】

Part I
Introduction to Cultural Studies
Overview on Japanese Cultural Studies
Japan and Foreign = Self and Other
Part II
Modern Girls/Moga and Tanizaki Junichirō
Orientalism and Occidentalism
American Hijiki and Nosaka Akiyuki
Hollywood fantasy about the East in 'Last Samurai'
Part III
'Yellow Fever' and Interracial Intimacy
Construction of Japanese Race
Perverse Japan and Japanese pornography
Japan's Images in Asia
'Blackness' in Japanese Society
Non-Japanese Living in Japan and the movie 'Go'
Modern Love and Post-modern Love (e.g. Yoshimoto Banana's literature)

【時間外学習】

【教科書】

To be prepared and provided by Lecturer.

【参考書】

【成績評価の方法及び評価割合】

Attendance and Participation: 30% Presentation: 30% Essay: 40%

【注意事項】

【備考】

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
ＥＵの政治経済 (The Politics and Economics of the EU)	短期留学プログラム科目

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1.2.3.4	教・経・工	前期	木3	デイ スティーブン 内 線 6676 E-mail srday@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

· To provide learners with an in-depth understanding of the organizational development of the European Union, its key institutions and a selection of EU policies.

【具体的な到達目標】

· To nurture an awareness of the contemporary and historical developments associated with the European Union (EU).

· To enable recognition of the roles played by the various institutional actors and the way that they have to work with each other to ensure that the EU works

【授業の内容】

Introductory Overview

1. The Politics and Economics of the EU - introductory remarks
2. European Integration - an historical overview (I)
3. European Integration - an historical overview (II)
4. EU Enlargement

EU Institutions

5. The European Commission, European Council and Council of Ministers
6. The UK and the EU
7. The European Parliament & 2009 European Parliamentary Elections
8. Mid-term exam

EU Policies

9. The Single Market
10. The Single Currency
11. The Common Agricultural Policy (CAP)
12. The Common Foreign and Security Policy (CFSP)
13. European Citizenship
14. Concluding Overview
15. Powerpoint presentations
16. Final Exam

【時間外学習】

Students will be assigned homework on an occasional basis to compliment and consolidate the material covered in class

【教科書】

John Pinder and Simon Usherwood - The European Union: a very short introduction, Oxford: Oxford University Press, (2nd edition) 2007.

【参考書】

Additional material will be provided in class

【成績評価の方法及び評価割合】

1. Final exam (25 per cent)
2. Small-group based presentation (25 per cent)
3. Mid-term exam (25 per cent)
4. Class-based quizzes and worksheets (25 per cent)

【注意事項】

The determination to study the European Union (EU) via English language and a willingness to participate in classroom based activities

【備考】

Preparatory reading prior to some classes so as to facilitate discussion. We will make use of newspaper, academic journals, video and web-based material.

授業科目名（科目の英文名）
日本文法とディスコース (Japanese Grammar and Discourse)

区分・分野・コア
短期留学プログラム科目

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・工	前期	金3	南里　敬三 内 線 7635 E-mail

【授業のねらい】

本講義の目的は、日本語の特徴を語彙文法、談話構成の二つの視点から眺め、その鳥瞰図を取ることにある。語彙文法では格助詞、動詞群の構造に焦点を当て、談話構成では係助詞「は」の機能、および、修辞構造に焦点を当てる。曖昧だといわれている日本語には曖昧なりの論理が存在していることを確かめる。

【具体的な到達目標】

1. 格助詞の基本的機能を理解し、日本語の基本文型がどのようなものであるかを知る。
2. 動詞群にはどのような情報がどのような順番で組み込まれているかを確かめる。
3. 日本人のしゃべりかたまたは文章の作り方にどのようなパターンがあるかを知る。

【授業の内容】

授業はすべて英語で行われる。

1. オリエンテーション、日本語概観。
2. 日本語の品詞、その見分け方と機能。
3. システミック理論の三つの視点、および、経験文法からみた日本語の鳥瞰図。
4. 行動節と行動節の特徴。
5. 関係節、言動・心理節の特徴。
6. 対人関係機能の具現と動詞群の構造。
7. 「は」の機能、修辞構造、文化。

【時間外学習】

【教科書】

授業でプリントを配布する。

【参考書】

授業でプリントを配布する。

【成績評価の方法及び評価割合】

クイズ15%，研究レポート（A4で１枚全8回）15%、発表2回10分～15分程度40%，筆記試験30%。

【注意事項】

授業でのディスカッション（英語）に積極的に参加すること。課題等も全て英語で提出のこと。なお、英語でのレポートの書き方、プレゼンの仕方がわからない生徒は南里研究室まで相談に来ること。出席回数が全体の70%に満たなければ筆記試験を受けられない。

【備考】

聴講希望の学生も全ての課題をこなすこと。

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
日本のニュースメディアとグローバライゼーション (The Japanese News Media and Globalism)	短期留学プログラム科目

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・工	後期	月2	南里　敬三 内 線 7635 E-mail　keizo-nanri@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
このコースはメディア・リテラシーを高めることを目的とする。焦点があてられるメディアは新聞および通信社。

【具体的な到達目標】
授業はすべて英語で行われる。（1）日本のメディア構造の特色を知る。（2）新聞社の内部構造を知る。（特に社会部と政治部の関係。）（3）新聞のサポート体制がどのようなものなのかを知る。（4）上記4点を熟知した上で報道のバイアスが具体的にどのような形で表れるのかを知る。

【授業の内容】
1．メディア産業の構造（新聞中心の構造）。
2．再販売制度並びに新聞配達制度の長所と短所。
3．押し紙。
4．社会部記者と冤罪事件。
5．政治部記者と政治家の関係。
6．世界を構築する通信社と国益。

【時間外学習】

【教科書】
授業でプリント配布。

【参考書】
授業でプリント配布。

【成績評価の方法及び評価割合】
小さなプレゼン（2回）30%、研究発表（2回）40%、筆記試験30%。

【注意事項】
授業でのディスカッション（英語）に積極的に参加すること。課題等も全て英語で提出のこと。なお、英語でのレポートの書き方、プレゼンの仕方がわからない生徒は南里研究室まで相談に来ること。出席回数が全体の70%に満たなければ筆記試験を受けられない。

【備考】
聴講希望の学生も全ての課題をこなすこと。

授業科目名（科目の英文名）
Japanese Cultural Studies (Japanese Cultural Studies)

区分・分野・コア
短期留学プログラム

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4 ,	教・経・工	後期	火4	菅沼 勝彦 内 線 7634 E-mail

【授業のねらい】

This course looks at Japan's interaction with globalisation as expressed in Japanese (sub-)cultures. It explores the ways in which Japan has constructed its own identity in relation to the force of globalisation in a variety of (sub-)cultural genres including films, literature, and other forms of media. Students will be asked to make a close examination of numerous cultural phenomena with reference to a variety of topics such as Japanese history, gender, ethnicity, nationality, economy, and cross-cultural communication. This course also offers students an introduction to key concepts and theories used in the field of cultural studies.

【具体的な到達目標】

【授業の内容】

Part I
Introduction to Cultural Studies
Overview on Japanese Cultural Studies
Japan and Foreign = Self and Other
Part II
Modern Girls/Moga and Tanizaki Junichirō
Orientalism and Occidentalism
American Hijiki and Nosaka Akiyuki
Hollywood fantasy about the East in 'Last Samurai'
Part III
'Yellow Fever' and Interracial Intimacy
Construction of Japanese Race
Perverse Japan and Japanese pornography
Japan's Images in Asia
'Blackness' in Japanese Society
Non-Japanese Living in Japan and the movie 'Go'
Modern Love and Post-modern Love (e.g. Yoshimoto Banana's literature)

【時間外学習】

【教科書】

To be prepared and provided by Lecturer.

【参考書】

【成績評価の方法及び評価割合】

Attendance and Participation: 30% Presentation: 30% Essay: 40%

【注意事項】

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
異文化コミュニケーション (Intercultural Communication)

区分・分野・コア
短期留学プログラム科目

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・工	後期	火3	長池　一美(国際教育研究センター) 内 線 7953 E-mail　nagaike@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

Exploring new types of knowledge and analyzing the structures of cultural activities are both required, in order to enchance cross-cultural communication in this contemporary era of internationalization. In this course, we will attempt to understand the kinds of ideological concept which are required to cultivate intercultural communication; this will mainly involve discussing such issues as Japanese ways of thinking, the structure of Japanese society, globalization, multiculturalism, and so forth.

【具体的な到達目標】

【授業の内容】

(Tentative Schedule)

1) Introduction and Orientation

2) What is Intercultural Communication?

3-5) The Analysis of Japanese Society and the Psychology of Japanese People (honne and tatemae, uchi and soto, giri, shudanishiki, zoto, senpai and kohai, amae, etc)

6) Gesture and Non-Verbal Communication

7) Orientalism and Techno-Orientalism (e.g. the analysis of Hollywood Movies)

8) Nationalism and Imagined Community (e.g. the analysis of the movie titled The Great Wall)

9) Multiculturalism (e.g. issues of Ainu people)

10) Communication and Mass Media (e.g. stereotypical images of foreigners in Japanese mass media)

11) Culture Shock

12-13) Japan in Asia and in the World (e.g. issues of Yasukuni Shrine)

14-15) Group Project

【時間外学習】

【教科書】

To be prepared and provided by Lecturer.

【参考書】

To be provided by Lecturer.

【成績評価の方法及び評価割合】

Participation: 30%

Presentation: 30%

Examination: 40%

【注意事項】

【備考】

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
グローバル化と政治経済 (The Politics and Economics of Globalization)	短期留学プログラム科目

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教･経･工	後期	木3	デイ スティーブン 内 線 6676 E-mail srday@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

・ To provide learners with an understanding of globalization from a political and economic perspective

【具体的な到達目標】

・ To familiarize learners with the key debates and a sense of the impact of globalization

・ To enable learners to evaluate and comment on issues such as neo-liberalism, income inequality, BRICs and the role and significance of global institutions such as the IMF and the WTO.

【授業の内容】

Introductory Overview

1. The Politics and Economics of Globalization - introductory remarks
2. Thinking About Globalization (I)
3. Thinking About Globalization (II)

Setting the Context

4. Constructing the economic and political order post 1945
5. Constructing the economic and political order post 1945 (II)
6. Remembering the Cold War
7. Remembering the Cold War (II)
8. Mid-term Exam

Key Issues

9. The Impact of Globalization (I)
10. The Impact of Globalization (II)
11. The Forward March of BRICs?
12. Global Institutions (I)
13. Global Institutions (II)
14. Concluding overview
15. Powerpoint presentations
16. Final Exam

【時間外学習】

Students will be assigned homework on an occasional basis to compliment and consolidate the material covered in class

【教科書】

Manfred B. Steger, Globalization: A very Short Introduction, Oxford: Oxford University Press, 2nd edition, 2009

【参考書】

additional material will be provided in class

【成績評価の方法及び評価割合】

1. Final exam (25 per cent)
2. Small-group based presentation (25 per cent)
3. Mid-term exam (25 per cent)
4. Class-based quizzes and worksheets (25 per cent)

【注意事項】

The determination to study via English language and a willingness to participate in classroom based activities

【備考】

Preparatory reading prior to some classes so as to facilitate discussion. We will make use of newspaper, academic journals, video and web-based material.

授業科目名（科目の英文名）	区分・分野・コア
Understanding Japanese Cybercultures (Understanding Japanese Cybercultures)	短期留学プログラム科目

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・工	後期	木4	菅沼 勝彦 内 線 7634 E-mail

【授業のねらい】

This course examines Japanese cybercultures with a particular emphasis on the Internet and other digital communication technology.

The specific focus of this course is on how cyber-technology, such as the Internet, has shaped and reshaped the construction of Japanese society, culture, and history, especially among the youth. Students will be asked to make a close examination ofJapanese cybercultures with reference to a variety of topics such as politics, history, gender, sexuality, ethnicity, literature, and the economy. In addition, this course also provides a general introduction to key theoretical frameworks in the study of cybercultures.

【具体的な到達目標】

【授業の内容】

Part I

Introduction to Cyberculture & Internet Studies

Overview on Japanese Cybercultures

Individualising the self on the Internet

Part II

Japanese tradition and the Internet (e.g. emoticons, kaomoji)

Politics and the Internet (e.g. political use of the cyberspace)

Sexuality and the Internet

Gender and the Internet

Part III

Mobile-phone Communication (e.g. 'subsidised dating', enjo kō sai)

Race & Ethnicity and the Internet

Re-telling History on the Internet (e.g. historical debates on Ni-channel)

Literature and Cyber-technology

(I)mobility in the Internet Age (e.g. net cafe)

Isolation and Community Building (e.g. mixi)

Internet Activism

【時間外学習】

【教科書】

To be prepared and provided by Lecturer.

【参考書】

Students who wish to complete some background reading should consult the following text. Gottlieb, N. and McLelland, M. eds

. Japanese Cybercultures, London and New York: Routledge, 2003.

【成績評価の方法及び評価割合】

Attendance and Participation: 30% Presentation: 30% Examination: 40%

【注意事項】

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
日本文法とディスコース (Japanese Grammar and Discourse)

区分・分野・コア
短期留学プログラム

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・工	後期	金3	南里　敬三 内 線 7635 E-mail

【授業のねらい】

本講義の目的は、日本語の特徴を語彙文法、談話構成の二つの視点から眺め、その鳥瞰図を取ることにある。語彙文法では格助詞、動詞群の構造に焦点を当て、談話構成では係助詞「は」の機能、および、修辞構造に焦点を当てる。曖昧だといわれている日本語には曖昧なりの論理が存在していることを確かめる。

【具体的な到達目標】

1. 格助詞の基本的機能を理解し、日本語の基本文型がどのようなものであるかを知る。
2. 動詞群にはどのような情報がどのような順番で組み込まれているかを確かめる。
3. 日本人のしゃべりかたまたは文章の作り方にどのようなパターンがあるかを知る。

【授業の内容】

授業はすべて英語で行われる。

1. オリエンテーション、日本語概観。
2. 日本語の品詞、その見分け方と機能。
3. システミック理論の三つの視点、および、経験文法からみた日本語の鳥瞰図。
4. 行動節と行動節の特徴。
5. 関係節、言動・心理節の特徴。
6. 対人関係機能の具現と動詞群の構造。
7. 「は」の機能、修辞構造、文化。

【時間外学習】

【教科書】

授業でプリントを配布する。

【参考書】

授業でプリントを配布する。

【成績評価の方法及び評価割合】

クイズ15%, 研究レポート（A4で１枚全8回）15%、発表2回10分～15分程度40%, 筆記試験30%。

【注意事項】

授業でのディスカッション（英語）に積極的に参加すること。課題等も全て英語で提出のこと。なお、英語でのレポートの書き方、プレゼンの仕方がわからない生徒は南里研究室まで相談に来ること。出席回数が全体の70%に満たなければ筆記試験を受けられない。

【備考】

聴講希望の学生も全ての課題をこなすこと。